

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	生理学入門 (カリキュラム外授業)	-	16	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	中村 浩	生理学Ⅰ、解剖学Ⅰ、Ⅱ、病理学、運動学 他				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 前期	担当教員: 歯科医師です。臨床経験を踏まえ、リハビリテーション医療の専門職として「生理学」が身近に感じられるように、大切なポイントや学び方について学習していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	生理学の学び方と主要なポイントを理解する。					
行動目標(SBO)	生命現象のメカニズムを理解し、授業範囲における専門用語の意味を理解し、					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>人体はどのように造られているのか(形態・構造)を学ぶ科目が「解剖学」、その人体を構成する臓器や器官がどのような仕組みで作用しているのか(役割・機能)を学ぶ科目が「生理学」です。理学療法士・作業療法士にとって、人体の構造と機能を理解することは必須となりますが、ここでは「生理学Ⅰ」で学ぶ内容の一部を取り上げ、重要事項を確認しながら、生理学の学び方や基本を理解していきます。</p> <p>身体全体および各部の役割と機能について関心を持って、前向きに学習することが大切です。</p>						
教科書・参考書						
<p>【教科書】1) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学(医学書院)</p> <p>【その他】2) 系統看護学講座 専門基礎分野1 人体の構造と機能[1]解剖生理学 第11版 医学書院2022</p> <p>3) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版(医学書院) 必要に応じ配布資料有り</p>						
受講時留意点、その他						
<p>理学療法士・作業療法士にとって重要な科目の入門編として開講します。</p> <p>身体を構成する最小単位＝細胞の構造と機能及び身体の諸器官(神経・骨・筋・感覚など)の働きやその仕組みについて学んでいきます。常に問いかける姿勢を忘れずに、関心を持って積極的に授業に参加してください。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験		最終の授業後にまとめの試験を行います。				
小テスト		適宜、必要に応じて行います。				
レポート		予定していません。				
実技試験		なし				
プレゼンテーション		なし				
その他		カリキュラム外授業ですが、真剣に取り組んでください。				
(合計)						

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回 4月4日	身体の階層性 ヒトのからだの成り立ちと、最小単位である細胞の基本構造を学ぶ。 (KW)組織、器官、器官系、細胞小器官、核 ほか	中村浩		配布資料 講堂
第2回 4月4日	神経細胞(ニューロン)の構造と機能:興奮の伝導 (KW)神経細胞、活動電位、跳躍伝導、末梢神経の種類 * 神経による情報の伝導と神経線維の種類について学ぶ	中村浩		配布資料 講堂
第3回 4月11日	細胞の構造と機能 細胞によるエネルギー産生、タンパク質合成を学ぶ (KW)三大栄養素、ミトコンドリア、ATP、核酸、転写 ほか	中村浩		配布資料 講堂
第4回 4月11日	シナプスの構造と興奮の伝達:シナプス伝達 (KW)シナプス、神経伝達物質、興奮性・抑制シナプス * 興奮(情報)伝達のメカニズムについて学ぶ	中村浩		配布資料 講堂
第5回 4月18日	細胞膜の構造と水の出入り 水は細胞内外をどうやって移動するかを学ぶ (KW)資質二重層、細胞内液、細胞外液、浸透圧 ほか	中村浩		配布資料 講堂
第6回 4月18日	中枢神経系の役割・機能①:脊髄・脳幹・小脳 (KW)中枢神経系の構成、脊髄、伝導路、脊髄反射、脳幹、脳神経、協調運動 * 中枢神経系の概要を理解し、脊髄・脳幹・小脳の役割について学ぶ	中村浩		配布資料 講堂
第7回 4月25日	細胞膜の構造と物質の出入り 栄養素などはどうやって細胞内外を移動するかを学ぶ (KW)受容体、チャネル、ポンプ、担体、拡散 ほか	中村浩		配布資料 講堂
第8回 4月25日	中枢神経系の役割・機能②:間脳(視床・視床下部)・大脳・高次脳機能 (KW)間脳・大脳(皮質・基底核・辺縁系)・高次脳機能(記憶・言語・他) * 間脳・大脳の役割と高次脳機能について学ぶ	中村浩		配布資料 講堂
確認試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	PC演習	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	中村直人	情報統計科学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 前期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	理学療法士・作業療法士は、業務の報告や引継ぎのためのワープロソフト、患者の日々の変化を数値化するための表計算ソフト、学会・研究会等の発表に用いるプレゼンテーションソフト等が使えることが必須になってきている。この科目では、これらの基本的な使い方を理解すると同時に、インターネットの仕組みについて理解し、その中で自分自身がどのように振舞わなければならないかについて学ぶ。					
行動目標(SBO)	<ul style="list-style-type: none"> ・本校ポータルサイトのデスクネットςで閲覧板の作成、メールの作成等ができる。 ・インターネットの世界と現実世界は違っているようでそれほど違わないことを理解する。 ・プレゼンテーションソフト(パワーポイント)の基本的な使い方を理解する。 ・ワープロソフト(ワード)の基本的な使い方を理解する。 ・表計算ソフト(エクセル)の基本的な使い方を理解する。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
学生により、ソフトウェア使用の経験が大きく異なるため、場合により個別に補習等を行うことがある。						
教科書・参考書						
特に教科書は使わないが、使い方に関する本はたくさん出版されているので、それらを参考にするのは構わない。						
受講時留意点、その他						
授業の進み具合によっては、内容が変更される場合がある。 授業中にスマートフォン、タブレット等を使用する場合がある。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	成績評価は、授業の中で作成する提出物(プレゼンテーションファイル等)にて行う。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他		授業中の積極的な発言等は、成績に加味する場合がある。 正当でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り・携帯電話の使用・飲食等、不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	デスクネットの使用法Ⅰ ：各人に与えられるデスクネットのアカウントを用いてログイン・ログアウトする方法を学び、基本設定を行う。	中村		204
第2回	デスクネットの使用法Ⅱ ：本項で最も用いられる閲覧板の使用法について理解する。また、メールの使用法について学ぶ。	中村		204
第3回	デスクネットの使用法Ⅲ ：スケジュール機能を使って時間割を作成し、共有する方法を理解する。	中村		204
第4回	インターネットリテラシー ：インターネットの成り立ちとそれを利用していくために心得ておくべきことを理解する。	中村	配布資料	204
第5回	SNS利用の注意点 ：誰もが利用しているSNSについて、個人情報など、医療従事者を志すものが留意すべき事柄を理解する。	中村	配布資料	204
第6回	インターネット上での情報の検索 ：インターネット上の情報がどのように役に立ち、どのように危険かについて理解する。	中村	配布資料	204
第7回	オペレーティングシステム (Windows) の基礎知識 ：コンピュータで、我々が無意識的に使っているオペレーティングシステムがどのようなことをしているかを理解する。	中村		204
第8回	自分をプレゼンしようⅠ ：パワーポイントを使って自己紹介のプレゼンテーションを作成する。	中村		204
第9回	自分をプレゼンしようⅡ ：前回の続き。作成したプレゼンテーションファイルの提出をする。	中村		204
第10回	履歴書を作ろう ：ワードを使って、履歴書を作成し、ファイルを提出する。	中村	配布資料	204
第11回	表計算ソフトは何ができるか ：表計算ソフト (エクセル) の成り立ちと基本的な仕組みについて理解する。	中村		204
第12回	データからグラフを作る ：エクセルを使って、データから様々なグラフを作成し、結果を提出する。	中村		204
第13回	式が使えると色々便利Ⅰ ：セルに式を埋め込み、自動的に計算させる方法について理解する。	中村	配布資料	204
第14回	関数が使えると色々便利Ⅰ ：関数の基本的な考え方について理解する。	中村		204
第15回	関数が使えると色々便利Ⅱ ：関数を使って簡単な統計を行う。	中村		204
定期試験	(提出物により評価を行うため、定期試験は行わない)			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	情報統計科学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	中村直人	PC演習、理学療法研究				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 後期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	アプリケーションの基本的な使い方を理解し、また、生物科学の理論の根拠としての統計学の基礎を学ぶ。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基礎となる概念である、確率、測定尺度、正規分布、等を理解する。 2. 基本的な統計的手法を理解する。 3. 表計算ソフトを用いて統計的検定を行う方法を学ぶ。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
場合により補習等を行うことがある。						
教科書・参考書						
教科書:市原清志/著 バイオサイエンスの統計学 (南江堂)						
受講時留意点、その他						
授業の進み方によっては、内容が変更される場合がある。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	定期試験の成績で評価する。6割以上を合格とする。				
小テスト	0	理解度を確かめるための確認として行う。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他		授業中の積極的な発言等は、成績に加味する場合がある。 正当でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り・携帯電話の使用・飲食等、不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	統計学とは何か (生物科学において、なぜ統計という概念が必要なのか理解する) KW:母集団、標本、分布	中村	p1-7	204
第2回	統計の基礎になる数学 (統計学を理解するために必要な基礎数学について学ぶ) KW:確率、シグマ	中村		204
第3回	尺度と分布 I (統計学を理解するために必要な概念について学ぶ) KW:分類尺度、順序尺度、間隔尺度、比尺度	中村	p9-11	204
第4回	尺度と分布 II (統計学を理解するために必要な概念について学ぶ) KW:二項分布、正規分布	中村	p24-25	204
第5回	検定の原理 (統計的手法の手順について学ぶ) KW:背理法、帰無仮説、対立仮説、検定量、有意水準、確率	中村		204
第6回	対応のある2群の差の検定 I (パラメトリック検定である、1標本t検定の原理を学ぶ)	中村	p27-41	204
第7回	対応のある2群の差の検定 II (1標本t検定、続き)	中村	p27-41	204
第8回	対応のある2群の差の検定 III (ノンパラメトリック検定である、Wilcoxon検定の原理を学ぶ)	中村	p50-69	204
第9回	対応のない2群の差の検定 I (パラメトリック検定である、2標本t検定の概要を学ぶ)	中村	p71-89	204
第10回	対応のない2群の差の検定 II (2標本t検定内で必要となる、等分散の検定について学ぶ)	中村	p71-89	204
第11回	対応のない2群の差の検定 III (2標本t検定の全体の流れについて学ぶ)	中村	p71-89	204
第12回	対応のない2群の差の検定 IV (ノンパラメトリック検定である、Mann-Whitney検定の原理を学ぶ)	中村	p90-114	204
第13回	計数値データの検定 I (1要因の検定法のうち、二項検定、 χ^2 乗適合度検定を学ぶ)	中村	p115-123	204
第14回	計数値データの検定 II (2要因の検定法のうち、 χ^2 乗独立性の検定、Fisherの直接確率計算法を学ぶ)	中村	p124-146	204
第15回	計数値データの検定 III (χ^2 乗独立性の検定、Fisherの直接確率計算法、続き)	中村	p124-146	204
定期試験	後期末試験			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	心理学	2	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	中村直人	人間発達学、臨床心理学、リハビリテーションと障害、など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 前期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	人間の行動や基礎にある原理を学び、こころの理解に必要な基本的知識を身につける。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動を引き起こす入力としての感覚・知覚、行動を支える意識・情動について理解する。 2. 行動を司るメカニズムとしての学習・記憶・思考について理解する。 3. 個人を形作る特徴と人同士のかわり合いによる行動の変化について理解する。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>理学療法士・作業療法士は、体や心にハンディキャップを持つ人をサポートすることが仕事である。そのため、健康な人の心を知っておくことは非常に重要である。</p> <p>将来受験する国家試験では「心理学」という分野はないが、関係する設問が様々な分野(特に臨床心理学、運動学、生理学等)にまたがって出題されるので、単なる教養科目と思わないで受講すること。</p>						
教科書・参考書						
教科書は使用せず、プリントを配布する。						
受講時留意点、その他						
授業の進み方によっては、内容が変更される場合がある。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	定期試験の成績で評価する。6割以上を合格とする。				
小テスト	0	理解度を確かめるための確認として行う。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他		授業中の積極的な発言等は、成績に加味する場合がある。 正当でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り・携帯電話の使用・飲食等、不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	感覚と知覚 (我々の行動を引き起こすメカニズムの入り口としての感覚と知覚を視覚を例にとつて学ぶ) KW: 桿体、錐体、盲点、奥行き知覚、恒常性、錯視	中村	資料配布	201
第2回	意識 (我々の行動を支える意識の活動とその変容について学ぶ) KW: サーカディアンリズム、感覚遮断、催眠、薬物依存	中村	資料配布	201
第3回	学習Ⅰ (我々の行動を引き起こす学習の基礎について学ぶ) KW: 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、弁別、般化、強化	中村	資料配布	201
第4回	学習Ⅱ (人間の運動学習に深くかわる概念を学ぶ) KW: 結果の知識、遂行の知識、分散学習と集中学習、運動プログラム	中村	資料配布	201
第5回	1-4回のまとめと解説	中村		201
第6回	記憶 (我々が頭の中に情報を保持するための基本的メカニズムについて学ぶ) KW: 忘却、干渉、宣言的記憶、手続き的記憶	中村	資料配布	201
第7回	動機づけ (我々の行動を強めたり弱めたりする機能について学ぶ) KW: 生理的動機、内発的動機、社会的動機	中村	資料配布	201
第8回	情動 (行動を我々の意図とは異なる方向へ導くメカニズムについて学ぶ) KW: 末梢説、中枢説、パベツの回路、二重構造説、海馬、扁桃体	中村	資料配布	201 PT全員
第9回	ストレスとコーピング (同じ刺激でも異なる影響を引き起こすメカニズムとストレスへの対処について学ぶ) KW: ストレス、HPA軸、汎適応症候群、A型行動パターン	中村	資料配布	201
第10回	6-9回のまとめと解説	中村		201
第11回	パーソナリティーと診断 (我々の個性を形作る特徴とその測定法について学ぶ) KW: 類型論、特性論、質問紙法、作業検査法、投影法、テストバッテリー	中村	資料配布	201
第12回	思考と言語Ⅰ (我々が「考えている」とき、頭の中でどのようなことが起こっているかについて学ぶ) KW: 問題解決、表象、概念	中村	資料配布	201
第13回	思考と言語Ⅱ (我々はどうのようやり方で考え、その結果をどのように整理しているかについて学ぶ) KW: 推論、文章理解	中村	資料配布	201
第14回	人間関係の心理 (他者の存在が我々の行動にどのように影響するか学ぶ) KW: アイヒマン実験、認知的不協和、責任の拡散、リスクシフト	中村	資料配布	201
第15回	11-14回のまとめと解説	中村		201
定期試験	前期末試験			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	科学哲学	2	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	増田 隼人(非常勤)					
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次前期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	科学哲学の議論を通じて、リハビリテーションに関わる者として科学的・哲学的に自問していく素養を身につける。					
行動目標(SBO)						
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>現代社会において、「科学的な意見」はしばしば真理と同じように捉えられる。しかし、「科学的とはどういうことか」、「科学は何を語るのか/語れないのか」といった視点が欠如するのは時に危険である。特に治療やリハビリテーションなどの現場で科学を活用する医療従事者にとって、科学への妄信は、患者の人間性を軽視することにもつながりかねない。本講義では、科学的・哲学的に自問できるようになることを目標に、科学の営みや方法論などについて検討・批判する。</p>						
教科書・参考書						
<p><教科書>ドン・アイディ『技術哲学入門—ポスト現象学とテクノサイエンス—』稲垣諭ほか訳、晶文社(※) ※2025年4月に刊行予定なので、初回講義時には持参しなくても構いません。 <参考図書>稲垣 諭:『リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション』春風社 A.F.チャルマーズ:『科学論の展開』恒星社厚生閣</p>						
受講時留意点、その他						
<p>前期 火曜日の3,4限に開講 講義形式であるが、参加型の課題なども行う。 受講者には自ら問いを立て、思索し、発言する主体性と積極性を期待する。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回 4/8	哲学とは何か	増田		講堂
第2回 4/8	科学哲学とは何か	増田		講堂
第3回 4/22	科学的な推論(演繹法)	増田		講堂
第4回 4/22	科学的な推論(帰納法)	増田		講堂
第5回 5/13	科学的な推論(アブダクション)	増田		講堂
第6回 5/13	科学は確実なのか？	増田		講堂
第7回 5/27	「科学的」とはどういうことか？	増田		講堂
第8回 5/27	「科学者」とは誰か？ どこにいるのか？	増田		講堂
第9回 6/3	科学とテクノロジー	増田		講堂
第10回 6/3	科学の進歩	増田		講堂
第11回 6/17	意識と身体	増田		講堂
第12回 6/17	科学を使うということ	増田		講堂
第13回 7/1	リハビリテーションと哲学①	増田		講堂
第14回 7/1	リハビリテーションと哲学②	増田		講堂
第15回 7/8	まとめ	増田		講堂
定期試験	前期末試験			

- 3限 13:00～14:30
- 4限 14:40～16:10

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	生活社会科学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	中村毎途	科学哲学・人間発達学・心理学・コミュニケーション論等				
開講時期	実務家教員による科目の概要 * 実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次 前期						
授業目標 * 詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	さまざまな世代の人の生活を理解するために、家庭内での生活や社会における生活を、それぞれの世代の社会規範や背景、人生観や価値観などについて理解を深める					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活とは何かについてさまざまな考えを説明できる。 2. 仕事や余暇活動についての考え方を説明できる。 3. 病いや老いについての考え方を説明できる。 4. 各世代の生活について説明できる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
理学療法士・作業療法士は様々な世代の方の生活を支援する仕事であるため、各世代の生活を理解することが重要である。その人らしい生活が送れるよう支援するためには、それぞれの生活で大切にしていること、期待されていることを知る必要がある。それぞれの生活に関する考え方を時代背景や価値観、人生観など含め、自分の身の回りの人から聴取することによって学ぶ。						
教科書・参考書						
参考書：社会学入門—社会とのかかわり方 筒井淳也・前田泰樹著、有斐閣ストウディア						
受講時留意点、その他						
授業内でのレポート提出の日の欠席はレポート提出しなくてよい。(採点から除外) しかし、欠席時に家族へのインタビュー内容についての授業内容である場合は、登校時必ず中村をたずねること。(家族へのインタビューは欠席に関わらず行うこと) その他、インタビューできない事情のある人は中村まで相談に来ること。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	各回授業のまとめ・インタビュー内容の課題 (詳細は授業ごとに提示する)				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他		授業中の居眠りやグループワークへの非協力的態度など不適切な行動は減点の対象となります。また、積極的かつ建設的な質問や意見は加点の対象とします。 提出期限を過ぎたものはレポート採点対象外とします。(0点)				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	コースオリエンテーション/生活すること 自分にとって生活することの意味について話し合い、理解する 【KW】生活・価値観・人生	中村	配布資料	201
第2回	現代社会における課題と問題 現代社会にはどのような問題や課題を抱えているかグループで話し合う 【KW】社会・課題や課題・生活	中村	配布資料	201
第3回	社会人に求められる能力 社会の一員として自分自身に求められる能力について考える 【KW】ソーシャルスキル・社会人・学生	中村	配布資料	201
第4回	出生について 出生について、妊娠・出産と選択をどう考えるを話し合い、発表する。 【KW】社会階層の閉鎖性・優生保護法・出生前診断	中村	配布資料	201
第5回	家族とは 家族の多様化・家族規範について話し合う 【KW】家族・多様化・規範	中村	配布資料	201
第6回	家族であることの意味① 自分の家族の誰にどんなことを聞いてみたいかを話し合い、発表する 【KW】情報収集の内容・家族であること・イベント・出来事	中村	配布資料	201
第7回	病むこと・老いること 今までとは異なる生活を送らざるを得ない状況について理解を深める 【KW】病気・老化・心理	中村	配布資料	201
第9回	家族であることの意味② 兄弟・親や祖父母にインタビューした内容について発表する。 【KW】家族・イベント・インタビュー	中村	配布資料	201
第8回	働くことの意味 社会の中で働くことについて、どうのように考えるかを話し合う 【KW】ワークバランス・生き甲斐・感情労働	中村	配布資料	201
第10回	家族を介護すること 自分の家族の介護が生活に与える影響や変化について理解を深める 【KW】介護離職・ヤングケアラー・生活	中村	配布資料	201
第11回	働くことの意味② 現在働いている人からインタビューした内容について発表する。 【KW】働くこと・仕事の選択・やりがい	中村	配布資料	201
第12回	人生における過去・現在・未来① 自分と同じ世代の人たちが歩んできた人生について理解を深める 【KW】出来事・流行・世代	中村	配布資料	201
第13回	人生における過去・現在・未来② 自分とは異なる世代の人たちが歩んできた人生について理解を深める 【KW】年代ごとの出来事や流行・ジェネレーションギャップ・価値観	中村	配布資料	201
第14回	現代社会における課題の解決① グループで挙げた課題について解決策のアイデアを話し合う 【KW】社会・課題・解決	中村	配布資料	201
第15回	現代社会における課題の解決② グループで話し合った内容についてプレゼンテーションを行う 【KW】社会・課題・解決	中村	配布資料	201
定期試験	実施しない。			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	英語 I	2	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	原田 真由子(非常勤)	英語A、英語B				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次前期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	医療に関連した英語を学ぶ。					
行動目標(SBO)	①医療現場で簡単なコミュニケーションを図ることができる。 ②スピーキングとリスニング方略を学ぶ。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
国際化が進み、日本の医療現場においても、英語でのコミュニケーションの重要性が従来にも増して高まっています。この授業では、①医療に関連する英単語を学ぶ、②医療現場において、英語でコミュニケーションを図るための表現を学ぶ、③スピーキングとリスニング方略を学ぶ、を授業目標とします。授業だけで外国語をマスターするのは難しいので、独学の方法も紹介します。						
教科書・参考書						
「PT・OTが書いたリハビリテーション英会話」(第8刷)、 三木貴弘、今本大地、岡谷内美乃里 著, Jeffrey Huffman 英文監修, 2024年, メジカルビュー社発行						
受講時留意点、その他						
前期の 毎週 曜日 に開講します。 小テストを適宜実施します。 授業内で英単語を調べる事がありますので、手持ちの英和辞典か電子辞書を持参して下さい。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	80	前期末試験を行う。(6割に満たない場合は、再試験を行う)				
小テスト	10	授業内で行う。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	10	提出物や授業内での活動等を評価します。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	オリエンテーション 英語で自己紹介の練習をしよう Lesson 1 初回の挨拶をしよう	原田		201
第2回	Lesson 2 痛む部位を聞いてみよう	原田		201
第3回	Lesson 3 痛みの種類や程度を聞いてみよう	原田		201
第4回	Lesson 4 痛みの経過を聞いてみよう	原田		201
第5回	Lesson 5 基本的な肢位を指示してみよう	原田		201
第6回	Lesson 6 応用的な肢位を指示してみよう	原田		201
第7回	Lesson 7 バイタルサインを確認しよう	原田		201
第8回	Lesson 8 自動可動域を測定してみよう	原田		201
第9回	Lesson 9 他動可動域を測定してみよう	原田		201
第10回	Lesson 10 体幹の可動域を測定してみよう	原田		201
第11回	Lesson 11 頸部の可動域を測定してみよう	原田		201
第12回	Lesson 12 筋力を測定してみよう	原田		201
第13回	Lesson 13 触覚検査をしてみよう	原田		201
第14回	Lesson 14 バランス検査をしてみよう	原田		201
第15回	Lesson 15 歩行評価をしてみよう 前期学習内容の復習	原田		201
定期試験	前期末試験 実施する			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	英語A(選択)	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	原田 真由子(非常勤)	英語 I				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 後期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	医療に関連した英語を学ぶ。					
行動目標(SBO)	①医療現場で簡単なコミュニケーションを図ることができる。 ②スピーキングとリスニング方略を学ぶ。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
国際化が進み、日本の医療現場においても、英語でのコミュニケーションの重要性が従来にも増して高まっています。この授業では、①医療に関連する英単語を学ぶ、②医療現場において、英語でコミュニケーションを図るための表現を学ぶ、③スピーキングとリスニング方略を学ぶ、を授業目標とします。授業だけで外国語をマスターするのは難しいので、独学の方法も紹介します。						
教科書・参考書						
「PT・OTが書いたリハビリテーション英会話」(第8刷)、 三木貴弘、今本大地、岡谷内美乃里 著, Jeffrey Huffman 英文監修, 2024年, メジカルビュー社発行						
受講時留意点、その他						
後期の毎週 曜日に開講します。 小テストを適宜実施します。 授業内で英単語を調べる事がありますので、手持ちの英和辞典か電子辞書を持参して下さい。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	80	前期末試験を行う。(6割に満たない場合は、再試験を行う)				
小テスト	10	授業内で適宜行う。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	10	提出物や授業内での活動等を評価します。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	Lesson 16 ホームエクササイズを指導してみよう	原田		
第2回	Lesson 17 RICE処置を指導してみよう	原田		
第3回	Lesson 18 移乗動作の練習をしてみよう	原田		
第4回	Lesson 19 食事の評価と指導をしてみよう	原田		
第5回	Lesson 20 適切な歩行補助具を選択してみよう	原田		
第6回	Lesson 21 自宅のトイレを改修してみよう	原田		
第7回	Lesson 22 退院後の生活指導をしてみよう	原田		
第8回	テキストの総復習	原田		
定期試験	後期末試験			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	英語B(選択)	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	原田 真由子(非常勤)	英語 I				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 後期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	医療に関連した英語を学ぶ。					
行動目標(SBO)	①医療現場で簡単なコミュニケーションを図ることができる。 ②スピーキングとリスニング方略を学ぶ。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
国際化が進み、日本の医療現場においても、英語でのコミュニケーションの重要性が従来にも増して高まっています。この授業では、①医療に関連する英単語を学ぶ、②医療現場において、英語でコミュニケーションを図るための表現を学ぶ、③スピーキングとリスニング方略を学ぶ、を授業目標とします。授業だけで外国語をマスターするのは難しいので、独学の方法も紹介します。						
教科書・参考書						
「PT・OTが書いたリハビリテーション英会話」(第8刷)、 三木貴弘、今本大地、岡谷内美乃里 著, Jeffrey Huffman 英文監修, 2024年, メジカルビュー社発行						
受講時留意点、その他						
後期の毎週 曜日に開講します。 小テストを適宜実施します。 授業内で英単語を調べる事がありますので、手持ちの英和辞典か電子辞書を持参して下さい。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	80	前期末試験を行う。(6割に満たない場合は、再試験を行う)				
小テスト	10	授業内で適宜行う。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	10	提出物や授業内での活動等を評価します。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	Lesson 16 ホームエクササイズを指導してみよう	原田		
第2回	Lesson 17 RICE処置を指導してみよう	原田		
第3回	Lesson 18 移乗動作の練習をしてみよう	原田		
第4回	Lesson 19 食事の評価と指導をしてみよう	原田		
第5回	Lesson 20 適切な歩行補助具を選択してみよう	原田		
第6回	Lesson 21 自宅のトイレを改修してみよう	原田		
第7回	Lesson 22 退院後の生活指導をしてみよう	原田		
第8回	後期学習内容の復習 テキストの総復習	原田		
定期試験	後期末試験			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	コミュニケーション論	2	30	講義	必修	可
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	山口美和/植田英則	基礎理学療法実習Ⅰ・生活社会科学 ボランティア活動論・臨床実習Ⅰ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次前期	<p>●植田英則:理学療法士で当校理学療法学科長。修士課程で心理学等学んだ経験と臨床経験を活かし、臨床現場での内容を含め教示します。</p> <p>●山口美和:理学療法士で指定教科書の著者。リハビリテーション病院勤務の後、地域リハビリテーションに従事。その後学校勤務を経て独立。大学での講義や病院などでの研修、執筆活動を通して医療者のコミュニケーション教育を行いながら、現在も地域リハビリテーション活動を続けている。コミュニケーションを体験的に学ぶ演習型授業で12回にわたり教示します。</p>					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	コミュニケーションの基本を演習から学ぶとともに、自分が日常的に行っているコミュニケーションパターンに気付くことを通して自身の課題を明確にし、自己成長への取り組みを始めることができる。コミュニケーションスキルを向上させることができる。					
行動目標(SBO)	<p>①コミュニケーションとは何か説明できる。</p> <p>②みる・きく・伝える力を向上させることができる。</p> <p>③社会人、医療人の適切なマナーとしてのコミュニケーションとは何かを説明できる。</p>					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
理学療法士・作業療法士は対象者やご家族とのコミュニケーションが不可欠である。また多職種と連携していく上でもコミュニケーション能力は必要となる。本講義は基本的臨床技能としてのコミュニケーション技術を実践的に学ぶとともに、学んだ技術を自律性を持って発揮できる自分になることを目指し、自己理解を深めることに取り組む。「メタ認知能力(今ここにおける自分や周囲の状況を客観視できる力)」を高めるための仕掛けを活用しながら、セルフワークやペアワーク、グループワークなどの体験学習を通じて学びを深めていく。人との関わりが苦手な人は、この講義を活用して新たな自分を発見して欲しい。自身と仲間 の成長の貢献のために、真摯な取り組みを期待する。						
教科書・参考書						
教科書:山口美和著 PT・OT・STのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第3版, 医学書院, 2024						
受講時留意点、その他						
ワーク中心の授業となる。積極的に参加する姿勢が望まれる。挨拶, 言葉遣い, 礼儀, 態度だけでなく, 医療人としてふさわしい身だしなみについても学んでほしい。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	0	実施しない				
小テスト	0	実施しない				
レポート	70	授業中に記入するワークシートや振り返りシートの内容にて評価する				
実技試験	0	実施しない				
プレゼンテーション	0	実施しない				
その他	30	授業に取り組む姿勢(発表や質問・演習への真摯な取り組み)について評価する				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	オリエンテーション, 自己紹介① 全体で自己紹介をする。 【キーワード】傾聴、雰囲気づくり	植田		講堂
第2回	自己紹介② 少人数のグループで自己紹介をする。 【キーワード】共感、同意	植田		講堂
第3回	自己紹介③ 自己紹介の効果 【キーワード】先入観、効果	植田		講堂
第4回	自分を理解しよう① 自分自身について知る 【キーワード】メタ認知・自立と自律・自己概念・自己肯定感・エゴグラム	山口	第1・2回	201
第5回	自分を理解しよう② 他者から見た自分について知る 【キーワード】ジョハリの窓・自己開示・フィードバック・対人認知・印象形成・認知バイアス	山口	第3回	201
第6回	自分を理解しよう③ 態度について学ぶ 【キーワード】態度・人生の立場・ディスカウント・ポーターの態度類型・PT/OT学生に求められる態度	山口	第4回	201
第7回	コミュニケーション能力を向上させよう① コミュニケーションの種類・コミュニケーション能力について知る 【キーワード】言語/準言語/非言語コミュニケーション・コミュニケーション能力	山口	第8回	201
第8回	コミュニケーション能力を向上させよう② みることについて学ぶ 【キーワード】みる(見る/観る/診る/看る/視る)・ミラーリング・ペーシング	山口	第9回	201
第9回	コミュニケーション能力を向上させよう③ きくことについて学ぶ 【キーワード】聞く・聴く・リフレージング・傾き・相づち	山口	第10回	201
第10回	コミュニケーション能力を向上させよう④ 伝えることについて学ぶ 【キーワード】伝える・伝える力・ノイズ・伝わる・ほうれんそう・つうでんけいアプローチ	山口	第11回	201
第11回	コミュニケーション能力を向上させよう⑤ 自分も相手も大切にしたい伝え方について学ぶ 【キーワード】アイメッセージ・ユーメッセージ・アサーティブネス	山口	第12回	201
第12回	コミュニケーション能力を向上させよう⑥ 質問のしかたについて学ぶ 【キーワード】オープン・クエスチョン クローズド・クエスチョン 重点的質問法 多項目質問法	山口	第23回	201
第13回	自律した自分になろう① 自己管理について学ぶ 【キーワード】自己管理・時間管理・スケジュール管理・健康管理・レジリエンス	山口	第13回	201
第14回	自律した自分になろう② 感情管理について学ぶ 【キーワード】感情管理・感情労働・マインドフルネス瞑想・ABC理論・怒りのコントロール・メタ認知的コミュニケーション	山口	第14回	201
第15回	自律した自分になろう③ 自己存在と自己実現 【キーワード】自己存在・ニューロロジカルレベル・自己実現・ビジョン・目的・目標	山口	第15回	201
定期試験	実施しない			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	ボランティア活動論	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	望月里子 、野村めぐみ 赤岩龍士、松尾祐介	地域理学療法学、スポーツ科学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次前期	この授業は理学療法士・作業療法士が担当します。医療施設での理学療法・作業療法の実務経験やボランティア活動の経験も併せ、自身にできることを考え、行動できるように授業していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	ボランティアの定義を理解し、理学療法士・作業療法士として参加できる活動について知る。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ボランティアの定義、理念について知る。 2 理学療法士・作業療法士が行えるボランティア活動について知る。 3 ボランティアの心得と注意点を知る。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>ボランティア(volunteer)は、ラテン語の自由意思(voluntas)が語源で、個人の自由意思に基づき、経済的報酬を求めず、その技能や時間などを提供して、社会貢献する活動と言う意味で使われています。理学療法士は、広く社会貢献を求められる国家資格であり、その専門性が有効に活用できる専門職と言えます。</p> <p>地域の健康づくり、介護予防、災害時の避難所、障がい者スポーツなど活動の場は多岐にわたります。学外における様々なボランティア活動の経験も併せ、自信にできることを考え、行動できるような豊かな人間性を備えましょう。</p>						
教科書・参考書						
<p>【教科書】 指定なし 【参考書】 講義にて随時紹介</p>						
受講時留意点、その他						
ディスカッションでは、活発な意見交換や経験の報告を行います。積極的に参加すること。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	80	ボランティアに関わる企画書(A3 1枚程度)第7回で提出。(グループで1枚)				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	20	グループワークでの参加状況、発表時の態度等。(詳細は第6回でお知らせします)				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	ボランティアの定義 ボランティアという活動を知る。 【キーワード】 ボランティア、役割	望月	配布資料	
第2回	理学療法士・作業療法士とボランティア① 精神保健福祉におけるボランティアについて学ぶ。 【キーワード】精神保健複視、うつ病、統合失調症	野村	配布資料	
第3回	理学療法士・作業療法士とボランティア② ※ゲストスピーカー 精神保健福祉におけるボランティアについて学ぶ。 【キーワード】精神保健複視、うつ病、統合失調症	野村	配布資料	
第4回	理学療法士・作業療法士とボランティア③ 災害ボランティアについて学ぶ。 【キーワード】災害時の活動、搬送、介助	赤岩	配布資料	
第5回	理学療法士・作業療法士とボランティア④ イベントボランティアの中で理学療法士ができることについて学 ぶ。 【キーワード】障がい者スポーツ・各スポーツ大会・障がい者	赤岩	配布資料	
第6回	ボランティアを企画する① 自分たちができる障がい者スポーツのイベントやボランティアを考えよう。 【キーワード】障がい者スポーツ、ボランティア、施設でのイベント	望月	配布資料	
第7回	ボランティアを企画する② 企画したボランティアを発表、共有しよう。 【キーワード】障がい者スポーツ、ボランティア、施設でのイベント	望月	配布資料	
第8回	認知症サポーターについて 認知症についての理解を深めよう。 【キーワード】 認知症・病態・接し方	松尾	配布資料	
定期試験	実施しない			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	解剖学Ⅰ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	安藤 亨(非常勤)	解剖学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、人体構造学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次前期	担当教員は医師です。医療機関での診療業務の経験を基に授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	人体の構造を理解する。					
行動目標(SBO)	①神経系・感覚器系の構造を学ぶ。 ②呼吸器系・循環器系・消化器系の構造を学ぶ。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
解剖学は、医療職を志す者にとって基礎中の基礎といえる学問である。人の動きに直接関与する筋骨格系はもとより、動きを指令する神経系や動きを感知する感覚器系を十分熟知すること、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系・循環器系・消化器系などについても理解を深めることが求められる。解剖学Ⅰでは、このうち、神経系・感覚器系・呼吸器系・循環器系・消化器系について学ぶ。						
教科書・参考書						
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 (医学書院)						
受講時留意点、その他						
毎週、月曜日3限に開講						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回 4/7	解剖学総論 定義・目的、人体の概要、解剖学用語、人体の構成	安藤		講堂
第2回 4/14	感覚器系 外皮、視覚器、平衡感覚器、嗅覚器、味覚器	安藤		講堂
第3回 4/21	神経系総論、末梢神経系① 神経系総論、脳神経	安藤		講堂
第4回 4/28	末梢神経系② 脳神経、自律神経	安藤		講堂
第5回 5/12	中枢神経系① 大脳	安藤		講堂
第6回 5/19	中枢神経系② 伝導路	安藤		講堂
第7回 5/26	中枢神経系③ 小脳、脳幹、脊髄	安藤		講堂
第8回 6/2	循環器系① 血管系:心臓、循環の分類	安藤		講堂
第9回 6/9	循環器系② 血管系:動脈系、静脈系、胎生期の循環系	安藤		講堂
第10回 6/16	循環器系③、他 リンパ系、理学・作業療法との関連、人体の発生	安藤		講堂
第11回 6/23	内臓学① 内臓器官の構造、消化器系	安藤		講堂
第12回 6/30 3限	内臓学② 消化器系	安藤		講堂
第13回 6/30 4限	内臓学③ 呼吸器系、内分泌系	安藤		講堂
第14回 7/7	内臓学④ 泌尿器系、生殖器系	安藤		講堂
第15回 7/14	感覚器系・循環器系・内臓学 第1回～第14回のまとめ	安藤		講堂
定期試験	前期末試験			

3限目 13:00～14:30

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	解剖学Ⅱ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	市村真樹	解剖学Ⅰ、解剖学実習Ⅰ、解剖学実習Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法の基礎となる解剖学を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	運動構造を理解する					
行動目標(SBO)	1.骨、筋、関節、脊髄と脊髄神経の基本構造を覚える。 2.上肢、下肢の関節の名称、特徴、構成、靭帯を覚える。 3.脊髄神経の走行と支配筋の名称・起始停止・作用、固有支配領域を覚える。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業は前期に受講した解剖学実習で骨、骨格筋の復習と、関節、脊髄神経について行う。運動器を理解するにあたり、骨、関節、筋、神経は関連付けて学習してください。						
教科書・参考書						
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版(医学書院) プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 第2版(医学書院) 【参考書】プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第3版(医学書院)						
受講時留意点、その他						
学習進度により授業の内容・時間割等を変更する場合には、掲示板、デスクネットなどでお知らせします。 学習内容の理解が深まるように、受講準備(予習)を怠らないようにしてください。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験を実施する。				
小テスト	*	授業開始時に前回の復習を行う。 web上で実施する。成績には含めない。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	授業への積極参加(挙手による質問や教員の問いかけに対する返答、自己学習に関する報告や相談、等)は最終的な成績判定でプラスに考慮します。 校則を遵守し、実習地へ赴く際の服装、身だしなみの範囲内で授業参加してください。 授業中、他の学生への悪影響(騒音、居眠りや授業態度などによる過度な注意、等)を教員が判断した場合、退出させ欠席とみなし成績にも反映させます。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	骨格総論・各論 頭蓋 【KW】冠状縫合・矢状縫合・ラムダ縫合	市村真樹	p46～57	
第2回	骨格各論 脊柱・胸郭 【KW】生理的彎曲・椎間関節・肋軟骨	市村真樹	p58～67	
第3回	骨格各論 上肢の骨・下肢の骨 【KW】鎖骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・中手骨・指骨・寛骨・腸骨・仙骨・大腿骨・脛骨・腓骨・足根骨・踵骨・中足骨・趾骨	市村真樹	p68～92	
第4回	関節と靭帯・各論 頭蓋の連結・脊柱、脊柱と頭蓋および胸郭の連結 【KW】椎間円板・脊柱の靭帯・椎間関節の関節面の方向・環椎後頭関節・正中環軸関節	市村真樹	p113～122	
第5回	関節と靭帯・各論 上肢の連結 【KW】胸鎖関節・肩鎖関節・肩関節・回旋筋腱板・腕尺関節・手根間関節	市村真樹	p123～137	
第6回	関節と靭帯・各論 下肢の連結 【KW】恥骨結合・仙腸関節・大腿骨頭靭帯・大腿脛骨角・膝関節の靭帯	市村真樹	p137～154	
第7回	筋系総論・各論 体幹の筋（頭部・顔面の筋） 【KW】表情筋群・咀嚼筋群・頸部の筋	市村真樹	p161～183	
第8回	筋系総論・各論 体幹の筋（胸腹部・背部の筋） 【KW】胸部の筋・腹部の筋・背部の筋	市村真樹	p184～196	
第9回	筋系各論 上肢の筋（上肢帯の筋・上腕の筋） 【KW】上肢帯の筋・上腕の筋	市村真樹	p196～198	
第10回	筋系各論 上肢の筋（前腕の筋・手の筋） 【KW】前腕の筋・手内筋群	市村真樹	p199～210	
第11回	筋系各論 下肢の筋（下肢帯の筋・大腿の筋） 【KW】下肢帯の筋・大腿の筋	市村真樹	p211～217	
第12回	筋系各論 下肢の筋（下腿の筋・足の筋） 【KW】下腿の筋・足の筋	市村真樹	p217～227	
第13回	神経系総論・各論 中枢神経・脊髄 【KW】脊髄・白質・灰白質	市村真樹	p229～245	
第14回	神経系総論・各論 中枢神経 脳幹・小脳・大脳・神経路 【KW】中脳・橋・延髄・小脳	市村真樹	p245～277	
第15回	神経系総論・各論 末梢神経系 【KW】脊髄神経・腕神経叢・腰神経叢	市村真樹	p278～300	
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	解剖学実習 I	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	森梢/宮下正好/長田美紀	解剖学Ⅱ、解剖学実習Ⅱ、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 前期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	四肢の主な「骨」「筋」の位置、名称、はたらきなどを覚える。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢の骨: 骨名、主な部位名称を覚える。 2. 上肢の筋: 主な筋の名称、起始・停止・作用・支配神経を覚える。 3. 下肢の骨: 骨名、主な部位名称を覚える。 4. 下肢の筋: 主な筋の名称、起始・停止・作用・支配神経を覚える。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、「骨」と「筋」を模型を活用して学ぶ。「骨」「筋」は理学療法を行う上で必須の知識である。 ・「骨」は、形を観察しながら「骨名」「主な部位名称」を覚えていく。 ・「筋」は、位置や形を観察しながら「筋名」「骨のどこに付着しているか(起始・停止)」を覚えていく。あわせて、「筋のはたらき(作用)」を理解し、覚えていく。 						
教科書・参考書						
<p>【教科書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版(医学書院) プロメテウス解剖学アトラスコンパクト版 第2版(医学書院)</p> <p>【参考書】 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 (医学書院)</p> <p>【参考アプリ】 ヒューマンアナトミーアトラス(Visible Body)</p>						
受講時留意点、その他						
<ul style="list-style-type: none"> ・受講時の服装は長白衣着用とする。アクセサリ類は全て外すこと。 ・頭髪、爪は短く清潔にすること。女性は髪を束ねて顔にかからないようにすること。 ・はさみとセロテープを使用することがある。毎回持参すること。 ・骨模型は、ご遺体をモデルにして作成されたものである。丁寧に扱い、決して不敬な態度をとらないこと。 						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行い、60点以上を合格とする。				
小テスト	*	2回の「小テスト」を予定している。原則として成績評価に含めない。ただし、答案から明らかに学習不足が見てとれる、白紙等は減点の対象とする。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席・遅刻などは減点の対象とする。無礼な態度・不適切な身だしなみ・迷惑行為・授業中の飲食・授業中の携帯電話等の使用・授業に関するSNSへの公開・模型への不敬な態度等は減点の対象とする。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
オリエンテーション	コースオリエンテーション・骨の名称 受講の心構えを理解する。全身の骨格の名称を覚える【KW】上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、腓骨 ほか	宮下	p27,28	骨模型 基礎医学実習室
第1回	上肢の骨:1上肢帯2自由上肢骨 肩甲骨・上腕骨の形状を理解し、主な部位名称を覚える。【KW】肩峰、烏口突起、上腕骨頭、大結節 ほか	宮下	p58-62	骨模型 基礎医学実習室
補習1	上肢の骨:2自由上肢骨 前腕の骨の形状を理解し、主な部位名称を覚える。手の骨の名称を覚える。【KW】橈骨粗面、肘頭、舟状骨、中手骨 ほか	宮下	p62-67	骨模型 基礎医学実習室
第2回	上肢の骨の復習・上肢の関節 第2回・第3回の復習を行う。上肢の関節の名称と関節運動を覚える。	宮下		骨模型 基礎医学実習室
第3回	上肢の筋:1上肢帯の筋 肩甲骨と上腕骨に付着し肩関節に作用する筋を覚える。【KW】三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋	宮下	p187-189	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
第4回	上肢の筋:2上腕の筋 上腕の屈筋、伸筋を覚える。 【KW】上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋	宮下	p190-191	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
第5回	上肢の筋:3前腕の筋(屈筋群①) 前腕浅層の屈筋を覚える。【KW】円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、腕橈骨筋	宮下	p192,194	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
補習2	上肢の筋:3前腕の筋(屈筋群②) 前腕中間層・深層の屈筋を覚える。【KW】浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋	宮下	p192,195	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
補習3	上肢の筋:3前腕の筋(伸筋群①) 前腕浅層の伸筋を覚える。【KW】長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋	宮下	p193,196,197	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
第6回	上肢の筋:3前腕の筋(伸筋群②) 前腕深層の伸筋を覚える。【KW】回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋	森	p193,197,198	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
小テスト	小テスト:上肢の骨・筋の復習 第2回、第3回、第4回～第9回、の内容で確認テストと解説を行う。	宮下		普通教室
第7回	下肢の骨:1下肢帯2自由下肢骨 寛骨・大腿骨の形状を理解し、主な部位名称を覚える。【KW】腸骨稜、坐骨結節、大腿骨頭、大転子 ほか	森	p68-75	骨模型 基礎医学実習室
第8回	下肢の骨:2自由下肢骨 下腿の骨の形状を理解し、主な部位名称を覚える。足の骨の名称を覚える。【KW】脛骨粗面、腓骨頭、内果、外果、踵骨、中足骨 ほか	森	p75-82	骨模型 基礎医学実習室
第9回	下肢の筋:1下肢帯の筋 寛骨と大腿骨に付着し股関節に作用する筋を覚える。 【KW】腸腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋	森	p203-205	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
第10回	下肢の筋:1下肢帯の筋(外旋筋群) 下肢帯深層に位置し股関節を外旋する筋を覚える。【KW】梨状筋、内閉鎖筋、上・下双子筋、大腿方形筋、外閉鎖筋	森	p203,206,207	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
第11回	下肢の筋:2大腿の筋(内転筋群) 大腿内側に位置し股関節を内転する筋を覚える。【KW】恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、薄筋	森	p208,211	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
第12回	下肢の筋:2大腿の筋(伸筋群・屈筋群) 大腿前面、後面の筋を覚える。【KW】縫工筋、大腿四頭筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋	森	p208-210,212	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
第13回	下肢の筋:3下腿の筋(伸筋群・腓骨筋群) 下腿の前面、外側の筋を覚える。 【KW】前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋	森	p213-214,217	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
第14回	下肢の骨・筋の復習 第10回～第16回 の内容で確認テストと解説を行う。	森		普通教室
第15回	下肢の筋:3下腿の筋(屈筋群) 下腿後面の浅層および深層の筋を覚える。 【KW】腓腹筋、ヒラメ筋、長趾屈筋、長母趾屈筋、後脛骨筋	森	p213,215-216	骨模型、筋模型 基礎医学実習室
定期試験	前期末試験1(範囲:上肢の骨と筋) 前期末試験2(範囲:下肢の骨と筋)			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	解剖学実習Ⅱ	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	森梢/市村真樹/長田美紀	解剖学実習Ⅰ、運動学Ⅰ、基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ、基礎理学療法実習Ⅰ・Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 後期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	手の筋、体幹の主な「骨」「筋」の位置、名称、はたらきなどを覚える。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手の筋:母指球筋、中手筋の名称、起始・停止、作用、支配神経を覚える。 2. 頭蓋、脊柱:主な骨の部位名称、関節、靭帯を覚える。 3. 頭部:咀嚼筋、表情筋の名称、付着、作用、支配神経を覚える。 4. 頸部・胸部:呼吸にかかわる筋の名称、付着、作用、支配神経を覚える。 5. 胸部・背部:肩甲骨、肩関節に作用する筋の名称、付着、作用、支配神経を覚える。 6. 腹部:腹部の主な筋の名称、付着、作用、支配神経を覚える。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、「骨」と「筋」を模型を活用して学ぶ。「骨」「筋」は理学療法を行う上で必須の知識である。 ・「骨」は、形を観察しながら「骨名」「主な部位名称」を覚えていく。 ・「筋」は、位置や形を観察しながら「筋名」「骨のどこに付着しているか(起始・停止)」を覚えていく。あわせて、「筋のはたらき(作用)」を理解し、覚えていく。 						
教科書・参考書						
<p>【教科書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版(医学書院) プロメテウス解剖学アトラスコンパクト版 第2版(医学書院)</p> <p>【参考書】 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 (医学書院)</p> <p>【参考アプリ】 ヒューマンアトミーアトラス(Visible Body)</p>						
受講時留意点、その他						
<ul style="list-style-type: none"> ・受講時の服装は長白衣着用とする。アクセサリ類は全て外すこと。 ・頭髪、爪は短く清潔にすること。女性は髪を束ねて顔にかからないようにすること。 ・はさみとセロテープを使用することがある。毎回持参すること。 ・骨模型は、ご遺体をモデルにして作成されたものである。丁寧に扱い、決して不敬な態度をとらないこと。 						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行い、60点以上を合格とする。				
小テスト	*	2回の「小テスト」を予定している。原則として成績評価に含めない。 ただし、答案から明らかに学習不足が見てとれる、白紙等は減点の対象とする。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席・遅刻などは減点の対象とする。 無礼な態度・不適切な身だしなみ・迷惑行為・授業中の飲食・授業中の携帯電話等の使用・授業に関するSNSへの公開・模型への不敬な態度等は減点の対象とする。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	手の筋(手内筋群)①:母指球筋群・小指球筋群 母指球・小指球の筋の付着・作用・支配神経を覚える。【KW】短母指外転筋、短母指屈筋、他	森	p199-	骨模型 基礎医学実習室
第2回	手の筋(手内筋群)②:中手筋群・小指球筋群 中手筋・小指球の筋の付着・作用・支配神経を覚える。【KW】虫様筋、骨間筋、短小指屈筋 他	森	p199-	骨模型 基礎医学実習室
第3回	頭蓋 頭蓋を構成する骨と連結、外部との交通を学ぶ。【KW】縫合、眼窩、蝶形骨、側頭骨、後頭骨、下顎骨、内頭蓋底の孔、脳神経 他	森	p36-	骨模型 基礎医学実習室
第4回	脊柱①:脊柱の全景・椎骨の基本形態 脊柱全景の特徴と椎骨の基本形を学ぶ。【KW】生理的彎曲、椎体と椎弓、突起、第3-6頸椎 他	森	p48-	骨模型 基礎医学実習室
第5回	脊柱②:各椎骨の形態的特徴(1) 頸椎・胸椎・腰椎の特徴的な部位名称を覚える。【KW】前弓、後弓、齒突起、肋骨窩、肋骨突起、乳頭突起 他	森	p49-	骨模型 基礎医学実習室
第6回	脊柱③:各椎骨の形態的特徴(2) 仙骨の部位名称と骨盤の構造を学ぶ。【KW】仙骨孔、仙骨稜、仙骨管、大骨盤、小骨盤、分界線、骨盤の性差 他	森	p53-54, 71,72	骨模型 基礎医学実習室
第7回	胸郭 胸郭の構成・特徴、構成する骨の部位名称、連結を覚える。【KW】胸骨柄、胸骨体、剣状突起、真肋・仮肋・浮遊肋、 他	森	p55-57, 110	骨模型 基礎医学実習室
小テスト①	手の筋、脊柱の復習 第1回～第7回の内容で確認テストと解説を行う。	森		普通教室
第8回	脊柱の連結①:頭蓋・脊柱の連結 頭頸部の連結を学ぶ。【KW】顎関節、環椎後頭関節、正中環軸関節、外側環軸関節、ルンユカ関節 他	森	p103,104, 108,109	骨模型 基礎医学実習室
第9回	脊柱の連結②:椎体間・椎弓間の連結 椎体間および椎弓間の関節と靭帯を学ぶ。【KW】椎間円板、前縦靭帯、後縦靭帯、椎間関節 他	森	p104-107	骨模型 基礎医学実習室
第10回	頭部の筋①:表情筋 表情筋の名称・作用・支配神経を覚える。【KW】前頭筋、眼輪筋、鼻根筋、大頬骨筋、笑筋 他	森	p166-	骨模型 基礎医学実習室
第11回	頭部の筋②:咀嚼筋 咀嚼筋の名称、付着・作用・支配神経を覚える。【KW】咬筋、側頭筋、内側翼突筋、外側翼突筋	森	p166-	骨模型 基礎医学実習室
第12回	体幹の筋①:頸部・胸部の筋 呼吸にかかわる頸部・胸部の筋の付着・作用・支配神経を覚える。【KW】胸鎖乳突筋、斜角筋、肋間筋、胸横筋、横隔膜	森	p167-178	骨模型 基礎医学実習室
第13回	体幹の筋②:胸部の筋 胸部にある肩関節・肩甲骨に作用する筋を学ぶ。【KW】大胸筋、小胸筋、鎖骨下筋、前鋸筋 ほか	市村真	p174-	骨模型 基礎医学実習室
第14回	体幹の筋③:背部の筋 背部にある肩関節・肩甲骨に作用する筋を学ぶ。【KW】広背筋、僧帽筋、菱形筋、肩甲挙筋 ほか	市村真	p182-	骨模型 基礎医学実習室
第15回	体幹の筋④:腹部・背部の筋 腹部・背部の主な筋の名称・作用を覚える。【KW】腹直筋、腹斜筋、腰方形筋、脊柱起立筋	市村真	p180-	骨模型 基礎医学実習室
小テスト②	顔面・体幹の筋の復習 第8回～第15回の内容で確認テストと解説を行う。	森		普通教室
定期試験	後期末試験1(範囲:手の筋、頭蓋、脊柱、胸郭) 前期末試験2(範囲:脊柱の連結、頭部の筋、体幹の筋)			普通教室

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	生理学 I	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	中村 浩(非常勤)	解剖学 I、解剖学 II、病理学 等				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次前期	担当教員は歯科医師です。医療機関での診療業務の経験を踏まえ授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	人体の健常状態における構造と機能について基本的な事実と法則を学ぶ。					
行動目標(SBO)	植物機能系の理解・運動機能系の理解					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>生理学 (physiology) は、生命現象を機能の側面から研究する学問です。 生理学 I では、人体の機能面における動物性機能として、神経、筋、感覚器について学びます。動物性機能は、日常生活や社会生活を営む上で基本的な身体機能のことを示します。これらは、感覚として得られた情報が脳に伝わり、それに応じて脳から電気信号が発せられ、筋肉や諸器官がそれぞれの役割となる仕事をするので、さまざまな状況に合わせた活動を可能にしています。 生理学は「生きている」ということの「原理」を「科学」ともいえ、生体の機能をミクロレベルからマクロレベルまで幅広く捉えています。身体におけるたくさんの「なぜ」を知ることで、医科学の面白さを感じ、興味関心を深めてください。</p>						
教科書・参考書						
<p>【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学(医学書院) 【そのほか】配布資料有り。</p>						
受講時留意点、その他						
<p>前期、毎週金曜日の1, 2限に開講する。 教科書を中心に講義を行う。各主題について資料(コピー)を配布することがある。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回 5月2日	生命現象と人体 細胞とは。エネルギー代謝。細胞の増殖と分化。	中村	P3～	講堂
第2回 5月2日	細胞の構造と機能 細胞相互間の関係。細胞と間質。内部環境。	中村	P13～	講堂
第3回 5月9日	神経系(1)神経細胞のはたらき ニューロン。静止電位と活動電位。伝導。	中村	P21～	講堂
第4回 5月9日	神経系(2)神経細胞のはたらき シナプス伝達。興奮性シナプス。抑制性シナプス。	中村	P21～	講堂
第5回 5月16日	神経系(3)中枢神経 脊髄。脊髄反射。脳幹。小脳。	中村	P33～	講堂
第6回 5月16日	神経系(4)中枢神経 間脳。大脳。脳の高次機能。	中村	P33～	講堂
第7回 5月23日	神経系(5)末梢神経 脊髄神経。脳神経。自律神経。	中村	P23～	講堂
第8回 5月23日	神経系(6)末梢神経 交感神経。副交感神経。	中村	P23～	講堂
補習1 5月30日	前半の復習	中村		講堂
補習2 5月30日	前半の復習	中村		講堂
第9回 6月6日	筋骨格系(1)骨格 骨の機能と組成。骨の発生と成長。骨の生理的な機能。	中村	P53～	講堂
第10回 6月6日	筋骨格系(2)筋 筋の種類と構造。骨格筋細胞の興奮と収縮。筋収縮のメカニズム。	中村	P53～	講堂
第11回 6月13日	筋骨格系(3)筋 平滑筋の収縮。心筋の収縮。	中村	P53～	講堂
第12回 6月13日	筋骨格系(4)運動の調節 錐体路と錐体外路。大脳基底核による調節。小脳による調節。	中村	P36～	講堂
第13回 6月20日	感覚(1)総論、体性感覚 感覚の種類、性質。体性感覚の受容器。上行性伝導路。	中村	P71～	講堂
第14回 6月20日	感覚(2)特殊感覚 視覚。視覚伝導路。平衡聴覚器。聴覚伝導路。	中村	P71～	講堂
第15回 6月27日	感覚(3)特殊感覚 味覚器。嗅覚器。	中村	P71～	講堂
補習3 6月27日	後半の復習	中村		講堂
定期試験	前期末試験			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	運動学 I	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	内田成男・市村紋子	解剖学Ⅱ、解剖学実習Ⅰ、Ⅱ、生理学Ⅰ、Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 後期	この授業は理学療法士・作業療法士が行います。臨床場面での応用に配慮しながら講義していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法・作業療法の基礎知識として身体運動のメカニズムについて理解する。 人間の運動・動作・行為について運動学的思考ができるようにする。					
行動目標 (SBO)	1) 運動学の定義を理解するとともに、運動学を学ぶ意義について考えることができる。 2) 生体力学および運動器の基礎について学び、説明ができる。 3) 四肢の運動特性を理解し、運動学的に説明できる。 4) 脊柱、顎関節、胸郭の運動特性を理解し、説明できる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>運動学は身体運動に関わる身体構造とそのメカニズム(仕組み)を理解し、力学的に解釈していく学問で、理学療法・作業療法の重要な基礎科目の一つです。解剖学や生理学と連動させて理解を深め、実際の身体運動で確認しながら学ぶ姿勢が大切です。</p> <p>運動学Ⅰでは運動学の基本事項および四肢・脊柱・胸郭・顔面の運動について学んでいきます。初めて学ぶ科目で専門用語も多く難しく感じられますが、できる限り実体験を通じ、具体的に理解できるように授業を進めていきます。可能な限り予習・復習を心がけ、分からないこと、疑問に感じたことは積極的に質問してください。(数回の補習授業を予定しています。)</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書 小柳・他(編):PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床, 金原出版, 2015</p> <p>参考書:①中村隆一・他:基礎運動学(第6版・補訂), 医歯薬出版, 2012. ②D. A. Neumann著, 嶋田・他訳:筋骨格系のキネシオロジー, 医歯薬出版, ③塩田 悦仁・訳:カパンディ関節の生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 医歯薬出版</p> <p><その他の参考図書・文献は随時講義中に紹介する。></p>						
受講時留意点、その他						
<ul style="list-style-type: none"> ・体調管理に努め、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。 ・疑問点、理解不十分な事項は、その場で遠慮せずに質問してください。(後回しにしないように) ・受講時は礼儀正しく、清潔な身だしなみ(頭髪、服装、爪など)を心がけましょう。 ・学習進度により授業の内容・時間割等を変更する場合には、紙面やデスクネッツなどでお知らせします。 						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	95	後期末定期試験:60点以上を合格とする。				
小テスト	5	3回の小テストを予定。出題形式:選択・記述・他 成績評価に加えるが、定期試験の成績を優先する。				
レポート	0					
実技試験	—					
プレゼンテーション	—					
その他	注意	理由が正当でない欠席・遅刻、不適切な態度・行動、授業の妨害にあたる行為などは減点の対象とする。 補習授業:4回程度を予定、全員出席すること。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	コースオリエンテーションおよび生体力学の基礎① 運動学の意味および基本用語を理解し、力学の基礎を学ぶ。 【KW】運動の面と軸、ベクトル、並進運動、回転運動、モーメントなど	内田	pp2-39	配布資料 201
第2回	生体力学の基礎②・運動器の基礎①(骨・関節) 運動の法則、身体運動のてこ、骨・関節の基本的事項を学ぶ。 【KW】運動の法則、テコの原理、重力、仕事、骨・関節の基本	内田	pp2-39	配布資料 201
第3回	運動器の基礎①(骨・関節)②(筋・神経) 関節の形状分類、運動自由度など、筋収縮メカニズムについて理解する。 【KW】関節の基本構造、関節の分類、運動と方向の表現、筋収縮機序	内田	pp2-39	配布資料 201
第4回	運動器の基礎②(筋・神経) 筋収縮の調整、運動単位、神経生理学の基本を学ぶ。 【KW】筋線維の分類、運動単位、筋収縮様態、シナプス、伸張反射	内田	pp2-39	配布資料 201
第5回	確認Ⅰ 生体力学と運動器の基礎のまとめ 第1回から4回目までの講義の要点の復習と理解度の確認	内田	pp2-39	配布資料 201
第6回	上肢帯と肩関節の運動学 上肢帯(肩甲帯)と肩関節の構造および運動の特性について説明できる。 【KW】肩複合体、肩甲骨と肩甲上腕関節の動き、肩甲上腕リズム、他	内田	pp100~120	配布資料 201
第7回	肘関節・前腕の運動学 肘関節と前腕の構造を把握し、その運動特性について説明できる。 【KW】腕尺・腕橈・上橈尺・下橈尺関節、肘角、筋の作用、他	市村紋子 内田	pp121~145	配布資料 201
第8回	手関節・手の運動学① 手関節・手指の構造を把握し、その運動特性について説明できる。 【KW】手関節、手根管、手指の関節、手内在筋、手のアーチ、手の変形	市村紋子 内田	pp146~181	配布資料 201
第9回	手関節・手の運動学② 確認Ⅱ 上肢の運動学のまとめ 第8回の続き：手関節・手指の運動特性 第6回~9回目までの講義の要点と理解度の確認	市村紋子 内田	pp100~181	配布資料 201
第10回	股関節の運動学 骨盤帯・股関節の構造を把握し、その運動特性について説明できる。 【KW】股関節のアライメント、靭帯とその働き、股関節の動き、二関節筋、他	内田	pp182~213	配布資料 201
第11回	膝関節の運動学 膝関節の構造を把握し、その運動特性について説明できる。 【KW】膝関節、膝関節のアライメント、靭帯とその働き、rollingとsliding、他	内田	pp213~244	配布資料 201
第12回	足関節と足部の運動 足関節・足部の構造を把握し、その運動特性について説明できる。 【KW】距腿関節、距骨下関節、内がえし、外がえし、足のアーチ、他	内田	pp245~269	配布資料 201
第13回	確認Ⅲ 下肢の運動学のまとめ 下肢運動学の重要事項の再確認。 講義10~12回の要点整理	内田	pp182~269	配布資料 201
第14回	顔面と胸郭の運動学 顎関節・顔面筋の機能解剖、胸郭(呼吸)運動の特性について説明できる。 【KW】顎関節、咀嚼、咬筋、表情筋、肋椎関節、呼吸筋、他	内田	pp270~ pp548~	配布資料 201
第15回	脊柱の運動学・運動学Ⅰの授業内容のまとめ 脊柱の構造と機能、頸部、胸腰部の運動特性について説明できる。 【KW】脊柱、椎間関節、屈曲-伸展、側屈、回旋、体幹の筋	内田	pp283~321	配布資料 201
定期試験		内田		

*補習授業予定 ①: 月 日、 ②: 月 日、 ③: 月 日、 ④: 月 日

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	運動生理学実習	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	赤岩龍士 青山勝二（非常勤講師）	運動学ⅠⅡ・生理学ⅠⅡ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次 後期	この授業はスポーツ認定理学療法士（JSPO公認アスレティックトレーナー）が担当します。運動刺激に対する身体反応について、体験を通し理解を深めます。					
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標（GIO）	運動が人体に与える変化や影響について実習を通し理解を深める。					
行動目標（SBO）	以下の分野について、必要な知識を整理・習得する。 1. 運動における身体生理反応について理解する。 2. 体力の定義を知り、体力測定を行うことで理解を深める。 3. さまざまな体力の視点を踏まえ、運動処方を作成し、集団に対する指導を経験する。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>運動生理学（Exercise Physiology）とは、「運動に関わる生理学」です。本講義における運動とは、身体活動（physical activity）であり、運動生理学は「運動と身体の相互に生じる効果や影響を研究する学問」といえます。そして、運動の効果や影響には望ましいものとそうでないものがあり、「健康」の概念から運動生理学を学んで欲しいと思います。体力テストを行い、その結果を踏まえた運動処方の考案、指導ができることを最終目標としています。また、集団に対する運動指導も理学療法士に求められる技能といえます。処方を受ける側からの視点や印象も大切なので、元氣よく楽しくできるよう各自工夫をしてください。</p>						
教科書・参考書						
教科書：講義配布資料 参考書：基礎運動学第6版（医歯薬出版）						
受講時留意点、その他						
実技の授業では、部分的に運動強度が高い場合がありますので、普段から健康管理を行うとともに、体調がすぐれない場合は無理をしないよう心がけてください。また、運動ができる服装、室内用運動靴、タオルを用意してください。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	50	第15回終了時に提出				
実技試験						
プレゼンテーション	50	第15回で実施する運動処方での発表状況、参加状況				
その他		授業に対する迷惑行為、正当でない理由での遅刻・欠席、無礼な受講態度 などは減点の対象とする場合があります。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	コースオリエンテーション 運動生理学概論 【キーワード】筋生理学・骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム	赤岩	資料	講堂
第2回	エネルギー代謝 実習①心拍数 ATPの産生と再合成について学ぶ。 【キーワード】ATP-PCr系・解糖系・有酸素系	赤岩	資料	講堂
第3回	骨格筋の特性 実習②筋収縮様式(1) 筋の神経学構造と筋収縮の様式、筋の伸張性について学ぶ。 【キーワード】運動単位・筋紡錘・腱紡錘	赤岩	資料	講堂
第4回	体力とは 実習③ 瞬発力と筋持久力 「体力」の定義について学ぶ。 【キーワード】体力要素・行動体力・防衛体力	赤岩	資料	講堂
第5回	体力測定① 実習④体力測定 体力測定の目的、方法についてを学ぶ。 【キーワード】新体力テスト・身体機能評価・身体組成	赤岩	資料	講堂
第6回	体力測定② 実習⑤体力測定 文部科学省新体力テスト、スポーツテスト、を実施する。 【キーワード】全身持久力・20mシャトルラン・最大酸素摂取量	赤岩	資料	講堂
第7回	筋のタイプとトレーニング効果 実習⑥ 等速性収縮 筋線維のタイプについて学ぶ。 【キーワード】筋線維タイプ・アイソカインティック・アイソフォース	赤岩	資料	機能訓練室
第8回	筋のタイプとトレーニング効果 実習⑦WBI測定 筋線維のタイプについて学ぶ。 【キーワード】筋線維タイプ・WBI・立ち上がりテスト	赤岩	資料	機能訓練室
第9回	運動の能力 実習⑧さまざまな運動 運動の種類を学ぶ。ペアワーク、コーディネーショントレーニング、リズムなど	赤岩	資料	講堂
第10回	有酸素運動について① エアロビック運動を体験する。 【キーワード】集団運動・有酸素運動	青山	資料	講堂
第11回	有酸素運動について② 集団への運動指導について学ぶ。 【キーワード】集団運動指導・リスク管理・プログラム立案	青山	資料	講堂
第12回	無酸素運動について 筋力増強運動を体験する。 【キーワード】体幹トレーニング・腕立て伏せ・スクワット	赤岩	資料	講堂
第13回	運動処方 1 集団運動処方 検討 集団に対する運動処方を考案・作成する。 【キーワード】運動処方・集団指導案作成	赤岩	資料	講堂
第14回	運動処方 2 集団運動処方 検討 集団に対する運動処方を考案・作成する。 【キーワード】運動処方・集団指導案作成	赤岩	資料	講堂
第15回	集団に対する運動処方と運動指導 集団運動処方-3 集団に対する運動処方を行い、指導する。 【キーワード】運動処方・集団指導実践	赤岩	資料	講堂

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	人間発達学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	中村直人	心理学、臨床心理学、リハビリテーションと障害、など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 後期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	人間の生涯にわたる変化を心の発達を中心に学ぶ。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達の考え方と発達理論について理解する。 2. 出生から死までのライフサイクルの中で、それぞれの段階における課題と問題点について理解する。 3. 様々な領域の心身機能の発達と障害について縦断的に理解する。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>私たちの身体と心は、誕生から死まで、絶えず変化しています。その間に、私たちは驚くほど沢山のことを経験し成長します。したがって、ある意味で人間は生涯を通して発達し続けていると言え、この考え方は現在の主流となっています。このような、人生を通して経験する身体と心の変化(生涯発達)の特徴について学びます。前期の心理学と同様に、様々な分野に分散して国家試験に出題されます。しっかり取り組んで下さい。</p>						
教科書・参考書						
大城・儀間(編):リハビリテーションのための人間発達学(メディカルプレス)、プリント配布。						
受講時留意点、その他						
授業の進み方によっては、内容が変更される場合がある。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	定期試験の成績で評価する。6割以上を合格とする。				
小テスト	0	理解度を確かめるための確認として行う。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他		授業中の積極的な発言等は、成績に加味する場合がある。正当でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り・携帯電話の使用・飲食等、不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	人間発達総論(KW:発達要因、臨界期、発達段階、発達理論)	中村	p1-14	
第2回	胎生期(胎児期)・新生児期の発達(KW:TORCH症候群、在胎週数評価、新生児行動評価)	中村	p15-30	
第3回	乳児期の発達(KW:アタッチメント、ストレンジ・シチュエーション、移行)	中村	p31-50	
第4回	胎生期、新生児期、乳児期の発達まとめ	中村		
第5回	幼児前期・後期の発達(KW:自己中心性、頭足人、遊び)	中村	p51-68	
第6回	学童期の発達(KW:感情調節、友人関係、道徳性、学校教育)	中村	p69-83	
第7回	青年期の発達(KW:自我同一性、モラトリアム、青年期平穩説)	中村	p85-102 配布資料	
第8回	1-7回のまとめと解説	中村		
第9回	成人期の発達(KW:中年の危機、中年期のライフイベント)	中村	p103-116 配布資料	
第10回	老年期の発達 I (KW:結晶性知能、流動性知能、終末低下説、知恵と熟練)	中村	p117-133 配布資料	
第11回	老年期の発達 II (KW:老人の幸福感、死の受容)	中村	p117-133 配布資料	
第12回	感覚・知覚、記憶の発達	中村	配布資料	
第13回	情緒・思考の発達	中村	配布資料	
第14回	言語機能の発達	中村	p215-221	
第15回	9-14回のまとめと解説	中村		
定期試験	前期末試験			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	リハビリテーション概論	2	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	内田成男	すべての専門基礎および専門科目				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 前期	担当教員:理学療法士 リハビリテーション専門病院を中心に医療機関における臨床業務に従事。リハビリテーションの概念からチーム医療、社会保障制度について専門的立場から授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	現代の医療・福祉・その他の関連領域におけるリハビリテーションについて理解する					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連職種の基本を身につける 2. リハビリテーションの語源・歴史・定義などを理解する。 3. 国際障害分類と国際生活機能分類について理解する。 4. 障害受容の意味を理解し、対象者に寄り添う専門家について考える。 5. リハビリテーションの領域と医療の過程について理解する。 6. リハビリテーション医療に必要な基礎知識(人体の構造と機能、社会保障制度)の概要を知る。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>この授業はリハビリテーションの概念、考え方などを中心に、行動目標に示されている内容を学んでいきます。リハビリテーション専門家を志す皆さんにとって、とても大切な科目ですから、能動的に集中して授業に臨んでください。</p> <p>また、理学療法士、作業療法士には、コミュニケーション能力を磨き、より良い人間関係を構築することが求められます。講義に加えてグループワーク、演習、討論などを両学科の交流を交えて行います。積極的な態度で授業に臨んでください。</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書:①川手信行(編):はじめての講義 リハビリテーション概論のいろは. 南江堂. 2022</p> <p>参考図書②国際生活機能分類 ー国際障害分類改訂版ー (中央法規)</p> <p>その他、必要な文献・資料は随時提示する。</p>						
受講時留意点、その他						
<p>この授業は医療の現場で勤務していることを想定して行いますので医療人としての身嗜み等にも注意して受講してください。学生ハンドブックに記載されている内容、教務部オリエンテーションで配布した受講時の注意点を理解すること。教科書、配布資料は必ず熟読すること。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期期末試験を実施する。				
小テスト		授業終了時に重要事項の確認テストを実施する。(成績評価には含めない)				
レポート		課題レポートの提出を検討している。(成績評価に加味することがある)				
実技試験		なし				
プレゼンテーション		必要に応じて実施する。(成績評価には含めない)				
その他		医療人として節度ある態度で授業に臨んでください。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回 4月7日	コースオリエンテーション・医療専門職種の基本 ～リハビリテーション専門家の身だしなみと接遇(基本的態度)について考える～ KW: ルールとマナー・身だしなみ・接遇・インフォームドコンセント・感染対策	内田		配布資料 講堂
第2回 4月14日	医学・医療の歴史 ～医学・医療の発展過程の概要を知る～ KW: 古代・中世・近代・基礎医学・診断技術・疾病構造・日本医学史	内田	pp4～5 pp15～18	配布資料 講堂
第3回 4月21日	リハビリテーションの歴史と理念 ～リハビリテーションの意味について理解する～ KW: rehabilitation・自立生活(IL)運動・ノーマライゼーション・国際障害者年	内田	pp1～14	配布資料 講堂
第4回 4月28日	病気と障害の捉え方:国際疾病分類(ICD)・国際障害分類(ICIDH)・国際生活機能分類(ICF)の概要を知る。 KW: ICD・ICIDH・ICF・機能障害・能力低下・社会的不利・背景因子	内田	pp18～29	配布資料 講堂
第5回 5月12日	国際生活機能分類(ICF) その構造と意義について理解を深める。 KW: ICF・心身機能・身体構造・活動・参加・環境因子・個人因子	内田	pp18～29	配布資料 講堂
第6回 5月19日	リハビリテーションとチーム ～特にチーム医療について考える～ KW: チームアプローチ・多職種連携・カンファレンス・プログラム	内田	pp31～44	配布資料 講堂
第7回 5月26日	リハビリテーション医療を担う専門家 職種の理解を深める。 KW: 医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・義肢装具士・他	内田	pp31～44	配布資料 講堂
第8回 6月2日	リハビリテーション医療に必要な基礎知識を概観する。 KW: 解剖学・生理学・運動学・他日常生活活動(ADL)・生活の質(QOL)	内田	pp47～64	配布資料 講堂
第9回 6月9日	リハビリテーションの領域と流れ(過程)について理解する。 KW: 医学的R・社会的R・職業的R・教育的R	内田	pp1～29	配布資料 講堂
第10回 6月11日	リハビリテーション医療の流れ(過程)について理解する。 KW: 予防・急性期・回復期・生活期(維持期)・ゴール設定・治療(介入)計画	内田	pp1～29	配布資料 講堂
第11回 6月16日	リハビリテーションと社会保障制度について理解する。 KW: 医療保険制度・公的扶助制度・介護保険制度・医療法・福祉関係法規	内田	pp65～88	配布資料 講堂
第12回 6月23日	リハビリテーション関連領域を概観する。 KW: 補装具・車椅子・環境制御装置・BMI・ロボティクス・栄養・摂食・嚥下	内田	pp89～ 127	配布資料 講堂
第13回 6月30日	代表的疾患のリハビリテーションについて理解する。 KW: 脳卒中・神経・筋疾患・脊髄損傷・切断・RA・脳性麻痺、その他	内田		配布資料 講堂
第14回 7月7日	リハビリテーション医療について仮想症例を通じて具体的に考える。 KW: 仮想症例・評価・カンファレンス・ゴール設定・治療計画立案	内田		配布資料 講堂
第15回 7月14日	症例検討とまとめ	内田		配布資料 講堂
定期試験 7月25日(予定)	前期末試験:第1～15回の範囲で筆記試験を行う。 出題内容は事前に提示する。	内田		講堂

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	チーム医療論	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	白井英彬 古屋亜由美 野田幸男 稲葉有紀子 石島淳児、柚木克方 馬場幸治	コミュニケーション論、リハビリテーション概論				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 前期	この授業は理学療法士／作業療法士を始め、外部講師による講義を予定しています。医療施設での各職種の実務経験を基に、チーム医療の必要性、各職種の専門性を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	医療現場の様々な職種の役割を理解し、チーム医療を学ぶ。					
行動目標(SBO)	1. チーム医療の必要性、現状を学ぶ。 2. チーム医療に関わる職種の専門性、役割、業務を理解する。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
医療現場は、立場も専門も異なる多くの人が働く場所です。家族・患者さんにとって最適の医療を効率的に提供するためには、職種間協働に基づく、「チーム医療」が必要とされています。この科目では「チーム医療」の現状から、理学療法士と関わる様々な職種の専門性・役割・業務を学びます。多職種の業務内容を知り、チームの一員としてどのように接し、どのような情報を収集・共有すべきか、理解を深めてください。						
教科書・参考書						
参考書 :①水本 清久 他 : 実践チーム医療論 実践と教育プログラム. 医歯薬出版. 2011 ②内山靖,藤井浩美,立石雅子 編 コミュニケーション論・多職種連携論 医歯薬出版 2021						
受講時留意点、その他						
チーム医療には適切な意思疎通・コミュニケーションが不可欠です。臨床の時間を割いて授業に来て下さる外部の先生もいらっしゃいます。授業中はしっかり板書、メモを取り、話を聞くとときに適した姿勢や態度で臨みましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	各授業(第2回～第8回)に沿ったテーマで課題を課し、提出物の内容を評価する。提出期限はその都度提示する。提出が遅れた場合受け付けない。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	授業への積極的な参加(発言、反応など)を行動観察で評価する。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回 5月29日	チーム医療とは 【KW】リハビリテーション医学・チーム医療	白井	配布資料	講堂
第2回 6月5日	医療における職種の理解と他職種連携 - 医師 - 【KW】職種理解、治療計画、カンファレンス	野田	配布資料	講堂
第3回 6月12日	医療における職種の理解と他職種連携 - 看護師 - 【KW】ADL援助、精神的サポート、リハ職種との連携	稲葉	配布資料	講堂
第4回 6月19日	医療における職種の理解と他職種連携 - 言語聴覚士 - 【KW】言語・嚥下訓練、リハ職種との連携	石島	配布資料	講堂
第5回 6月26日	医療における職種の理解と他職種連携 - MSW - 【KW】退院援助、社会復帰援助、リハ職種との連携	柚木	配布資料	講堂
第6回 7月3日	医療における職種の理解と他職種連携 - 義肢装具士 - 【KW】装具療法・義肢装具作成調整、連携	馬場	配布資料	講堂
第7回 7月19日	医療における職種の理解と他職種連携 - 作業療法士 - 【KW】運動療法、ADL、QOL	古屋	配布資料	201
第8回 7月20日	まとめ 理学療法士から見た多職種連携 - 理学療法士 - 【KW】各専門職との関わり、チーム医療	白井	配布資料	201
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	社会福祉概論	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	中村毎途	リハビリテーション概論・チーム医療論・関連法規				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 前期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	国民の生活支援や人権に関わる社会保障制度や社会福祉を理解する					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度の背景を説明できる。 2. 社会保障制度の種類と仕組みを説明できる。 3. 障害の捉え方・障害者の人権について説明できる。 4. 子どもと高齢者に関わる福祉について説明できる。 5. リハ専門職種として関わる制度について説明できる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>超高齢社会となり、社会保障制度の在り方が問われている現代において、その背景や種類と仕組み、障害者の人権問題など理解する必要があります。障害のある人がその人らしく生活が送れるよう支援するためには、社会自体が受け入れる環境をつくることも大切であり、そのひとつが社会保障や社会福祉であります。社会福祉の制度は当事者が必要性を訴えることで作られており、どんな社会を目指すことが大切なのか、対象者を支援する我々専門職が一緒になって考えていくことが必要であります。</p> <p>授業は各回ごとに授業目標を提示し、その内容について講義します。授業の中ではポイントを提示しますので、振り返り学習は授業目標とポイントに沿って行って下さい。</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書：指定教科書なし</p> <p>参考書：系統看護学講座 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院 コメディカルのための社会福祉概論 第4版 講談社</p> <p>その他：配布資料あり</p>						
受講時留意点、その他						
授業の中では厚生労働省等から公開されている資料も使用します。配布資料に出典先のURL等を合わせて提示しますので参考にして下さい。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を実施する。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他		授業中の居眠りや不適切な行動は減点の対象となります。また、積極的かつ建設的な質問や意見は加点の対象とします。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	コースオリエンテーション・社会保障とは 社会保障の定義・日本国憲法との関連、リハビリテーションと社会保障 【KW】社会保障・憲法・リハビリテーション	中村	配布資料	201
第2回	日本の社会福祉の歴史 社会福祉の歴史を通して、現代社会の社会保障制度について理解する 【KW】慈善救済・福祉六法・社会福祉	中村	配布資料	201
第3回	社会保障制度に影響を与える要因 4つの要因から社会保障制度との関連性を学ぶ 【KW】少子高齢化・世帯数・経済成長	中村	配布資料	201
第4回	障害と人権 障害観、障害者の人権について 【KW】障害観・障害者の権利擁護・障害者権利条約	中村	配布資料	201
第5回	障害者権利条約を批准するまでの過程と法の整備 日本が障害者権利条約に批准するまでの過程を学ぶ 【KW】障害者権利条約・障害者基本法・障害者差別解消法	中村	配布資料	201
第6回	高齢者と福祉 高齢者を取り巻く状況を理解する 【KW】介護保険制度・超高齢社会・高齢者	中村	配布資料	201
第7回	子どもと福祉 子どもに関わる法制度と社会制度用を理解する 【KW】少子化対策・児童福祉・子育て支援	中村	配布資料	201
第8回	リハ専門職が関わる制度 PT・OTを提供することでの報酬を規定する制度について理解する 【KW】医療保険・障害者総合支援法	中村	配布資料	201
定期試験	終講後に前期末試験を実施する			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	基礎理学療法学 I	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	植田英則/白井英彬	運動学 I・II、解剖学実習 I・II、リハビリテーション概論				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法に必要な基礎的知識を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法を理解するのに必要な基礎医学の知識を習得する。					
行動目標 (SBO)	運動を学ぶ：骨・関節・筋の基本構造と機能、障害と基本的な理学療法を学ぶ。 理学療法の基礎を学ぶ：検査法、理学療法の定義・倫理観を学ぶ。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>この科目は、皆さんが初めて学ぶ専門科目です。</p> <p>理学療法は、基本的な動作の回復を目標として行われます。ヒトの動作を実行するには、直接はたらく「骨・関節・筋」、それらに指令をあたえる「神経」、そして、身体活動のエネルギーを生み出す「呼吸・循環・代謝」の働きが不可欠です。この授業の前半では、そのうち「骨・関節・筋」の基礎を学んでいきます。後半は理学療法に必要な現場での知識、代表的な疾患や移動について学びます。</p> <p>授業中に提示された重要項目・最重要項目は必ずその日のうちに復習を実施して下さい。患者さんのために必要な学力は、日頃の積み重ねによって作られます。復習が上手くできない、理解が進まない、という人には早めに相談して下さい。補習等に応じます。</p>						
教科書・参考書						
教科書：なし。授業ごとに資料を配布						
受講時留意点、その他						
<p>健康管理をしっかり行い、休まずに受講しましょう。身だしなみを整え、礼儀正しく受講しましょう。</p> <p>予定・日程を変更する場合、掲示板またはデスクネットでお知らせします。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	定期試験を実施します。100点満点で60点以上を合格とします。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	授業への積極的な参加、科目に対する興味・関心が良好等は加点の対象とする場合があります。 無礼な態度、不適切な身だしなみ、受講中の居眠り、迷惑行為(受講中の私語、飲食、携帯電話の使用等)、SNS等への授業についての公開 など 減点の対象とします。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	身体を表現する基本用語: 身体の部位、姿勢など表す専門用語を学ぶ。予習として「解剖学的立位姿勢」を検索してみよう。 【KW】四肢・体幹・基本肢位・方位・姿勢 等 *	植田	配布資料	201
第2回	骨・関節の構造と機能: 骨・関節の基本構造、関節運動の表現を学ぶ。予習として「関節の運動方向」を検索してみよう。 【KW】骨の構造・骨の役割・関節の構造・関節運動 等	植田	配布資料	201
第3回	骨格筋の構造と機能: 骨格筋の構造と筋収縮のしくみを学ぶ。予習として「等尺性収縮・等張性収縮」を検索してみよう。 【KW】筋組織・筋の構造・筋の収縮機序・収縮様式 等	植田	配布資料	201
第4回	筋力 (musclar strength): 筋力の概念を学ぶ。予習として「第1のテコ」を検索してみよう。 【KW】筋力を決める因子・モーメント・徒手筋力検査 等	植田	配布資料	201
第5回	関節可動域 (ROM): 関節の可動性を学ぶ。予習として「ゴニオメーター」を検索してみよう。 【KW】関節の形状・参考可動域・関節可動域検査 等	植田	配布資料	201
第6回	関節と理学療法: 関節可動域制限に対する基礎的な理学療法を学ぶ。予習として「熱の伝達」を検索してみよう。 【KW】関節可動域運動・温熱療法 等	植田	配布資料	201
第7回	運動器の基礎 ; 復習 I 骨・関節・筋 の基礎事項について復習する。	植田	配布資料	201
第8回	歩行の観察: 歩行の概要と異常歩行を学ぶ。予習として「歩行周期」を検索してみよう。 【KW】重心・10M歩行スピード・異常歩行	植田	配布資料	201
第9回	ADLを支援する機器: 杖歩行の方法、杖の効果を学ぶ。予習として「歩行補助具」を検索してみよう。 【KW】T杖・松葉杖・調整方法・股関節にかかる力 等	植田	配布資料	201
第10回	車椅子の基礎知識 車椅子の部位名称、操作方法、管理方法を学ぶ。 【KW】車椅子、ティッピングレバー、空気圧	植田	配布資料	201
第11回	脳血管障害の基礎知識: 理学療法の対象となる代表的な疾患を学ぶ。予習として「痙性」を検索してみよう。 【KW】片麻痺・脳卒中等	長田	配布資料	201
第12回	運動器疾患の基礎知識: 理学療法の対象となる代表的な疾患を学ぶ。予習として「退行性変化」を検索してみよう。 【KW】骨折・変形性関節症・人工関節等	植田	配布資料	201
第13回	理学療法の定義: 理学療法士の業務、理学療法の法的定義を学ぶ。予習として「基本的動作」を検索してみよう。 【KW】直接業務・間接業務・法的定義・欠格事由 等	植田	配布資料	201
第14回	理学療法の倫理: 理学療法士に必要な要素を学ぶ。予習として「医療事故」のニュースを検索してみよう。 【KW】倫理観・個人情報保護・成人 等	植田	配布資料	201
第15回	運動器と理学療法 ; 復習 II 骨・関節・筋に対する理学療法と対象疾患を復習する。	植田	配布資料	201
定期試験	第1～15回の内容			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	基礎理学療法学実習 I	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	植田英則	基礎理学療法学 I、リハビリテーション概論、機能診断学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法に必要な基本的な技術を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法学生としての好ましい態度を身につける。 患者に適切な礼節で対応できる。					
行動目標 (SBO)	①障がい者の気持ちを体験し、表現できる。 ②骨・関節・筋の基本構造と機能と基本的な理学療法を学ぶ。 ③患者に対して挨拶、自己紹介等ができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業は、皆さんが初めて学ぶ実技科目です。実技科目ですが、「対象者への接し方」を身につけることを主な目標とします。患者さんに接するには、技術の前に「態度」が大切です。どのような態度が求められるのか？皆さんはまだ分からないので、実技授業の中で身につけていきましょう。また、理学療法士が使用する機器の扱い方を知り、大事に取り扱うよう心掛けて下さい。 後半には技術面を習得する内容になります。授業中は、説明をしっかりと聴いて、より多くのクラスメイトと練習を繰り返しましょう。実技上達のためには、「繰り返す」「より多くの被験者に触る」が秘訣です。週2～3回は必ず、放課後に実習室を利用して練習するように心がけましょう。実技の練習は一人ではできないので、友人と声をかけあい、協力して練習しましょう。						
教科書・参考書						
教科書:なし。必要に応じ、資料を配布						
受講時留意点、その他						
体調管理をしっかりとって、休まずに受講しましょう。人に触れるので、感染症予防対策をとらなければなりません。また、医療を学ぶ学生として重要なことです。初回に手洗い、消毒方法、清潔について学習しますので、以後徹底できるように真剣に臨み早期に習慣化させましょう。 Tシャツ、ジャージで動きやすい服装で受講して下さい。Tシャツ、ジャージは落ち着いた色のものを着用。スウェット生地は禁止。 靴下は踝が隠れる白物とする。実習靴は白とする。爪は短く、頭髪は眉や耳にかからないようにしましょう。実習前後には必ず手を洗い、みだりに頭髪を触らないなど清潔に心がけましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	10	第4回レポート作成を評価する。評価基準は①提出期限を遵守できる②レポート規定を遵守できる③誤字脱字がない。以上3点となる。				
実技試験	50	患者対応、トランスファーを実施する。詳細な採点基準については実技試験2週間前に提示する。				
プレゼンテーション						
その他	40	授業態度、身だしなみ、教科書・教材の携帯状況、グループでの活動状況、授業まとめの記載状況から判断する。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	オリエンテーション・感染予防・理学療法士が使用する機器 手洗い、消毒方法を学ぶ。機能訓練室にある機器の特徴を学ぶ。 【KW】平行棒、ティルトテーブル、プラットフォーム、重錘	植田		機能訓練室
第2回	<u>障がい体験①:</u> 手足に障害を持った状態を疑似体験する。 【KW】車椅子・歩行・杖	植田		機能訓練室
第3回	<u>障がい体験②:グループディスカッション</u> 体験についてグループで話し合い、発表する。 【KW】ディスカッション・デモンストレーション・発表	植田		機能訓練室
第4回	<u>障がい体験③:レポート作成実習</u> 第3・4回の内容でレポートを作成し、作成のルールを覚える。 【KW】表紙・作成のルール・参考文献	植田		講堂
第5回	<u>関節運動の面と種類</u> 関節を動かし、運動の種類、面、軸を言えるようにする。 【KW】関節運動・基本面・運動軸	植田		機能訓練室
第6回	<u>筋の収縮様式</u> 筋の収縮様式を区別できるようにする。 【KW】求心性収縮・遠心性収縮・等尺性収縮 等	植田		機能訓練室
第7回	<u>関節可動域(ROM) 1</u> 症例の挨拶・説明・同意を得る方法、角度計の使用方法を学ぶ。 【KW】導入、説明と同意、角度計	植田		機能訓練室
第8回	<u>関節可動域(ROM) 2</u> ROM測定を体験し、上肢の関節の参考可動域を覚える。 【KW】肩・肘・手・参考可動域	植田		機能訓練室
第9回	<u>徒手筋力検査(MMT)</u> MMTを体験し、抗重力位、除重力位を覚える。 【KW】徒手抵抗・重力・自動運動・筋収縮	植田		機能訓練室
第10回	<u>歩行速度測定</u> 10M歩行速度等の測定を通し、歩行の時間因子を理解する。 【KW】10m歩行時間・歩行速度・歩行率	植田		機能訓練室
第11回	<u>杖の調節・車椅子体験</u> 杖の使い方、車椅子の部位、使用方法を学ぶ。 【KW】杖・歩行	植田		機能訓練室
第12回	<u>車椅子体験</u> 車椅子の調整方法、自操を学ぶ。 【KW】車椅子・駆動方法・整備	植田		機能訓練室
第13回	<u>動作介助1:動作介助の基本</u> ヒトの重心を感じる。 【キーワード】起立・着座動作、重心移動	植田		機能訓練室
第14回	<u>動作介助2:トランスファー</u> 【キーワード】車椅子、移乗方法、介助	植田		機能訓練室
第15回	<u>動作介助3:トランスファー</u> 【キーワード】車椅子、移乗方法、介助	植田		機能訓練室
定期試験	実技試験を実施する。課題は患者対応、トランスファー	植田		機能訓練室 治療室

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	基礎理学療法学Ⅱ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	植田英則/白井英彬	運動学Ⅰ、解剖学Ⅰ・Ⅱ、解剖学実習Ⅰ・Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法に必要な基礎的知識を教授します。					
	授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示					
一般目標(GIO)	理学療法を理解するのに必要な基礎医学の知識を習得する。					
行動目標(SBO)	運動のコントロールを学ぶ：中枢神経の構造と機能、障害を学ぶ。 理学療法の基礎を学ぶ：理学療法を実施する上で必要な骨・筋の触診ポイントを学ぶ。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>理学療法は、基本的な動作の回復を目標として行われます。基礎PT学Ⅰでは「骨・関節・筋」を中心に学習しました。この科目の前半で、それらに指令をあたえる「神経」の基礎を学んでいきます。</p> <p>後半は理学療法を実施する上で必要な骨・筋の触診ポイントを学びます。また、理学療法の基本的な方法についても一部学んでいきます。2年次以降の評価学・治療学に非常につながる内容ですので、是非、興味をもって受講して下さい。</p> <p>授業中に提示された重要項目・最重要項目は必ずその日のうちに復習を実施して下さい。患者さんのために必要な力は、日頃の積み重ねによって作られます。復習が上手くできない、理解が進まない、という人には早めに相談して下さい。補習等にも応じます。</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書：運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 下肢・体幹 上肢 電子版 MEDICL VIEW</p> <p>参考書：筋骨格系触診マニュアル 改訂新版 ガイアブックス</p>						
受講時留意点、その他						
<p>健康管理をしっかり行い、休まずに受講しましょう。身だしなみを整え、礼儀正しく受講しましょう。</p> <p>予定・日程を変更する場合、デスクネッツでお知らせします。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	定期試験を実施します。100点満点で60点以上を合格とします。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	<p>授業への積極的な参加、科目に対する興味・関心が良好 等は加点の対象とする場合があります。</p> <p>無礼な態度、不適切な身だしなみ、受講中の居眠り、迷惑行為(受講中の私語、飲食、携帯電話の使用等)、SNS等への授業についての公開 など 減点の対象とします。</p>				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	神経細胞の構造と伝導・伝達 神経細胞の構造と伝導・伝達の仕組みを学ぶ。 【KW】ニューロン・伝導・神経線維・シナプス 等	白井		201
第2回	大脳の構造と機能 大脳の構造と機能局在を学ぶ。 【KW】大脳皮質・機能局在・大脳基底核・間脳 等	白井		201
第3回	脳幹・小脳・脊髄 脳幹・小脳・脊髄の構造と機能を学ぶ。 【KW】中脳・延髄・小脳・脊髄・脊髄神経 等	白井		201
第4回	反射のメカニズム 伸張反射のメカニズムを学ぶ。 【KW】伸張反射・筋紡錘	白井		201
第5回	随意運動 随意運動の基盤となる反射、伝導路を学ぶ。 【KW】伸張反射・筋紡錘・錐体路・錐体外路	白井		201
第6回	中枢神経の復習 第1～5回までの内容を復習する。	白井		201
第7回	筋骨格系の触診① 上肢の触診できる骨を学ぶ。 【KW】肩甲骨・上腕骨 等	植田	上肢	201
第8回	筋骨格系の触診② 上肢の触診できる骨を学ぶ。 【KW】橈骨・尺骨・手根骨 等	植田	上肢	201
第9回	筋骨格系の触診③ 上肢の触診できる筋を学ぶ。 【KW】腱板・上腕二頭筋・上腕三頭筋 等	植田	上肢	201
第10回	筋骨格系の触診④ 上肢の触診できる筋を学ぶ。 【KW】前腕伸筋群・前腕屈筋群 等	植田	上肢	201
第11回	筋骨格系の触診⑤ 下肢の触診できる骨を学ぶ。 【KW】骨盤・大腿骨 等	植田	下肢・体 幹	201
第12回	筋骨格系の触診⑥ 下肢の触診できる骨を学ぶ。 【KW】脛骨・腓骨・足根骨 等	植田	下肢・体 幹	201
第13回	筋骨格系の触診⑦ 下肢の触診できる筋を学ぶ。 【KW】大殿筋・大腿四頭筋・ハムストリングス 等	植田	下肢・体 幹	201
第14回	筋骨格系の触診⑧ 下肢の触診できる筋を学ぶ。 【KW】腓腹筋・ヒラメ筋・前脛骨筋・後脛骨筋 等	植田	下肢・体 幹	201
第15回	まとめ 第1～14回の講義内容を復習する。	植田		201
定期試験	実施する			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	基礎理学療法学実習Ⅱ	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	植田英則/白井英彬	解剖学Ⅱ、解剖学実習Ⅰ、基礎理学療法学Ⅱ、機能診断学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
1年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法に必要な基本的な技術を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法学生としての好ましい身だしなみ、立ち居振る舞いが出来る。 血圧・脈拍測定が出来る。表層の筋・骨の触診が出来る。					
行動目標 (SBO)	①血圧・脈拍測定に必要な動脈を触診することができる。 ②コロコフ音を確認することができる。 ③血圧計を適切に扱うことができる。 ④骨・関節・筋の知識を基に各ランドマーク、部位を触診することができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業では、前期に学んだ知識からさらに発展させていく実技科目です。 前半は対象者の血圧・脈拍測定を実施します。動脈の走行は個人差があります。適切な圧で触れなれば脈拍を測定できませんし、聴診器の当てるところも間違えてしまいます。冷静に手順に則り進められるようにして下さい。 後半は全身の骨・筋の触診をします。自分が触れようと思っている部位がどこにあるのか、どのくらいの大きさなのか解剖学の知識をいかして進めていきます。前期で不十分であった学生は授業前に必ず復習するようにして下さい。そのことで触れる時の圧が適切になり、対象者は心地よくリラックスでき、よりの確な位置を捉えることができるでしょう。授業中は、説明をしっかりと聴いて、より多くのクラスメイトと練習を繰り返しましょう。実技上達のためには、「繰り返す」「より多くの被験者を触る」が秘訣です。 週2～3回は必ず、放課後に実習室を利用して練習するように心がけましょう。実技の練習は一人ではできないので、友人と声をかけあい、協力して練習しましょう。						
教科書・参考書						
教科書:運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 下肢・体幹 上肢 電子版 MEDICL VIEW 参考書:筋骨格系触診マニュアル 改訂新版 ガイアブックス						
受講時留意点、その他						
体調管理をしっかりして、休まずに受講しましょう。 Tシャツ、ジャージなど動きやすい、相手が触れやすい服装で受講して下さい。Tシャツ、ジャージは落ち着いた色のものを着用。スウェット生地は禁止。 靴下は踝が隠れる黒・紺・灰・白とする。実習靴は白とする。爪は短く、髪は眉や耳にかからないようにしましょう。実習前後には必ず手洗いまたは消毒をし、授業中にはみだりに頭髪を触らないなど清潔に心がけましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート						
実技試験	90	血圧・脈拍測定と触診を実施する。詳細な採点基準については実技試験2週間前に提示する。				
プレゼンテーション						
その他	10	授業態度、身だしなみ、教科書・教材の携帯状況、グループでの活動状況から判断する。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回	<u>バイタルサイン測定の基礎、実施</u> 血圧計の部位名称を言える。動脈を触診できる。 【KW】血圧、血圧計、聴診器、橈骨動脈、上腕動脈	白井		機能訓練室
第2回	<u>血圧、脈拍など測定 1</u> 血圧計の取扱を正しくできる。収縮期・拡張期血圧が確認できる。 【KW】安静時、血圧・脈拍測定、記録、聴診法	白井		機能訓練室
第3回	<u>血圧、脈拍など測定 2</u> 脈拍測定・血圧測定の手順がスムーズに行うことができる。 【KW】安静時、血圧・脈拍測定、記録、	白井		機能訓練室
第4回	<u>血圧、脈拍など測定 3</u> たくさんの同級生に測定できる。 【KW】座位、血圧、聴診法、触診法	白井		機能訓練室
第5回	<u>血圧、脈拍など測定 4</u> 一連の流れが提示された時間内で終了することができる。 【KW】安静時、血圧・脈拍測定、記録	白井		機能訓練室
第6回	<u>上肢の触診:肩甲骨、上腕骨</u> 肩関節周囲、肘周囲のランドマークを触れる 【キーワード】肩甲棘、肩峰、上腕骨頭、内側上顆、外側上顆	植田	上肢	治療室
第7回	<u>上肢の触診:前腕、手の骨</u> 前腕と手関節周囲のランドマークを触れる 【キーワード】肘頭、橈骨頭、茎状突起、手根骨	植田	上肢	治療室
第8回	<u>上肢の触診:肩甲骨・上腕の筋</u> 肩関節周囲と上腕の筋を触れる 【キーワード】回旋筋腱板、三角筋、上腕二頭筋	植田	上肢	治療室
第9回	<u>上肢の触診:前腕・手の筋</u> 前腕・手の筋を触れる 【キーワード】前腕屈筋群、前腕伸筋群、長母指伸筋	植田	上肢	治療室
第10回	<u>上肢の触診:復習</u> 第6～9回まで触診した骨・筋を触れる 【キーワード】全ての骨・筋	植田	上肢	治療室
第11回	<u>下肢の触診:骨盤、大腿骨</u> 骨盤、股関節のランドマークを触れる 【キーワード】ASIS、PSIS、腸骨稜、仙骨、大転子	植田	下肢・体幹	治療室
第12回	<u>下肢の触診:下腿、足の骨</u> 下腿・足部の筋を触れる 【キーワード】脛骨粗面、腓骨頭、内外果、舟状骨、第5中足骨	植田	下肢・体幹	治療室
第13回	<u>下肢の触診:骨盤・大腿の筋</u> 骨盤・大腿の筋を触れる 【キーワード】大殿筋、中殿筋、大腿筋膜張筋、縫工筋	植田	下肢・体幹	治療室
第14回	<u>下肢の触診:下腿・足部の筋</u> 下腿・足部の筋を触れる 【キーワード】腓腹筋、前脛骨筋、後脛骨筋、長腓骨筋	植田	下肢・体幹	治療室
第15回	<u>下肢の触診:下肢の復習</u> 第11～14回まで触診した骨・筋を触れる 【キーワード】下腿三頭筋、前脛骨筋、長短腓骨筋	植田	下肢・体幹	治療室
定期試験	バイタルサイン測定と触診の実技試験を実施する。	白井植田 他		機能訓練 室治療室

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	機能診断学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子、長田美紀	基礎理学療法学Ⅰ、Ⅱ 神経機能評価学、運動機能評価学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 後期	この講義は理学療法士が担当します。医療機関における実務経験を基に、理学療法評価の基礎を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	理学療法評価における各検査測定的位置づけとその基礎を学ぶ。					
行動目標(SBO)	①理学療法における評価の位置づけを知る。 ②各検査測定の方法の理学療法における位置づけを知る。 ③各検査測定の基礎的な知識を学ぶ。 ④基本的な評価バッテリーを理解する。 ⑤評価結果の統合と解釈および治療計画立案までの理学療法評価の一連の課程を知る。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
本講義では理学療法における評価の基礎を学びます。評価は対象者の状態を知るための重要な位置づけとなっています。医療面接から検査・測定方法、および結果の解釈までの一連の流れを理解できるよう展開していきます。幅広く専門的知識を学ぶので、分からないことがありましたら担当教員に質問してください。						
教科書・参考書						
【教科書】内山靖・岩井信彦(編)標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版.医学書院.2023 医療情報科学研究所.病気がみえるvol7.脳・神経 第2版.メディックメディア.2017 【参考書】PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 潮見泰藏・下田信明編 羊土社 2020						
受講時留意点、その他						
専門職としての思考・技術を構築するための基礎であると認識しながら受講できると良いでしょう。2年次の専門科目の基礎になる内容です。各講義の関連性を考え、2年次の授業に繋がるように理解を深めていきましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験を実施。60点以上を合格の目安とする。				
小テスト	*	必要に応じて確認テストを行う。(成績には含めない)				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正答でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り、携帯電話の使用や飲食等の不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	オリエンテーション・総論 評価の位置づけとその概念について学ぶ。 【キーワード】仮説と検証、統合と解釈	望月	2～43 配布資料	
第2回	情報収集 情報収集の目的、種類、収集の仕方について学ぶ。 【キーワード】医療面接、医学的情報、社会的情報	望月	20～43 配布資料	
第3回	バイタルサイン、呼吸・循環機能の検査 バイタルサインの概要、呼吸器・循環器で行う検査測定について学ぶ。 【キーワード】血圧、意識、呼吸数	望月	44～49 配布資料	
第4回	姿勢と形態測定 形態測定の種類、四肢長・周径の測定基準を学ぶ。 【キーワード】ランドマーク、四肢長、周径	望月	50～59 配布資料	
第5回	関節可動域検査 関節可動域測定の方法、手順、記載方法を理解する。 【キーワード】自動運動、他動運動、代償動作	望月	60～90 配布資料	
第6回	筋力検査 筋力検査の種類、目的、方法を理解する。 【キーワード】筋力、筋収縮様式、MMT	望月	91～105 配布資料	
第7回	動作、歩行評価 動作や歩行の評価について知る。 【キーワード】歩行周期	望月	316～328 配布資料	
第8回	整形外科検査、痛みの評価 代表的な整形外科検査、痛みの評価の方法について学ぶ。 【キーワード】NRS、VAS	望月	216～224 配布資料	
第9回	感覚検査 感覚検査の定義、伝導路、障害、検査方法について学ぶ。 【キーワード】表在感覚、深部感覚	長田	106～117 配布資料	
第10回	反射・筋トーン 代表的な反射検査、筋トーン異常の検査方法や種類を学ぶ。 【キーワード】伸張反射、病的反射、痙縮・固縮	長田	118～127 配布資料	
第11回	片麻痺運動機能 随意性の障害を理解し、運動麻痺の評価の方法を知る。 【キーワード】BRS、共同運動、連合反応	長田	128～133 配布資料	
第12回	脳神経 脳神経の種類、代表的な検査方法について学ぶ。 【キーワード】運動神経、感覚神経、自律神経	長田	134～144 配布資料	
第13回	協調運動機能 協調運動機能検査、失調について学ぶ。 【キーワード】協調運動、四肢、体幹	長田	145～152 配布資料	
第14回	高次脳機能検査 脳の機能解剖と主要障害(失語・失行・失認)を理解する。 【キーワード】失語、失行、失認	長田	153～171 配布資料	
第15回	日常生活活動の評価 ADLの定義と分類を理解する。 【キーワード】ADLとAPDL、QOL、BI、FIM	長田	284～295 配布資料	
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	臨床実習 I	1	45	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子、大沼賢洋 臨床実習指導者	基礎理学療法学 I・II、基礎理学療法学実習 I・II				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
1年次 後期	この授業は、臨床の理学療法士および学校教員で担当します。医療施設での実務経験をもとに、患者への理学療法や業務について見学や体験を通して学びを深めます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	<p>1. 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる (理学療法の対象者との関係性構築)</p> <p>2. 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動を取ることが出来る (チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割)</p> <p>3. 理学療法場面での見学や経験を通して、理学療法の専門性を理解することができる</p>					
行動目標(SBO)	<p>1.</p> <p>①清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる。</p> <p>②共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築することができる。</p> <p>③周囲における自己の存在を意識した行動を行う事が出来る。</p> <p>④自らが置かれた立場で、必要とされている要件を認識し、他者や指導者の助言などに対して適切に回答することができる。</p> <p>⑤対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自信の感情を制御して接することができる。</p> <p>⑥対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りを心がけることができる。</p> <p>2.</p> <p>①医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる。</p> <p>②部門におけるルールを理解し、診療プロセス(処方の確認、計画書、効果判定、カルテの記録、算定手順など)を理解した言動を取ることができる。</p> <p>③臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる。</p> <p>④積極的に理学療法スタッフや多職種と関わり、良好な関係を構築することができる。</p> <p>⑤インシデント・アクシデントが生じた際には実習施設の手順に従って対応することができる。</p> <p>⑥守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる。</p> <p>⑦臨床実習施設における多職種連携の展開について見学することができる。</p> <p>3.</p> <p>①リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学することができる</p> <p>②リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験することができる</p>					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						

(R02-カリキュラム)

臨床実習Ⅰ：40時間(8時間×5日)＋学内実習5時間 計45時間 1単位。
授業は学外の実習施設、通所施設へ通い、臨床実習指導者の指導の下で行われます。理学療法場面に参加し、様々な見学、体験を行います。実習は以下のような方法で行われます。

(1) 診療参加型実習

- ・理学療法士の業務について「見学・体験」することを目的とします。
- ・実習生が臨床実習指導者の指導のもと具体的な指示を受け、理学療法の補助行為を行う事によって、臨床経験を積んでいく授業形態です。
- ・本実習では、指導者から実習施設における理学療法士の役割を学びます。
- ・対象者や臨床実習指導者、施設スタッフとの関わりを通して、適切な接し方を学びます。

(2) 実習日誌

- ・行動記録、1日の振り返り、明日の準備、などを記録します。
- ・毎日記録し、臨床実習指導者へ提出します(学校指定の書式)。
- ・臨床実習指導者は内容確認と共に、具体的行動について指導をします。

教科書・参考書

- ・臨床実習ガイド(本校編集授業資料)
- ・臨床実習教育の手引き第6版(日本理学療法士協会編集・発行)
- ・その他、学内授業で使用した教科書
- ・臨床実習指導者が用意した学修教材

受講時留意点、その他

- ・服装は、学校指定のユニフォーム(KCもしくはポロシャツ)とします。ただし、実習施設で指定がある場合はそれに従ってください。
- ・実習施設の規則を守り、実習生として適切な行動を心がけてください。
- ・原則的に平日の開講ですが、実習施設や臨床実習指導者の勤務の都合で土日開講の場合があります。

成績評価方法

評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など
定期試験		
小テスト		
レポート	*	テーマ「臨床実習施設における理学療法の流れ」 「医療、介護現場における理学療法士の役割と責任について」
実技試験		
プレゼンテーション	*	実習後のセミナーにおける発表内容、プレゼンテーションスキルを考慮する。
その他	100	ソーシャルスキルループブック、臨床実習支援システムの記録内容(出席状況、日誌、レポート、チェックリスト)、実習後のレポート・発表の内容をもとに判断する。
(合計)	100	

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	<u>実習前セミナー①</u> 実習地発表、オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。	望月 学科教員	実習の手引き	普通教室
第2回	<u>実習前セミナー②</u> 実習地発表、オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。	望月 学科教員	実習日誌	普通教室
第3回 1日目	<u>コースオリエンテーション、診療参加型実習1</u> 施設の規則、実習スケジュールの説明など 実習施設での理学療法の見学・体験。	臨床実習指 導者		実習施設
第4回 2日目	<u>診療参加型臨床実習2</u> 実習施設での理学療法の見学・体験。	臨床実習指 導者		実習施設
第5回 3日目	<u>診療参加型臨床実習3</u> 実習施設での理学療法の見学・体験。	臨床実習指 導者		実習施設
第6回 4日目	<u>診療参加型臨床実習4</u> 実習施設での理学療法の見学・体験。	臨床実習指 導者		実習施設
第7回 5日目	<u>診療参加型実習5、まとめ実習</u> 施設での理学療法の見学・体験。 実習中の課題についてのフィードバック	臨床実習指 導者		実習施設
第8回	<u>実習後セミナー①</u> 実習関係書類の確認。 臨床実習の振り返り。実習体験レポート作成。	望月 学科教員		普通教室
第9回	<u>実習後セミナー②</u> 実習体験レポートの発表、討論を行う。	望月 学科教員		普通教室

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
基礎	スポーツ科学	2	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	赤岩龍土、大沼賢洋、森 梢	解剖学・解剖学実習・運動学・整形外科学・運動機能評価学・運動器疾患PT学・ボランティア活動論				
開講時期	実務家教員による科目の概要 * 実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次前期	この授業はスポーツ認定理学療法士（JSPO公認アスレティックトレーナー、JPSA公認パラスポーツトレーナー、JPSA公認中・上級パラスポーツ指導員）が担当します。医療施設やスポーツ場面、レクリエーションでの実務経験を基に、スポーツを行う人への指導やケア方法を教授します。					
授業目標 * 詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	スポーツにおける動作の特徴、外傷障害、応急処置、テーピングについて理解する。 パラスポーツについて理解を深める					
行動目標 (SBO)	1 スポーツ基本動作について知る。 2 スポーツ外傷障害の特徴を踏まえ、テーピング・バンデージの知識・技術を身につける。 3 コンデショニングについて実践できるようにする。 4 パラスポーツについて知る。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>スポーツは、競技レベルから一般愛好家レベルまで幅広く行われている活動です。どの競技レベルにおいても、スポーツにおける外傷・障害は、予防することが第一となります。本講義では、スポーツに関連の深い障害外傷のメカニズムを理解し、安全管理、応急処置、トレーニング方法、テーピング技術を学びます。また、障がい者スポーツについて理解を深め、PTOTとしてのサポート活動に発展するきっかけとして欲しいです。</p> <p>なお、本講義は、日本パラスポーツ協会公認初級および中級パラスポーツ指導員養成必須カリキュラムを含んでいます。</p> <p>なお、補講は中級指導員資格取得希望者のみ受講となります。</p>						
教科書・参考書						
【教科書】「障がい者スポーツ指導教本」1年次購入済み						
【参考図書】基礎運動学第6版、整形外科に関する書籍、テーピングに関する書籍、スポーツ外傷障害に関する書籍 障がい者スポーツ大会 規則集1000円						
受講時留意点、その他						
各講義において実習ができる服装で参加すること。テーピングなど物品の取り扱いを丁寧にすること。 初級指導員認定申請には、全受講が必須となります。欠席遅刻のないように注意して下さい。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	60	障がい者スポーツに関わる内容で、授業内で用いる視聴覚教材のまとめを作成し、授業終了時に提出。				
実技試験	40	足関節のテーピングもしくはバンデージの技術に関して、制限時間、手法、仕上がりの面で採点する。				
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り・携帯電話の使用・飲食等、不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回	コースオリエンテーション・スポーツ基本動作について 本講義の目的、目標、スケジュールなどを確認、6つスポーツの基本動作について理解する。【キーワード】スポーツ基本動作・特徴	赤岩	テキスト I 章	講堂
第2回	安全管理（スポーツ傷害外傷について） スポーツ傷害・外傷および応急処置について理解する。 【キーワード】スポーツ傷害外傷・応急処置・	赤岩	テキスト I、III章	講堂
第3回	足関節捻挫のメカニズム 足関節の構造と捻挫を生じるメカニズムについて理解する。 【キーワード】足関節・靭帯・検査方法	赤岩	資料	講堂
第4回	テーピング① 足関節捻挫に対して 足関節捻挫のテーピング固定をできるようにする。 【キーワード】足関節・捻挫・テーピング	赤岩	資料	講堂
第5回	テーピング② 足関節捻挫 足関節捻挫のバンデージをできるようにする。 【キーワード】足関節・捻挫・テーピング	赤岩	資料	講堂
第6回	テーピング③ 足関節捻挫に対して 足関節捻挫のテーピング固定をできるようにする。 【キーワード】足関節・捻挫・テーピング	赤岩	資料	講堂
第7回 あ	テーピング④ 膝関節に対して 足関節捻挫のテーピング固定をできるようにする。 【キーワード】膝関節・ACL損傷・テーピング	赤岩	資料	講堂
第8回	テーピング⑤ 膝関節に対して 足関節捻挫のテーピング固定をできるようにする。 【キーワード】膝関節・MCL損傷・テーピング	赤岩	資料	講堂
第9回	障がい者福祉政策とパラスポーツ 障害者福祉政策におけるスポーツについて知る。 【キーワード】福祉政策・パラスポーツ・ノーマライゼーション	赤岩	テキスト I、III章	講堂
第10回	パラスポーツの意義と理念① パラスポーツやパラリンピックについて知る。 【キーワード】アダプテッドスポーツ・障がい者スポーツ・パラリンピック	赤岩	テキスト III章	講堂
第11回	パラスポーツの理念②と障がい者スポーツ指導員制度 日本障がい者スポーツ協会の取り組みと指導者育成制度について 【キーワード】パラスポーツの理念、指導者制度、取り組み	赤岩	テキスト III章	講堂
第12回	全国パラスポーツ大会の概要 全国障がい者スポーツ大会の障がいの区分、指導法について 【キーワード】障がい者スポーツ大会、障害区分、競技指導	赤岩	テキスト VII章	講堂
第13回	障がいの理解とスポーツ 障害の分類とスポーツレクリエーション 【キーワード】障害分類・レクリエーション・指導上の留意点	赤岩	テキスト VI章	講堂
第14回	パラスポーツ体験① 障害に応じたスポーツの工夫 車椅子競技など体験を通し理解を深める。 【キーワード】車椅子操作・スローム走行・車いす競技	赤岩	テキスト VI、VII章	講堂
第15回	パラスポーツ体験② 障害に応じたスポーツの工夫 各種パラスポーツを体験を通し、各種競技の特性を知る。 【キーワード】ポッチャ・ゴールボール	赤岩	テキスト VI、VII章	講堂
定期試験	なし			

第16回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 1</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第17回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 2</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第18回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 3</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第19回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 4</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第20回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 5</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第21回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 6</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第22回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 7</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第23回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 8</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第24回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 9</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第25回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 1 0</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第26回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 1 1</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第27回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 1 2</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第28回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 1 3</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第29回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 1 4</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第30回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 1 5</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂
第31回 補講	<u>中級指導員カリキュラム 1 6</u> 【キーワード】	赤岩	テキスト 章	講堂

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	運動学Ⅱ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	市村真樹	運動学Ⅰ、臨床運動学・解剖学Ⅰ、Ⅱ・生理学Ⅰ、Ⅱ・基礎OT学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 前期	この科目は理学療法士が担当します。実際の臨床現場への知識技術の導入の例を解説します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法・作業療法の基礎知識として身体運動のメカニズムについて理解する。 人間の運動・動作・行為について運動学的思考ができるようにする。					
行動目標 (SBO)	1) 姿勢・運動・動作・行為を観察し、運動学的な表現と分析ができる。 2) 基本動作(寝返り、立ち上がり)の本質を理解し、歩行および上肢運動の特徴をとらえ、観察・分析することができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
運動学Ⅱは、運動学Ⅰで学んだ身体運動に関わる身体構造とそのメカニズムの応用編として、姿勢や運動の意味を理解し、その観察方法や解釈の仕方を学びます。これは、理学療法や作業療法の治療理論の重要な基礎となります。実際の臨床現場への知識技術の導入の例を挙げながら説明していきます。						
教科書・参考書						
教科書：PT・OTのための運動学テキスト第1版補訂版 参考書：①中村隆一・他：基礎運動学（第7版），医歯薬出版，2012。②D. A. Neumann著，嶋田・他訳：筋骨格系のキネシオロジー，医歯薬出版，③Jacquelin Perry 原著：ペリー歩行分析（原著第2版），医歯薬出版，2012。 <その他の参考図書・文献は随時講義中に紹介する>						
受講時留意点、その他						
・実際の身体運動を行うためTシャツ、静止立位時に膝の見えるハーフパンツを各自準備してください。 ・学習進度により授業の内容・時間割等を変更する場合には、掲示板、デスクネッツなどでお知らせします。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末に試験を行う。60%以上を合格の目安とし、至らない場合、再試験を1回行う。				
小テスト						
レポート	0	必要に応じ課題を提示します。原則として成績評価には含めませんが、著しく不良なレポートは、減点の対象となる場合もあります。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他		講義の振り返りができるように講義ごとに問題をオンラインで配布する。（任意参加）成績には含めない。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回 4月3日	イントロダクション・姿勢の基礎運動学 【キーワード】姿勢制御・システム理論・相互作用	市村真樹	P343～	202
第2回 4月23日	姿勢の観察と支持基底 【キーワード】生理的前彎・脊柱の靭帯・重心・支持基底	市村真樹	P283～	講堂・レク レーション室
第3回 4月25日	異常姿勢と姿勢反応 【キーワード】感覚システム・予測的姿勢調節・自動姿勢反応	市村真樹	P343～	202
第4回 5月12日	寝返り動作の観察 【キー ワード】運動・動作・行為・動作分析・工程分析	市村真樹	P464～	202
第5回 5月14日	寝返り動作の解釈・立ち上がり動作の観察 【キーワード】関節運動学的視点・筋活動	市村真樹	P480～	講堂・レク レーション室
第6回 5月21日	立ち上がり動作の解釈 【キーワード】重心・支持基底・位置・運動エネルギー	市村真樹	P480～	202
第7回 5月22日	運動学習の定義 【キーワード】学習・記憶・運動技能・フィードバック	市村真樹	P63～	202
第8回 5月28日	運動学習の実際 【キーワード】スキーマ理論と運動学習	市村真樹	P63～	202
第9回 6月4日	臨床の運動学習 【キーワード】パフォーマンスと学習曲線	市村真樹	P63～	202
第10回 6月11日	歩行の基礎運動学 【キーワード】健常歩行・歩行周期・歩行の条件	市村真樹	P367～	202
第11回 6月19日	健常歩行の観察 【キーワード】IC・LR・Mst・Tst・Psw・Isw・Msw・Tsw	市村真樹	P367～	講堂・レク レーション室
第12回 6月25日	健常歩行の解釈 【キーワード】ロッカーファンクション・骨盤の三次元的運動	市村真樹	P367～	202
第13回 6月26日	異常歩行の解釈 【キーワード】反張膝・ぶんまわし等	市村真樹	P367～	202
第14回 7月2日	上肢動作の基礎運動学 【キーワード】手指・手・肘・肩・肩甲骨の関節	市村真樹	配布資料	202
第15回 7月9日	上肢動作の解釈 【キーワード】リーチと把持の協調・上肢の役割と意味	市村真樹		講堂・レク レーション室
第16回 7月14日	まとめと復習	市村真樹		202
定期試験 7月24日	筆記試験（5択、記述、記号選択、その他）			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	内科学 I	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	鈴木 淳(非常勤)	解剖学 I、生理学 II、病理学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次前期	担当教員は医師です。医療機関での診療業務の経験を基に授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	内科学における症候学、診断、治療を理解する					
行動目標(SBO)	血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌系疾患、腎・泌尿器系疾患 等					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
医学の中心的学問である。内科学における症候学、診断、治療を理解するとともに、リハビリテーション専門職として理学・作業療法の実践やリスク管理に必要な知識を習得する。内科学の思考過程を理解するとともにリハビリテーション学との関連性について理解する。						
教科書・参考書						
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版。(医学書院)						
受講時留意点、その他						
前期、毎週金曜日の3時限目に開講します。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回 4/4	血液・造血器疾患①	鈴木		講堂
第2回 4/11	血液・造血器疾患②	鈴木		講堂
第3回 4/18	感染症疾患①	鈴木		講堂
第4回 4/25	感染症疾患②	鈴木		講堂
第5回 5/2	代謝性疾患①	鈴木		講堂
第6回 5/9	代謝性疾患②	鈴木		講堂
第7回 5/16	内分泌系疾患①	鈴木		講堂
第8回 5/23	内分泌系疾患②	鈴木		講堂
第9回 6/6	腎・泌尿器疾患①	鈴木		講堂
第10回 6/13	腎・泌尿器疾患②	鈴木		講堂
第11回 6/20	RA	鈴木		講堂
第12回 6/27	RA以外の膠原病・アレルギー疾患・免疫不全①	鈴木		講堂
第13回 7/4	RA以外の膠原病・アレルギー疾患・免疫不全②	鈴木		講堂
第14回 7/11	中毒および環境要因による疾患・皮膚疾患	鈴木		講堂
第15回	内科疾患とリハビリテーション、第1回～第14回の復習 等	専任教員		講堂
定期試験	前期末試験			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	内科学Ⅱ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	青木 秀剛(非常勤) 金井 玉奈(非常勤)	解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、病理学 他				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 後期	担当教員は医師です。医療施設での診療業務の経験を基に授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	消化器 および 呼吸・循環器 疾患 の 病態 を理解する。					
行動目標(SBO)	1. 消化管疾患 2. 胆管膵疾患 3. 呼吸器疾患 4. 循環器疾患 の 症候・病態生理・検査・治療 を理解する。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>近年、リハビリテーションの範囲は、呼吸器疾患、循環器疾患、がんなどの内科的疾患に拡大している。また、高齢化の影響で、脳卒中や骨折のケースにおいても内科的疾患の合併症を持つものが少なくない。このような背景から、PT・OTにとって内科学は必要不可欠な知識であるといえる。この授業で学ぶ疾患の病態を理解し、安全なリハビリテーションを実施するための土台として欲しい。</p>						
教科書・参考書						
【教科書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版 (医学書院)						
受講時留意点、その他						
<p>消化器疾患は、第1回～第5回。(担当:青木) 呼吸・循環器疾患は第6回以降。(担当:金井)</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な態度などは減点の対象とする場合がある。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回 10月2日	消化管疾患1:解剖と生理、症候、検査 (消化管の役割、消化管の解剖、腹痛、吐気、嘔吐 等)	青木		講堂
第2回 10月17日	消化管疾患2:食道疾患・胃疾患 (食道炎、食道癌、胃炎、胃潰瘍、食道癌 等)	青木		講堂
第3回 11月6日	消化管疾患3:腸疾患 (感染性腸炎、虫垂炎、炎症性腸疾患、大腸癌 等)	青木		講堂
第4回 11月21日	肝胆膵疾患1:総論、膵臓疾患 (急性膵炎、慢性膵炎、膵臓癌 等)	青木		講堂
第5回 12月4日	肝胆膵疾患2:肝疾患 (ウイルス性肝炎、肝硬変、肝臓癌 等)	青木		講堂
第6回 11月5日	呼吸器疾患1:肺の解剖と生理・検査・症候 (気管支・肺の構造、ガス交換、ガスの運搬、呼吸運動 等)	金井		講堂
第7回 11月5日	呼吸器疾患2:肺の解剖と生理・検査・症候 (肺機能検査、換気障害の分類、酸素解離曲線 等)	金井		講堂
第8回 11月12日	呼吸器疾患3:肺の解剖と生理・検査・症候 (呼吸調節機構、酸塩基平衡、咳嗽、呼吸困難感、喀血 等)	金井		講堂
第9回 11月12日	呼吸器疾患4:感染性肺疾患、閉塞性肺疾患 他 (インフルエンザ、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息 等)	金井		講堂
第10回 11月19日	呼吸器疾患5:肺腫瘍、肺循環傷害、胸膜の疾患 他 (肺がん、肺血栓塞栓症、肺性心、自然気胸、胸膜中皮腫 等)	金井		講堂
第11回 11月19日	循環器疾患1:循環器系の解剖と生理・検査・症候 (体循環・肺循環、心臓の構造、冠状動脈、刺激伝導系、リンパ 等)	金井		講堂
第12回 11月26日	循環器疾患2:循環器系の解剖と生理・検査・症候 他 (心拍出量、心機能調節、血圧測定、圧受容器反射、心電図波形 等)	金井		講堂
第13回 11月26日	循環器疾患3:高血圧症、虚血性心疾患 他 (本態性高血圧、二次性高血圧、心筋梗塞、狭心症 等)	金井		講堂
第14回 12月3日	循環器疾患4:弁膜症、心不全、不整脈 他 (僧帽弁狭窄症、大動脈弁狭窄症、心不全、心房細動、期外収縮 等)	金井		講堂
第15回 12月3日	呼吸器・循環器疾患:新型コロナウイルス(合併症含む) (体位性頻脈症候群、循環器疾患)	金井		講堂
定期試験	後期末試験			

9月14日	消化管疾患1:解剖と生理・症候・検査(消化管の役割、消化管の解剖、腹痛、吐気、嘔吐 等)
10月5日	消化管疾患2:食道疾患・胃疾患(食道炎、食道癌、胃炎、胃潰瘍、食道癌 等)
10月19日	消化管疾患3:腸疾患(感染性腸炎、虫垂炎、炎症性腸疾患、大腸癌 等)
11月1日	呼吸器疾患1:肺の解剖と生理・検査・症候(気管支・肺の構造、ガス交換、ガスの運搬、呼吸運動 等)
11月1日	呼吸器疾患2:肺の解剖と生理・検査・症候(肺機能検査、換気障害の分類、酸素解離曲線 等)
11月8日	呼吸器疾患3:肺の解剖と生理・検査・症候(呼吸調節機構、酸塩基平衡、咳嗽、呼吸困難感、咯血 等)
11月8日	呼吸器疾患4:感染性肺疾患、閉塞性肺疾患 他(インフルエンザ、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息 等)
11月9日	肝胆膵疾患1:総論、膵臓疾患(急性膵炎、慢性膵炎、膵臓癌 等)
11月15日	呼吸器疾患5:肺腫瘍、肺循環傷害、胸膜の疾患 他(肺がん、肺血栓塞栓症、肺性心、自然気胸、胸膜中皮腫 等)
11月15日	循環器疾患1:循環器系の解剖と生理・検査・症候(体循環・肺循環、心臓の構造、冠状動脈、刺激伝導系、リンパ 等)
11月22日	循環器疾患2:循環器系の解剖と生理・検査・症候 他(心拍出量、心機能調節、血圧測定、圧受容器反射、心電図波形 等)
11月22日	循環器疾患3:高血圧症、虚血性心疾患 他(本態性高血圧、二次性高血圧、心筋梗塞、狭心症 等)
11月29日	循環器疾患4:弁膜症、心不全、不整脈 他(僧帽弁狭窄症、大動脈弁狭窄症、心不全、心房細動、期外収縮 等)
11月29日	呼吸器・循環器疾患:新型コロナウイルス(合併症含む)(体位性頻脈症候群、循環器疾患)
12月7日	肝胆膵疾患2:肝疾患(ウイルス性肝炎、肝硬変、肝臓癌 等)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	神経内科学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	栗田 正	解剖学Ⅱ、生理学、脳神経外科学 等				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次前期	担当教員は医師です。医療機関での診療業務の経験を基に授業を行います。 第15回は学内教員が担当します。医療機関での理学療法の経験を基に、リハビリテーションと関連の深い部分について授業します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	神経症候および主な神経疾患の病態と診断、治療について理解を深め、対象疾患に対する評価法と基本的なリハビリテーション治療への理解を深めることを目標としている。					
行動目標(SBO)	以下の事項を行動目標とする。 1) 神経系の機能解剖について説明できる。 2) 主な神経学的検査法を理解し、実践できる。 3) 主要な神経症候を理解し説明できる。 4) 主要な神経・筋疾患について理解する。 5) 主要な神経・筋疾患のリハについて考えることができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
理学療法(士)・作業療法(士)の対象疾患として、神経・筋疾患は重要な疾患群であり、適切な理学療法、作業療法を実践するためには、これらの疾患群に対する十分な知識が求められます。 理解を深めるためには、神経系、特に中枢神経系の機能解剖と主な疾患の関係性を踏まえて学習を進めてください。 また、実際の症候がどのような意味を持つのかを考えながら、主要な神経疾患の特徴を把握できるようにしましょう。分からないことは積極的に質問できるようにしましょう。						
教科書・参考書						
【教科書】川平 和美(編):標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第6版, 医学書院 【参考図書】医療情報科学研究所:病気がみえるvol7.脳・神経 第2版, メディックメディア, 2017						
受講時留意点、その他						
積極的な受講態度で授業に臨んでください。教科書を中心にしっかりと予習・復習をしてください。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	授業に対する迷惑行為、正当でない理由での遅刻・欠席、無礼な受講態度 などは減点の対象とする場合があります。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回 4/10	コースオリエンテーションと中枢神経系の機能解剖 授業の目標と進め方について解説する。中枢神経系の機能解剖および可塑性について理解する。【キーワード】中枢神経系、伝導路、脳血管系、情報処理、可塑性	栗田	p4-31	講堂
第2回 4/10	神経学的診断法 : 神経学的診察と障害、画像診断、神経生理学的検査法などの要点を理解する。【キーワード】髄膜刺激症状、反射、協調運動、CTとMRIの特徴、神経伝導検査、筋電図、血液生化学検査など	栗田	p34-66	講堂
第3回 4/24	神経症候学① : 意識障害・脳死、頭痛・めまい・失神、運動麻痺、筋萎縮、錐体外路症候、不随意運動の概要を学ぶ。【キーワード】傾眠～昏睡、JCS・GCS、運動ニューロン障害、筋緊張(痙縮と固縮)・他	栗田	p68-90	講堂
第4回 4/24	神経症候学② : 運動失調、感覚障害および高次脳機能障害(失語症)の概要を学ぶ。【キーワード】運動失調(脊髄性、小脳性など)、特殊感覚、体性感覚(表在・深部)、失語症、他	栗田	p91-116	講堂
第5回 5/8	神経症候学③ : 高次脳機能障害(失認、失行、記憶)の概要を学ぶ。【キーワード】半側空間無視、身体失認、観念運動失行、観念失行など、運動維持困難、短期記憶、長期記憶、健忘など	栗田	p117-139	講堂
第6回 5/8	神経症候学④ : 高次脳機能障害(注意、遂行機能)、構音障害、嚥下障害の概要を学ぶ。【キーワード】注意、遂行機能、構音障害、嚥下の相、球麻痺、仮性球麻痺など	栗田	p140-166	講堂
第7回 5/15	各論① : 脳血管障害の病態、分類、診断、医学的治療について学ぶ。【キーワード】NINDSⅢ分類、脳梗塞・脳出血、画像診断、急性期治療、rt-PA療法、外科的・保存的治療、合併症など	栗田	p168-196	講堂
第8回 5/15	各論② : 認知症、脳腫瘍の概要について学ぶ。【キーワード】認知症鑑別診断、周辺症状、Alzheimer病、脳腫瘍の分類、主な脳腫瘍、	栗田	p198-204 p227-246	講堂
第9回 6/12	各論③ 外傷性脳損傷、変性疾患、脱髄疾患について学ぶ。【キーワード】急性と慢性硬膜下血腫、脳挫傷、びまん性軸索損傷、SCD、OPCA、MSA、多発性硬化症、ALS、多発性硬化症、他	栗田	p205-211 p260-268	講堂
第10回 6/12	各論④ 錐体外路の変性疾患(パーキンソン病)について学ぶ。【キーワード】4大徴候、自律神経障害、Hoehn and Yahr重症度分類、薬物療法、症候性パーキンソニズム、末梢神経障害 他	栗田	p247-259 p269-277	講堂
第11回 6/26	各論⑤ 主要な筋疾患について学ぶ。【キーワード】てんかん、筋ジストロフィー(特にDuchenn型)、重症筋無力症、多発性筋炎、他	栗田	p278-294	講堂
第12回 6/26	各論⑥ 感染性疾患、中毒・栄養欠乏による神経疾患について学ぶ。【キーワード】髄膜炎、脳炎、クロイツフェルト-ヤコブ病、HAM、HIV、ポリオ、中毒性疾患、ウェルニッケ脳症、他	栗田	p295-308	講堂
第13回 7/10	各論⑦ 小児神経疾患: 脳性麻痺、二分脊椎、排尿障害等について学ぶ。【キーワード】脳性麻痺の原因、診断、分類、二分脊椎の主要症状、Down症、排尿のメカニズム、神経因性膀胱、他	栗田	p309-350	講堂
第14回 7/10	確認と復習Ⅰ: 第1回～13回までの講義のまとめ・重要事項の確認、質疑応答を含めた総合討論。(まとめ)	栗田		講堂
第15回	確認と復習Ⅱ: 第1回～13回までの講義のまとめ・重要事項の確認、質疑応答を含めた総合討論。(まとめ)	専任教員		講堂
定期試験				

1限 9:00～10:30
2限 10:40～12:10
3限 13:00～14:30
4限 14:40～16:10

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	整形外科学Ⅰ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	福塚 邦太郎 (非常勤)	解剖学Ⅱ、整形外科学Ⅱ ほか				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次前期	担当教員は医師です。医療機関での診療業務の経験を基に授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	整形外科の概論、検査、治療法を学習する。					
行動目標(SBO)	検査法、治療法、炎症性疾患、代謝・内分泌疾患 等					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
整形外科の概論を理解するとともに、検査(画像含む)、治療法(保存的、手術、薬物)等の概略を学習する。また、疾患ごとの各論を学び、臨床に即した知識の整理をする。						
教科書・参考書						
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版。(医学書院)						
受講時留意点、その他						
前期、毎週水曜日4時限目に開講します。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回 4/2	整形外科基礎知識	福塚		講堂
第2回 4/9	運動器の評価および検査法	福塚		講堂
第3回 4/16	整形外科的治療法	福塚		講堂
第4回 4/23	炎症性疾患(感染・関節リウマチ等)	福塚		講堂
第5回 4/30	代謝・内分泌性疾患	福塚		講堂
第6回 5/7	退行性疾患(変形性関節症)	福塚		講堂
第7回 5/14	先天性骨・関節疾患・骨端症	福塚		講堂
第8回 5/21	循環障害と壊死性疾患	福塚		講堂
第9回 5/28	骨・軟部腫瘍	福塚		講堂
第10回 6/4	神経・筋疾患	福塚		講堂
第11回 6/11	脊椎の疾患①	福塚		講堂
第12回 6/18	脊椎の疾患②	福塚		講堂
第13回 6/25	脊髄損傷	福塚		講堂
第14回 7/2	切断および離断	福塚		講堂
第15回 7/9	総合演習	福塚		講堂
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	整形外科学Ⅱ	1	30	講義	必修	-
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	平野圭司 木島文博 河野開紀 佐藤達郎 矢野史哉	解剖学Ⅱ、運動学Ⅰ、整形外科学Ⅰ 他				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次 後期	担当教員は医師です。医療機関での診療業務の経験を基に授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	外傷性疾患の病態を学び、検査方法や治療方法を理解する。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷性疾患の病態生理、原因、症候を学ぶ。 2. 外傷性疾患の検査方法(画像含む)、治療方法を学ぶ。 3. 外傷性疾患におけるリハビリテーションの関わりを学ぶ。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>整形外科はリハビリテーションとは最も関わりの深い診療科である。その中でもこの授業で学ぶ外傷性疾患はリハビリテーションの必要性が非常に高い疾患といえる。この講義で外傷性疾患についての基礎知識を十分に身につけ、理学療法あるいは作業療法の治療学につなげてもらいたい。</p>						
教科書・参考書						
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 整形外科学 第5版(医学書院)						
受講時留意点、その他						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回 10/4 1限	関節における外傷性疾患① 捻挫と脱臼・上肢 関節の基本構造・捻挫と脱臼・肩関節脱臼・肩峰下症候群・肘内障 他	佐藤	13章	205・206
第2回 10/4 2限	関節における外傷性疾患② 下肢 股関節脱臼・膝半月板損傷・膝蓋骨亜脱臼・膝蓋骨脱臼 他	佐藤	13章	205・206
第3回 10/11 1限	末梢神経における外傷性疾患① 末梢神経麻痺 腕神経叢麻痺・橈骨神経麻痺・正中神経麻痺・総腓骨神経麻痺 他	木島	14章	205・206
第4回 10/11 2限	末梢神経における外傷性疾患② 絞扼性神経障害・その他の神経障害 胸郭出口症候群・肘部管症候群・複合性局所疼痛症候群 他	木島	14章	205・206
第5回 10/18 1限	骨折① 上肢の骨折 上腕骨近位端部骨折・上腕骨顆上骨折・橈骨遠位端骨折 他	矢野	11章	205・206
第6回 10/18 2限	骨折② 下肢の骨折 大腿骨近位部骨折・膝蓋骨骨折・下腿骨骨折・踵骨骨折 他	矢野	11章	205・206
第7回 10/25 1限	骨折③ 骨折とは 骨折の分類・症状および診断・合併症・治療の基本原則 他	河野	11章	205・206
第8回 10/25 2限	骨折④ 体幹の骨折 鎖骨骨折・肋骨骨折・脊椎椎骨骨折 他	河野	11章	205・206
第9回 11/1 1限	末梢神経における外傷性疾患③ 神経損傷とは 神経損傷の原因と分類・臨床症状と検査法・神経損傷の治療	平野	14章	205・206
第10回 11/1 2限	熱傷 受傷機転・年齢・部位・熱傷の深度・熱傷面積・熱傷の病態 他	平野	18章	205・206
第11回 11/8 1限	腱・靭帯における外傷性疾患① 筋・腱・靭帯の損傷・上肢 筋・腱損傷・靭帯損傷・肩腱板断裂・指の屈筋腱損傷 他	木島	15章	205・206
第12回 11/8 2限	腱・靭帯における外傷性疾患② 下肢 前十字靭帯損傷・後十字靭帯損傷・アキレス腱断裂・足靭帯損傷 他	木島	15章	205・206
第13回 11/22 1限	スポーツ傷害① スポーツ傷害とは・急性外傷 応急処置(RICE等)・肩関節周囲・手指・頸部・腰部 他	木島	16章	205・206
第14回 11/22 2限	スポーツ傷害② 慢性外傷(スポーツ障害) 肩関節周囲・肘関節・腰部・膝関節部 他	木島	16章	205・206
第15回 11/29 1限	外傷性疾患のまとめ 骨折、神経損傷、靭帯損傷等(第1回～第14回の復習・まとめ)	平野		205・206
定期試験				

(R02-カリキュラム)

9/15	関節における外傷性疾患① 捻挫と脱臼・上肢 関節の基本構造・捻挫と脱臼・肩関節脱臼・肩峰下症候群・肘内障 他
9/15	関節における外傷性疾患② 下肢 股関節脱臼・膝半月板損傷・膝蓋骨亜脱臼・膝蓋骨脱臼 他
9/29	末梢神経における外傷性疾患① 末梢神経麻痺 腕神経叢麻痺・橈骨神経麻痺・正中神経麻痺・総腓骨神経麻痺 他
9/29	末梢神経における外傷性疾患② 絞扼性神経障害・その他の神経障害 胸郭出口症候群・肘部管症候群・複合性局所疼痛症候群 他
10/6	骨折① 上肢の骨折 上腕骨近位端部骨折・上腕骨顆上骨折・橈骨遠位端骨折 他
10/6	骨折② 下肢の骨折 大腿骨近位部骨折・膝蓋骨骨折・下腿骨骨折・踵骨骨折 他
10/20	骨折③ 骨折とは 骨折の分類・症状および診断・合併症・治療の基本原則 他
10/20	骨折④ 体幹の骨折 鎖骨骨折・肋骨骨折・脊椎椎骨骨折 他
11/10	末梢神経における外傷性疾患③ 神経損傷とは 神経損傷の原因と分類・臨床症状と検査法・神経損傷の治療
11/10	熱傷 受傷機転・年齢・部位・熱傷の深度・熱傷面積・熱傷の病態 他
11/24	腱・靭帯における外傷性疾患① 筋腱・靭帯の損傷 上肢筋・腱損傷・靭帯損傷・肩腱板断裂・指の屈筋腱損傷 他
11/24	腱・靭帯における外傷性疾患② 下肢 前十字靭帯損傷・後十字靭帯損傷・アキレス腱断裂・足靭帯損傷 他
12/8	スポーツ傷害① スポーツ傷害とは ・急性外傷 応急処置(RICE等)・肩関節周囲・手指・頭部・腰部 他
12/8	スポーツ傷害② 慢性外傷(スポーツ障害) 肩関節周囲・肘関節・腰部・膝関節部 他
12/22	外傷性疾患のまとめ 骨折・神経損傷・靭帯損傷 等(第1回～第14回の復習・まとめ)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	小児科学	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	佐藤 博美(非常勤)	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、病理学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次前期	担当教員は医師です。医療機関での診療業務の経験を基に授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	理学療法および作業療法の臨床に必要な小児疾患の基礎知識を習得する。					
行動目標(SBO)	新生児・未熟児疾患、先天異常、神経疾患 ほか					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
理学および作業療法の臨床に必要な、小児の成長と発達、小児保健、新生児・未熟児・小児期の疾患に対する基礎知識を習得する。 授業方法は、教科書、配布資料を基にした講義、ワークを予定。						
教科書・参考書						
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第6版。(医学書院)						
受講時留意点、その他						
前期、木曜日1限に開講します。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回 4/3	小児科学概要・診断と治療の概要(1)発達の指標 詳説	佐藤		講堂
第2回 4/10	小児科学概要・診断と治療の概要(2)反射 詳説	佐藤		講堂
第3回 4/24	新生児・未熟児疾患 先天異常と遺伝病	佐藤		講堂
第4回 5/1	神経疾患(1)	佐藤		講堂
第5回 5/8	神経疾患(2)	佐藤		講堂
第6回 5/15	神経疾患(3)	佐藤		講堂
第7回 5/29	神経疾患(4) 循環器疾患	佐藤		講堂
第8回 6/5	呼吸器疾患 感染症	佐藤		講堂
第9回 6/12	消化器疾患、内分泌・代謝疾患	佐藤		講堂
第10回 6/19	免疫・アレルギー疾患、膠原病、血液疾患	佐藤		講堂
第11回 6/26	腎・泌尿器・生殖器疾患、腫瘍性疾患、眼科・耳鼻科的疾患	佐藤		講堂
第12回 7/3	REVIEW	佐藤		講堂
定期試験				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	精神医学Ⅱ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	望月 美和	精神医学Ⅰ ほか				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 前期	担当教員は医師です。医療機関での診療業務の経験を基に授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	精神医学における症候学、診断、治療を理解する。					
行動目標(SBO)	脳器質性精神障害、統合失調症 ほか					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
精神医学における症候学、診断、治療を理解し、理学療法・作業療法との関連性の理解を深める。特に教科書の第1章～第9章までを学ぶ。						
教科書・参考書						
上野武治／編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版. 医学書院						
受講時留意点、その他						
前期、木曜日3・4限に開講します。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回 4/3 3限	精神医学とは 精神障害の成因と分類	望月先生		講堂
第2回 4/3 4限	精神機能の障害と精神症状 精神障害の診断と評価	望月先生		講堂
第3回 4/17 3限	脳器質性精神障害	望月先生		講堂
第4回 5/1 3限	脳器質性精神障害	望月先生		講堂
第5回 5/1 4限	脳器質性精神障害	望月先生		講堂
第6回 5/15 2限	脳器質性精神障害	望月先生		講堂
第7回 5/29 3限	症候性精神障害	望月先生		講堂
第8回 5/29 4限	精神作用物質による精神及び行動の障害	望月先生		講堂
第9回 6/5 3限	精神作用物質による精神及び行動の障害	望月先生		講堂
第10回 6/5 4限	てんかん	望月先生		講堂
第11回 6/19 2限目	統合失調症およびその関連障害	望月先生		講堂
第12回 7/3 3限目	統合失調症およびその関連障害	望月先生		講堂
第13回 7/3 4限	統合失調症およびその関連障害	望月先生		講堂
第14回 7/17 2限目	統合失調症およびその関連障害	望月先生		講堂
第15回 7/17 3限目	国家試験問題について	望月先生		講堂
定期試験				

1限 9:00～10:30
2限 10:40～12:10
3限 13:00～14:30
4限 14:40～16:10

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	脳神経外科学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	田沼明、股祥洙、諸岡暁、伏屋洋志、 武中真衣、内田成男	解剖学Ⅰ、Ⅱ、病理学、神経内科学、リハビリ概論				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 後期	担当教員は医師です。医療機関での診療業務の経験を基に授業を行います。第1・2・15回は内田(理学療法士)が担当します。医療機関での経験に基づき、リハビリテーション関係の授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	神経系の機能解剖、神経学的検査、高次脳機能障害の基礎知識を再確認する。また、主要な対象疾患について理解を深め、リハビリテーション医療における評価と治療を考えることができることを目標とする。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 神経系の機能解剖と神経学的検査法(画像診断など)について理解を深める。 2) 神経症候(高次脳機能障害・頭蓋内圧亢進・脳浮腫など)について理解を深める。 3) 脳血管障害の分類と治療および廃用症候群について理解を深める。 4) 主要な脳神経外科疾患(脳腫瘍・外傷性脳損傷)について理解を深める。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
理学療法(士)・作業療法(士)の対象疾患として、脳・脊髄疾患の理解は極めて重要であり、機能解剖を基づいて特有の症候・病態を理解する。また、主要疾患である脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷等の症候、診断、脳外科的治療について学び、リハビリテーション医療との関連性を考える。						
教科書・参考書						
【教科書】①川平和美(編):標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版, 医学書院, 2019 ②医療情報科学研究所:病気がみえるvol7.脳・神経 第2版, メディックメディア, 2017						
受講時留意点、その他						
積極的な受講態度で授業に臨んでください。教科書を中心にしっかりと予習・復習をしてください。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	授業に対する迷惑行為、正当でない理由での遅刻・欠席、無礼な受講態度 などは減点の対象とする場合があります。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	中枢神経系の解剖と機能① 神経系の構成・発達・中枢神経系の構造 【KW】 神経系の分類、大脳、間脳、小脳、脳幹、脊髄、脳血管		p14-31 p2-7、 22-67	講堂
第2回	中枢神経系の解剖と機能② 脳室、中枢神経系の機能、可塑性 【KW】 脳脊髄液、脳室、機能局在、伝導路、可塑性、機能回復		p14-31 p22-67	講堂
第3回	高次脳機能障害の理解① 失語症 【KW】 失語症、失語症の分類、言語中枢、失語症の評価(SLTA・他)		p107-119 p157-163	講堂
第4回	高次脳機能障害の理解② 失認(半側空間無視:USNを中心に) 【KW】 失認の分類、視空間失認、ゲルストマン症候群、USNの評価=BIT		p120-128 p36-37	講堂
第5回	高次脳機能障害の理解③ 失行 【KW】 観念運動失行、観念失行、肢節運動失行、着衣失行、他		p129-136 p38-39	講堂
第6回	神経学的検査法:画像診断、筋電図検査を中心に 【KW】 X線、CT、MRI、MRA、筋電図、神経伝導検査、脳波		p51-61 p50-55、 560-583	講堂
第7回	脳血管障害① 頭蓋内出血(脳出血・くも膜下出血) 【KW】 被殻出血、視床出血、脳幹出血、小脳出血		p173-187 P110-147	講堂
第8回	脳血管障害② 脳梗塞 【KW】 アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、ラクナ梗塞		p173-187 p74-109	講堂
第9回	脳神経外科領域疾患の代表症候 【KW】 頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状		p164-169 p182-189	講堂
第10回	脳血管障害③ 急性期の治療 【KW】 急性期の検査、診断、全身管理、ペナンプラ、rt-PA、その他		p173-187 p89-95	講堂
第11回	脳血管障害④ 回復期の治療とリハビリテーション 【KW】 脳の可塑性、チーム医療、理学療法・作業療法、嚥下機能訓練、他		p187-203 p148-156	講堂
第12回	脳腫瘍 【KW】 脳腫瘍の分類、診断、神経膠腫、髄芽腫、髄膜腫、神経鞘腫、他		p224-230 p496-529	講堂
第13回	外傷性脳損傷 【KW】 診断と分類、頭蓋内血腫、脳挫傷、びまん性軸索損傷、他		p231-237 p530-547	講堂
第14回	廃用症候群・誤用症候群・合併症 【KW】 筋萎縮、関節拘縮、沈下性肺炎、起立性低血圧、褥瘡、認知症、他		p339-359	講堂
第15回	まとめ:科目全体を振り返り、脳神経外科のリハビリテーションについて考える。			講堂
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	薬理・栄養と健康	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	倉田衣津子・佐藤哲守・金井玉奈 (非常勤)	生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱ、運動生理学実習 スポーツ科学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次後期	この授業は外部講師による講義を予定しています。医療施設での各職種の実務経験を基に、薬理・栄養学を理解し、健康維持の基礎的な考え方を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	医療従事者としての薬理・栄養学を理解し、健康維持の基礎的な考え方ができる。 心肺蘇生とAEDについての知識と技術を修得する。					
行動目標 (SBO)	<ul style="list-style-type: none"> ・薬理作用、副作用および普通薬、劇薬、毒薬の違いを説明できる ・臨床で用いられる代表的な薬の作用について説明できる ・栄養素の種類や機能について学び、理解することができる ・リハビリテーションと栄養の関わりについて理解することができる ・心肺蘇生とAEDの基礎知識を理解する ・心肺蘇生の実技を修得する 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>本講義では、医療従事者として必要な薬理学と栄養学の基礎に加え、救急救命、健康維持について学びます。高齢化社会で、様々な疾病を患い、薬物治療や栄養指導などを受ける患者さんが多くなっていくことが予想されます。医療従事者として、薬の投薬により、作用・反作用が起き、患者の生活に影響することもあることから、十分な知識を持ってほしいと思います。また、栄養は、健康と深い関わりを持ち、食べ物を通して、人の健康状態に影響を与えるものです。</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書：CPR&AED TEXT&NOTEBOOK 国際救急救命協会 参考書：①コメディカルのための薬理学 第二版 渡辺泰秀 樋口マキエ 編集 朝倉出版 ②健康づくりの栄養学 小林修平</p>						
受講時留意点、その他						
<p>生理学、解剖学をベースとして、学んでいきます。適宜、基礎科目の復習をしながら、理解を進めていきましょう。 実習の前後には必ず手洗い、消毒をし、衛生管理をしっかりとしましょう。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	70	各授業（栄養・薬理）に沿ったテーマで課題を課し、提出物の内容を評価する。 提出期限はその都度提示する。提出が遅れた場合、受け付けない。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	30	救急法の筆記テストを行う。(30点分)				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 ※	CPR + AED 講義1 成人の究明の連鎖。ポケットマスク、1人法BLS	佐藤先生	配布資料	講堂
第2回 ※	CPR + AED 講義2 AED、バッグマスク	佐藤先生	配布資料	講堂
第3回 ※	CPR + AED 実技1 2人法BLS、口対口人口呼吸、チームダイナミクス	佐藤先生	配布資料	講堂
第4回 ※	CPR + AED 実技2 小児乳児のBLS、窒息の解除	佐藤先生	配布資料	講堂
第5回 10月10日	リハビリテーションと栄養 栄養の基礎、栄養素の種類、サルコペニア	倉田先生	配布資料	講堂
第6回 10月10日	栄養状態の評価 身体計測、フレイル、低栄養のリスク	倉田先生	配布資料	講堂
第7回 12月10日	薬理学および薬物療法の概念、薬物の作用機序、薬物の相互作用	金井先生	配布資料	講堂
第8回 12月10日	リハビリテーションに関わる代表的な薬理	金井先生	配布資料	講堂

※ 各学科A・Bグループに分かれて行う。各学科AまたはBで受講する。

新スケジュール

PT学科A	12/11 1限～4限
OT学科A	12/24 1限～4限
PT学科B	12/25 3～4限 12/26 3～4限
OT学科B	12/27 1限～4限

旧スケジュール

PT学科A	9/2 1限～4限
OT学科A	9/3 1限～4限
PT学科B	9/5 3～4限 9/6 3～4限
OT学科B	9/12 3～4限 9/13 3～4限

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	運動機能評価学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	赤岩龍士 、森梢、大沼賢洋	解剖学・運動学・機能診断学・運動機能評価学実習				
開講時期	実務家教員による科目の概要 * 実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法評価（特に形態測定・関節可動域検査・筋力検査）の目的や評価の仕方を授業していきます。					
授業目標 * 詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	四肢体幹における運動機能の基本的な検査・測定方法を理解する。					
行動目標 (SBO)	①形態測定（肢長周径）の方法がわかる。 ②参考可動域を言える。関節可動域測定の方法がわかる。 ③教科書に準じた、徒手筋力検査法がわかる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<ul style="list-style-type: none"> ・本講義では、形態測定、関節可動域測定、筋力測定について原則や方法について学びます。 ・運動機能評価学は、解剖学や運動学を基礎とし、対象者の身体状況を把握することが目標となりますが、治療計画立案や治療プログラムの見直し、予後予測に至るまで関連しています。 ・1年生の「機能診断学」とも関連が深いので、しっかり復習することを推奨します。 運動機能評価学実習と併行して行うので、実技を行いながら授業を行う場合もありますが、知識と技術を結びつけるように心がけましょう。						
教科書・参考書						
教科書：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版（医学書院） 新・徒手筋力検査法原著第10版（協同医書出版） 参考書：1年生機能診断学で使用した配布資料						
受講時留意点、その他						
動きを確認しながら行う場合があるので、動きやすい服装で参加すること。 メジャー、ゴニオメーターは常に持参すること。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	筆記試験。100点満点。60点を合格基準とする。 出題範囲 第1回～第15回の範囲				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	0	単元のまとめとして15分程度の演習問題を、全5回実施する。 ①第3回（下肢ROM t） ②第6回（下肢MMT） ③第9回（上肢ROM t） ④第11回（上肢MMT） ⑤第13回（体幹MMT、体幹ROM t）				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	<u>ガイダンス</u> 理学療法における「評価」の位置づけを理解する。 <u>形態測定</u> 四肢長を測定、記録をすることができる。	森	理学療法 評価学第5 版p2~25	202
第2回	<u>関節可動域測定下肢①</u> 股関節、膝関節の測定方法を理解する。	森	理学療法 評価学第5 版p51,52	202
第3回	<u>関節可動域測定下肢②</u> 足関節、足部の測定方法を理解する。 ※演習問題①	森	理学療法 評価学第5 版p53	202
第4回	<u>MMT下肢①</u> 股関節の測定方法を理解する。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	202
第5回	<u>MMT下肢②</u> 膝関節の測定方法を理解する。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	202
第6回	<u>MMT下肢③</u> 足関節、足部の測定方法を理解する。 ※演習問題②	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	202
第7回	<u>まとめ①</u> 下肢の関節可動域測定とMMTの復習	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第8回	<u>関節可動域測定上肢①</u> 肩関節、肘関節、前腕の測定方法を 理解する。	森	理学療法 評価学第5 版p43~	202
第9回	<u>関節可動域測定上肢②</u> 手関節、頸部、体幹の測定方法を理解す る。 ※演習問題③	森	理学療法 評価学第5 版p47,48	202
第10回	<u>MMT上肢①</u> 肩甲骨、肩関節の測定方法を理解する。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	202
第11回	<u>MMT上肢②</u> 肘関節、前腕、手関節の測定方法を理解する。 ※演習問題④	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	202
第12回	<u>MMT頸部</u> 頸部の測定方法を理解する。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	202
第13回	<u>MMT体幹</u> 体幹の測定方法を理解する。 ※演習問題⑤	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	202
第14回	<u>まとめ②</u> 上肢の関節可動域測定とMMTの復習	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第15回	<u>まとめ③</u> 上肢・下肢の関節可動域測定とMMTの復習	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	運動機能評価学実習	2	60	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	赤岩龍士 、森梢、大沼賢洋	解剖学・運動学・機能診断学・運動機能評価学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 * 実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法評価（特に形態測定・関節可動域検査・筋力検査）の手技を習得できるように授業していきます。					
授業目標 * 詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	基本的な検査・測定方法の手技を習得する。					
行動目標 (SBO)	①医療人として求められる対人関係技能（コミュニケーション方法）を向上する。 ②四肢長及び周径をメジャー等を用いて正確に測定することができる。 ③ゴニオメーターを用い、関節可動域を正確に測定できる。 ④MMTを教科書に準じ、正確に実施することができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<ul style="list-style-type: none"> ・本講義では、形態測定、関節可動域測定、筋力測定について実習を行います。理学療法を行う上で、検査測定は最も重要な技術といえ、患者さんがどのような状態にあるのか、どのような治療方法を選択するのか、治療が順調に進んでいるのかを把握するために正確かつ信頼性の高い技術を身につけることが目標となります。 ・検査測定は、性別や体格の違いなど対象者の身体状況に合わせて実施するので、多くの学生間で練習し、授業時間内でより多くの経験を積むよう心がけましょう。測定方法だけでなく、自分自身の身体の使い方がうまくできない場合などは、放課後など授業時間外でも質問を受け付けます。 ・臨床実習Ⅱ、Ⅲで求められる中心的な要素であり、患者さんに対して実施することになりますので、より意識を高め、礼儀や振る舞いなど十分に意識して臨んでください。 						
教科書・参考書						
教科書：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版（医学書院） 新・徒手筋力検査法原著第10版（協同医書出版） 参考書：図解四肢と脊椎の診かた（医歯薬出版） ・1年生機能診断学で使用した配布資料						
受講時留意点、その他						
実技なので、爪を切り、手洗いを済ませて置くようにしてください。服装は動きやすい服装で参加すること。 メジャー、ゴニオメーターは常に持参すること。感染予防対策は徹底して行うこと。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	100	行動観察：第15.16回、29.30回の講義で、実技の習熟度を確認する。 ⇒内容：第15.16回：下肢ROM t、下肢MMT各1項目、 29.30回：上肢ROM t、上肢MMT各1項目				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	形態測定① 四肢長を測定、記録をすることができる。 【キーワード】上肢長、下肢長、左右差	森	理学療法 評価学第5 版p28～	治療室
第2回	形態測定② 周径測定を測定、記録をすることができる。 【キーワード】上腕周径、大腿周径、左右差	森	理学療法 評価学第5 版p28～	治療室
第3回	関節可動域測定下肢① 股関節の測定、記録をすることができる。	森	理学療法 評価学第5 版p53,54	治療室
第4回	関節可動域測定下肢② 膝関節の測定、記録をすることができる。	森	理学療法 評価学第5 版p54	治療室
第5回	関節可動域測定下肢③ 足関節の測定、記録をすることができる。	森	理学療法 評価学第5 版p55	治療室
第6回	関節可動域測定下肢④ 足部の測定、記録をすることができる。	森	理学療法 評価学第5 版p55	治療室
第7回	MMT下肢① 股関節屈曲の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第8回	MMT下肢② 股関節伸展、縫工筋、外転の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第9回	MMT下肢③ 大腿筋膜張筋、股関節内転、外内旋の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第10回	MMT下肢④ 膝関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第11回	MMT下肢⑤ 足関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第12回	MMT下肢⑥ 足の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第13回	総合評価技術練習 下肢の関節可動域測定、MMTを復習する。	赤岩 森	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第14回	総合評価技術練習 下肢の関節可動域測定、MMTを復習する。	赤岩 森	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第15回	まとめ 実技の確認	赤岩 森		治療室 機能訓練 室
第16回	まとめ 実技の確認	赤岩 森		治療室 機能訓練 室

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第17回	関節可動域測定上肢① 肩関節の測定、記録をすることができる。	森	理学療法 評価学第5 版p49,	治療室
第18回	関節可動域測定上肢② 肘関節、前腕の測定、記録をすることができる。	森	理学療法 評価学第5 版p49,50	治療室
第19回	関節可動域測定上肢③ 手関節の測定、記録をすることができる。	森	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第20回	関節可動域測定頸部体幹 頸部体幹の測定、記録をすることができる。	森	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第21回	MMT上肢① 肩甲骨の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第22回	MMT上肢② 肩関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第23回	MMT上肢③ 肘関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第24回	MMT上肢④ 前腕・手関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第25回	MMT頸部 頸部の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第26回	MMT体幹 体幹の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋 力検査法 第10版	治療室
第27回	総合評価技術練習 上肢の関節可動域測定、MMTを復習する。	赤岩 森		治療室
第28回	総合評価技術練習 上肢の関節可動域測定、MMTを復習する。	赤岩 森		治療室
第29回	まとめ 実技の確認	赤岩 森		治療室 機能訓練 室
第30回	まとめ 実技の確認	赤岩 森		治療室 機能訓練 室
定期試験	定期試験期間中の試験は実施しない			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	神経機能評価学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	長田美紀、白井英彬、望月里子	基礎理学療法学、機能診断学、 中枢神経疾患理学療法学Ⅰ、Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、神経疾患に対する理学療法評価学を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	ヒトの神経機能が理解できるようになるために、検査の意義と結果の解釈について知る。					
行動目標 (SBO)	①感覚検査の意義が言え、結果の解釈が出来る。 ②反射検査の意義が言え、結果の解釈ができる。 ③筋緊張検査の意義が言え、結果を解釈できる。 ④片麻痺運動機能検査の意義が言え、結果の解釈が出来る。 ⑤協調性検査の意義が言え、結果の解釈が出来る。 ⑥バランス検査の意義が言え、結果の解釈が出来る。 ⑦脳神経検査の意義が言え、結果の解釈が出来る。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この科目は、中枢神経ならびに末梢神経が障害を受けることに起因する症状に対し、その程度や状態を診るための検査・測定について深く学びます。 常に基礎知識を復習しながら、疾患や症状との関連性を考え、結果の解釈から治療に展開していく流れを理解できるようにしていきましょう。						
教科書・参考書						
教科書 『標準理学療法学 神経理学療法学第3版 電子版』(医学書院) 参考書 『病気が見えるVol.7脳・神経第2版』(メディックメディア)						
受講時留意点、その他						
授業中は受け身にならず、自ら積極的に考えたり発言してください。 予習、復習をしっかり行い、授業内での理解が深まるようにしましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末の定期試験にて評価します。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	オリエンテーション、神経基礎の復習 神経系ネットワークを解剖学的、生理学的に確認する。 【キーワード】 中枢神経系、上行性伝導路、下行性伝導路、	白井	4~52 98~100 112~117	202
第2回	感覚検査概要 感覚の分類と検査方法を理解する。 【キーワード】 感覚-知覚-認知、深部感覚、表在感覚	長田	112~125	202
第3回	伝導路からみる感覚障害の解釈 感覚の伝導路を理解し、障害部位から感覚障害が推測できる。 【キーワード】 後索路、外側脊髄視床路、感覚異常	長田	112~125	202
第4回	反射検査概要、メカニズム 反射検査の種類を知る。反射の伝導路を説明できる。 【キーワード】 深部腱反射・表在反射・病的反射・求心路・遠心路	長田	126~136	202
第5回	反射検査の解釈 反射検査の結果からの病巣部位を予測し、説明できる 【キーワード】 反射亢進、低下	長田	126~136	202
第6回	筋緊張検査概要、メカニズム 筋緊張の異常が分かる。筋緊張が生じるメカニズムを説明できる 【キーワード】 被动性検査・痙縮・α、γ運動線維	長田	126~136	202
第7回	筋緊張異常の解釈 筋緊張検査の結果を解釈し、運動の異常を理解する。 【キーワード】 痙縮・固縮、共同運動・連合反応	長田	126~136	202
第8回	片麻痺運動機能検査概要、メカニズム 片麻痺運動機能検査方法を知る。運動麻痺が生じるメカニズムを説明できる。 【キーワード】 BRS、SIAS、随意運動	長田	98~111	202
第9回	運動麻痺の解釈 片麻痺運動機能検査の結果を解釈し、運動の異常を理解する。 【キーワード】 運動麻痺、中枢性麻痺、錐体路兆候	長田	98~111	202
第10回	協調性検査 協調性の定義を理解し、協調性障害とその評価について学ぶ。 【キーワード】 運動失調、共同運動障害、測定障害、変換運動障害	長田	137~152	202
第11回	バランス能力を診る意義 姿勢制御の仕方とその評価、異常について理解する。 【キーワード】 姿勢制御機構、立ち直り反射、FRT、TUGテスト、FBS	長田	174~184	202
第12回	脳神経① 第Ⅲ～Ⅶ脳神経の伝導路を理解し、障害された際の症状が説明できる。	長田	病気がみえる 242~279	202
第13回	脳神経② 第Ⅲ～Ⅶ脳神経の伝導路を理解し、障害された際の症状が説明できる。	長田	病気がみえる 242~279	202
第14回	脳神経③ 第Ⅲ～Ⅶ脳神経の伝導路を理解し、障害された際の症状が説明できる。	長田	病気がみえる 242~279	202
第15回	復習 第1～14回までの内容を振り返る	長田	配布資料	202
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入										
専門	神経機能評価学実習	1	30	講義	必修	—										
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目														
理学療法学科	望月里子 白井英彬 長田美紀	神経内科学、神経機能評価学 中枢神経疾患理学療法学・実習Ⅰ・Ⅱ														
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。															
2年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に神経疾患に対する反射・筋緊張・感覚検査等の神経学的検査を教授します。															
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示																
一般目標(GIO)	神経学的検査が実施できるようになるために、神経学的検査の方法を身に付ける。															
行動目標(SBO)	<table border="0"> <tr> <td>①表在・深部感覚検査が実施できる</td> <td>⑦脳神経検査が実施できる</td> </tr> <tr> <td>②腱反射・病的反射が実施できる</td> <td>⑧検査結果を記録することができる</td> </tr> <tr> <td>④触診・被動性検査が実施できる</td> <td>⑨検査結果について解釈することができる</td> </tr> <tr> <td>⑤協調性検査が実施できる</td> <td>⑩対象者の安楽と自身の立ち位置に配慮できる</td> </tr> <tr> <td>⑥バランス検査が実施できる</td> <td></td> </tr> </table>						①表在・深部感覚検査が実施できる	⑦脳神経検査が実施できる	②腱反射・病的反射が実施できる	⑧検査結果を記録することができる	④触診・被動性検査が実施できる	⑨検査結果について解釈することができる	⑤協調性検査が実施できる	⑩対象者の安楽と自身の立ち位置に配慮できる	⑥バランス検査が実施できる	
①表在・深部感覚検査が実施できる	⑦脳神経検査が実施できる															
②腱反射・病的反射が実施できる	⑧検査結果を記録することができる															
④触診・被動性検査が実施できる	⑨検査結果について解釈することができる															
⑤協調性検査が実施できる	⑩対象者の安楽と自身の立ち位置に配慮できる															
⑥バランス検査が実施できる																
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など																
実際に神経学的検査を実施していきます。検査結果の正確性を上げるために、多くの注意点が存在します。注意点を守れるようになるためには、正しい方法で沢山練習をするしかありません。学生同士で練習を行うと、その注意点がおざなりになります。担当教員に確認してもらうのが上達の早道です。																
教科書・参考書																
教科書 潮見泰蔵, 下田信明著 リハビリテーション基礎評価学 第2版(羊土社) 参考書 田崎義昭, 斎藤佳雄著 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 (南山堂)																
受講時留意点、その他																
<p>服装は半袖、ハーフパンツとします。適切な身だしなみをして授業に臨んでください。 感染症予防習慣化のため、授業前に手洗いを実施し、実技相手が変わるごとに手指はアルコール消毒をしましょう。 衛生面に配慮(床に膝をつかない。床に物を置かないなど)しましょう。 実習中は患者に対して実施しているものと考え、真剣に取り組んで下さい。 実技試験① / 2限 実技試験② / 2限</p>																
成績評価方法																
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など														
定期試験																
小テスト																
レポート																
実技試験	100	反射検査、感覚検査がどの程度注意点を守りつつ行えるか実技確認します。 正当でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り・スマートフォンの使用・飲食等、不適切な行為をした場合、減点の対象とします。														
プレゼンテーション																
その他																
(合計)	100															

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	コースオリエンテーション、感覚検査(表在感覚) 表在感覚検査を実際に行う。 【キーワード】触覚、痛覚	白井	P177～194	治療室
第2回	感覚検査(深部感覚・複合感覚) 深部感覚検査、複合感覚検査を実際に行う。 【キーワード】位置覚、運動覚	長田	P177～194	治療室
第3回	感覚検査(深部感覚・複合感覚) 深部感覚検査、複合感覚検査を実際に行う。 【キーワード】位置覚、運動覚	長田	P177～194	治療室
第4回	感覚検査(症例・記載) 感覚障害から検査法を選択し実施する。結果を記録する。 【キーワード】半側障害、末梢神経障害、記載方法	長田	P177～194	治療室
第5回	反射(腱反射) 深部腱反射を実際に行う。 【キーワード】上腕二頭筋反射、上腕三頭筋反射、腕橈骨筋反射 膝蓋腱反射 アキレス腱反射	長田	P203～212	治療室
第6回	反射(表在反射・病的反射) 深部腱反射の増強法、病的反射を実際に行う。 【キーワード】ホフマン反射、トレムナー反射、バビンスキー反射	長田	P203～212	治療室
第7回	反射(表在反射・病的反射) 深部腱反射の増強法、病的反射を実際に行う。 【キーワード】ホフマン反射、トレムナー反射、バビンスキー反射	長田	P203～212	治療室
第8回	反射(記載) 深部腱反射、病的反射を行い記録を取る。	長田	P203～212	治療室
第9回	筋緊張(触診と被動性検査) 筋緊張を実際に確認していく。 【キーワード】触診、視診、被動性検査	望月	P213～217	治療室
第10回	筋緊張(懸振性・筋硬直・伸展性検査) 筋緊張を実際に確認していく。 【キーワード】懸振性検査、筋硬直の検査、伸展性の検査	望月	P213～217	治療室
第11回	感覚検査・反射検査・筋緊張検査 検査を一連の流れで行い、記録を取る。 【キーワード】表在・深部感覚、深部腱反射・被動性検査	望月	配布資料	治療室
第12回	片麻痺機能検査 Brunnstrom testを実際に行う。 【キーワード】共同運動、連合反応、分離運動	望月	配布資料	講堂
第13回	片麻痺機能検査 Brunnstrom testを実際に行い、記録を取る。 【キーワード】共同運動、連合反応、分離運動	望月	配布資料	治療室
第14回	バランス検査 バランス検査を実際に行う。 【キーワード】Romberg試験、座位・立位バランス、	望月	P279～306	治療室
第15回	協調性検査 脳神経検査 高次脳機能検査 協調性検査、第Ⅰ～Ⅻ脳神経検査、高次脳機能検査を実際に行う。	望月	P96～101 P308～319	治療室
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	動作分析学実習	1	45	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	白井英彬 森梢	運動学 I・II、理学療法評価学実習 など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、姿勢・動作の評価方法と分析方法を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	姿勢や動作を観察する手法について学ぶ。 観察で得られた情報をまとめ、分析するための準備ができる。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な姿勢・動作のパターンやメカニズムを専門用語を使って説明できる。 2. 姿勢・動作の異常な部位がわかる。 3. 姿勢・動作の異常な部位を口頭で伝えることができる。 4. 一連の動作を口頭で伝えることができる。 5. 異常動作の特徴を相分けし、記録することができる。 6. 動作に伴う関節運動や筋活動について検討できる。 7. 疾患的背景を考慮して動作から評価項目を列挙できる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>動作分析は理学療法士が臨床で行う評価の一つです。本講義では観察から観察結果の記録までの一連の方法・手順について、起居動作・歩行を中心に学び、運動学的・運動力学的に分析していくための基礎となる知識を習得します。最初に教員から評価のポイントを説明し、皆さんを被験者とし、教員が具体的に観察した内容を口頭で伝えます。皆さんの理解度を見ながら授業を進めていきます。そのため、授業の進行が前後する可能性があります。発言を求められた場合、はっきりと答え下さい。「わからない」でも構いません。そこから深めていきましょう。わからない時は積極的に教員に助言・指導を求めて下さい。</p>						
教科書・参考書						
<p>参考書：中村隆一（著） 「基礎運動学 第6版補訂」医歯薬出版、2015 中村隆一（編著） 「臨床運動学 第3版」医歯薬出版、2004 月城慶一 他（訳） 「観察による歩行分析」医学書院、2007 隈本庸夫（著） 「症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作」ヒューマン・プレス 2017 など</p>						
受講時留意点、その他						
<p>身体の動きの観察が中心となりますので、動きやすい服装で参加して下さい。 毎回ではありませんが、授業内でスマートフォンを使用します。 マナーモードに設定の上、授業以外の目的で使用しないよう留意しつつ、毎回持参してください。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	80	VTRを使用した動作分析（観察）を行い、記録内容で習熟度を確認する。 第1回目（ / ）40%、第2回目（ / ）40%で評価する。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	20	授業への積極的な参加（発言、反応など）を行動観察で評価する。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	<u>オリエンテーション、姿勢・動作観察の基礎</u> 動作分析の意義・目的、姿勢・動作分析の基礎、基礎用語の確認 【KW】アライメント、ランドマーク、重心、支持基底面	森	配布資料	講堂
第2回	<u>姿勢観察の概要</u> 立位を中心に姿勢観察 被験者をたて、教員が具体的に観察し伝える 【KW】見るポイント、理想的な姿勢、正常、異常	森	配布資料	講堂
第3回	<u>姿勢観察</u> さまざまな立位・座位を観察する 【KW】姿勢アライメント、自立度、左右対称性	森	配布資料	講堂
第4回	<u>姿勢観察と分析、記録</u> 立位・座位を中心に観察した姿勢の記録の仕方を学ぶ 【KW】姿勢アライメント、自立度、左右対称性	森	配布資料	講堂
第5回	<u>動作観察の概要</u> 姿勢観察の違いを学ぶ。表現方法の違いを学ぶ 【KW】前額面、矢状面、スピード、安定性	白井	配布資料	講堂
第6回	<u>立ち上がり・着座動作の観察①</u> 姿勢観察との違いを説明できる。3相に相分けして考えることができる。 【KW】自立度、左右対称性	白井	配布資料	講堂
第7回	<u>立ち上がり・着座動作の観察②</u> 観察した基本動作を分割し、相ごとに特徴がいえる。 【KW】観察の相分け	白井	配布資料	講堂
第8回	<u>立ち上がり・着座動作の観察③ 【動作観察の記録方法】</u> さまざまな立ち上がり動作を観察し、口頭のみで他者が再現できる。 【KW】動作再現、口頭指導、動作観察	白井	配布資料	講堂
第9回	<u>歩行動作観察①</u> 歩行を観察するうえで必要な知識の再確認① 【KW】歩行様式、歩行周期 (Rancho Los Amigos)、歩幅、歩隔	森	配布資料	講堂
第10回	<u>歩行動作観察②</u> 歩行を観察するうえで必要な知識の再確認② 【KW】正常歩行、関節運動、骨盤・体幹の運動	森	配布資料	講堂
第11回	<u>歩行動作観察③</u> 歩行の全体像をとらえてみる。 【KW】見るポイント	白井	配布資料	講堂
第12回	<u>歩行動作観察④</u> 立脚相と遊脚相で分け、それぞれの特徴をとらえてみる。 【KW】全体からポイントへ、矢状面・前額面	白井	配布資料	講堂
第13回	<u>歩行動作観察と分析⑤</u> 細かく8相で分け、特徴をとらえてみる。 【KW】歩行様式、歩行周期 (Rancho Los Amigos)	白井	配布資料	講堂
第14回	<u>歩行動作観察と分析⑥</u> 観察した内容からその原因を探る、必要な評価項目を列挙する 【KW】トップダウン、評価項目列挙	白井	配布資料	講堂
第15回	<u>歩行動作観察と分析⑦</u> 観察した内容からその原因を探る、必要な評価項目を列挙する 【KW】運動連鎖、ウィンドラス機構、上肢の懸振	白井	配布資料	講堂
第16回	<u>【歩行動作の観察・分析と記録方法】</u> VTRを使用した観察と記録。動作中の関節運動や筋活動を考える。 【KW】運動連鎖、代償動作、観察と考察	白井	配布資料	講堂

(R02-カリキュラム)

第17回	中枢疾患の姿勢・動作観察と分析① 代表的な中枢疾患の姿勢・動作の観察と分析の考え方を学ぶ。 【KW】 CVA、痙性、弛緩性	白井	配布資料	講堂
第18回	中枢疾患の姿勢・動作観察と分析② 代表的な中枢疾患の姿勢・動作の観察と分析の考え方を学ぶ。 【KW】 CVA、反張膝、びんまわし歩行	白井	配布資料	講堂
第19回	運動器疾患の姿勢・動作観察と分析① 代表的な運動器疾患の姿勢・動作の観察と分析の考え方を学ぶ。 【KW】 骨折、変形性関節症、疼痛	森	配布資料	講堂
第20回	運動器疾患の姿勢・動作観察と分析② 代表的な運動器疾患の姿勢・動作の観察と分析の考え方を学ぶ。 【KW】 骨折、変形性関節症、疼痛	森	配布資料	講堂
第21回	寝返り動作、起き上がり動作の運動学と観察 動作の観察内容を口頭で表現し、記録方法を学ぶ。 【KW】 自立度、左右対称性	白井	配布資料	講堂
第22回	起き上がり動作の観察と分析 疾患特性を考慮し、動作から評価項目を検討する 【KW】 相分け、異常動作	白井	配布資料	講堂
第23回	ADL動作の観察と分析 ADL動作の観察のポイントと分析、評価項目の検討 【KW】 食事動作、更衣動作、整容動作	白井	配布資料	講堂
定期試験	立ち上がり動作観察 VTRを使用した動作観察を行い、記録する。	白井		講堂
定期試験	歩行動作観察・分析 VTRを使用した動作観察を行い、記録する。	白井		講堂

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法評価学	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	森 梢/長田 美紀	基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ、機能診断学、 神経機能評価学、運動機能評価学、ほか				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法評価学の概要を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	理学療法評価の進め方、記録方法を学ぶ。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法評価の流れが理解できる。 2. 評価結果を記録できる。 3. 教員の示す評価結果の解釈を専門用語を用い自らの言葉で表現できる。 4. 情報の取り扱いに留意できる。 5. 指導書のアドバイスを受け入れ行動できる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>この授業は、臨床における理学療法の進め方と記録方法を学びます。 2年前期で学んだ評価学をよく復習し、授業に臨んでください。また、疾患特性や個別性を把握し、専門基礎分野についても復習してください。 授業のみで十分に理解し課題を遂行することは難しい場合があります。必要に応じ、担当教員に指導を求めましょう。(基本的にアポイントメントをとること。)</p>						
教科書・参考書						
教科書:内山靖・岩井信彦(編)標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学(第4版), 医学書院, 2023						
受講時留意点、その他						
<p>この授業で取り扱う情報は個人情報であるため、取扱いには十分注意すること。 臨床実習支援システムへの入力時に扱うデータは、紛失や流出しないようしっかり管理すること。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験		なし				
小テスト						
レポート	100	臨床実習支援システムへの入力				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	授業への積極参加(挙手による質問や教員の問いかけに対する返答、自己学習に関する報告や相談、等)は最終的な成績判定でプラスに考慮します。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	オリエンテーション 個人情報の取り扱い。理学療法評価の流れを理解する。 【キーワード】アセスメント、目標設定、個人情報保護	森	p2-17	普通教室
第2回	診療記録 理学療法の流れに合わせた診療記録の書き方・読み方を学ぶ。 【キーワード】診療記録、POS、SOAP、カルテ	森	配布資料	普通教室
第3回	診療記録の実際 評価結果を記録する 【キーワード】結果の書き方、統合と解釈、カルテ	森	配布資料	普通教室
第4回	演習Ⅰ 記録の整理 実施記録と指導内容の整理をする。 【キーワード】臨床実習支援システム、ポートフォリオ	森	配布資料	普通教室
第5回	演習Ⅱ 記録の解釈① 見学内容の整理と情報の解釈 【キーワード】臨床推論、仮説と検証	森	配布資料	普通教室
第6回	演習Ⅲ 記録の解釈② 記録と記録の解釈を進める 【キーワード】臨床推論、仮説と検証	森	配布資料	普通教室
第7回	演習Ⅳ 目標設定とプログラム立案 目標設定とプログラムの立案方法を学ぶ。 【キーワード】STG,LTG、理学療法プログラム、再評価	森	配布資料	普通教室
第8回	まとめ この授業を通じて学んだ内容を復習する。	森		普通教室
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法評価学実習	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋、白井英彬 長田美紀	理学療法評価学Ⅱ、運動機能評価学、神経機能評価学、 骨関節疾患理学療法学、中枢神経理学療法学など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、基本的な理学療法の評価や治療の仕方を身に付けることができるように授業をしていきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	臨床に対応した知識・技術を身につける。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価の目的が理解できる。 2. 評価対象の障害構造について説明できる。 3. 評価対象に妥当性のある検査測定を選択し実施・評価できる。 4. 評価報告書を作成することが出来る。 5. 臨床思考能力を構築する。 6. リスク管理をすることができる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<ol style="list-style-type: none"> 1.この授業は仮想症例を通してこれまで学んできた検査測定を選択し、実施していきます。 2年前期で学んだ評価学をよく復習し、授業に臨むこと。 2.症例の疾患特性や個別性を把握しリスク管理しながら評価を進められるよう専門基礎分野についても復習すること。 3.授業中の実技練習では技術の習得は不十分であるため、放課後等利用し各自実技練習を進めること。 その際、担当教員に事前にアポイントをとっていただければ実技練習につき直接指導します。 4.グループ毎に取り組む授業もあり、グループ内での協調性を大切に、授業に取り組むこと。 5.感染症対策として、手指消毒・換気などを徹底すること。 						
教科書・参考書						
特に指定しない						
受講時留意点、その他						
実技なので、爪を切り、手洗いを済ませて置くようにしてください。服装は動きやすい服装で参加すること。 メジャー、ゴニオメーターは常に持参すること。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート						
実技試験	100	中枢神経疾患または整形外科疾患に対してOSCEを実施し、診療記録を作成。				
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	臨床思考整形外科疾患① 提示された仮想症例の評価項目・リスクを挙げるができる。	大沼賢洋		治療室
第2回	臨床思考整形外科疾患② 計画した評価を実施することができる。	大沼賢洋		治療室
第3回	臨床思考整形外科疾患③ 計画した治療を実施することができる。	大沼賢洋		治療室
第4回	臨床思考整形外科疾患④ 実施した内容から信頼性、妥当性を検討することができる。	大沼賢洋		治療室
第5回	臨床思考整形外科疾患⑤ 検討した内容から再評価を実施することができる。	大沼賢洋		治療室
第6回	臨床思考中枢疾患① 仮想症例に対し根拠を踏まえ評価項目を挙げるができる。	白井英彬		治療室
第7回	臨床思考中枢疾患② 計画した評価を実施することができる。	白井英彬		治療室
第8回	臨床思考中枢疾患③ 病態や障害構造を踏まえ、目標設定や治療仮説の立案、訓練実施 することができる。	白井英彬		治療室
第9回	臨床思考中枢疾患④ 実施した内容を記録し、信頼性、妥当性を検討して訓練の修正がで きる。	白井英彬		治療室
第10回	臨床思考中枢疾患⑤ 一連の理学療法の流れがスムーズにできる。	白井英彬		治療室
第11回	実技練習① 中枢神経疾患・整形外科疾患に対して評価を実施することができ る。	大沼賢洋		治療室
第12回	実技練習② 中枢神経疾患・整形外科疾患に対して評価を実施することができ る。	大沼賢洋		治療室
第13回	実技練習③ 中枢神経疾患・整形外科疾患に対して評価を実施することができ る。	大沼賢洋		治療室
第14回	まとめ① 中枢神経疾患、整形外科疾患の評価の進め方について振り返りを行 う。	大沼賢洋		治療室
第15回	まとめ② 中枢神経疾患、整形外科疾患の評価の進め方について振り返りを行 う。	大沼賢洋		治療室
試験	OSCE			治療室 機能訓練 室

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	運動療法学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	森梢・植田英則・宮下正好	解剖学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱ、運動療法学実習、運動機能評価学、神経機能評価学 など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験に加え、各分野においてより専門的な知識を持った任用資格の教員が、関節可動域訓練や筋力増強運動などを中心に各分野の運動療法の基礎知識を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	適切な治療を選択し実施するために、各運動療法の理論・目的・方法を説明できる。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節可動域運動の具体的な方法を選択し、説明できる。 2. 筋力増強運動の具体的な方法を選択し、説明できる。 3. 全身持久力運動等 その他の代表的な運動療法の内容を説明できる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>現代の理学療法において、運動療法は最も大きな柱として位置づけられています。この授業では運動療法において最も基本的な技術である関節可動域運動、筋力増強運動を中心に学習します。</p> <p>また、授業は「運動療法学実習」と並行して進んでいきます。運動療法学で学んだ内容は実習前に復習しておくように心がけましょう。また、解剖学・運動学の知識は運動療法学の基盤なので、これらの科目の復習をし、統合しながら理解するように努めましょう。</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書: 吉尾雅春(監)「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第5版」医学書院.2023 吉尾雅春(監)「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 第5版」医学書院.2023 参考書: 市橋則明(編)「運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版」文光堂.2014 石川 朗(編)「理学療法テキスト 運動療法学」中山書店.2014 石川 朗(編)「理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第2版」中山書店.2017</p>						
受講時留意点、その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業冒頭でキーワード、行動目標を提示するので確認の上、受講すること。 2. 理解不十分な部分はそのままにせず、担当教員に相談すること。 						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を実施する。60点以上を合格の目安とする。 第1回～第15回までの全ての内容から出題する。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	第14回、第15回で演習問題(範囲は次ページ)を提示し、解説を行う。原則として成績には含まず、学習状況の確認のために実施。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	運動療法の基礎知識 運動療法の概念を理解する。 【KW】対象疾患、リスク管理、機能解剖 * 運動学全般の復習をして臨むこと。	植田	P2~13	202
第2回	関節可動域運動① 関節可動域運動に必要な基礎知識を学ぶ。 【KW】関節の形状、基本構造、エンドフィール * 解剖学、運動学で学んだ関節構造について復習すること。	植田	p14~31	202
第3回	関節可動域運動② 制限因子に対する治療手技の選択を学ぶ。 【KW】凹凸の法則、関節面、並進運動 * 関節の構造と共に、起始停止作用について復習すること。	植田	P146~162	202
第4回	老化と運動機能 運動と加齢の関連を学ぶ。適切な運動療法の選択。 【KW】筋力低下、骨量減少、転倒 * 骨の構造と高齢者に多い疾患を復習すること。	植田	各論P472~487	202
第5回	筋の構造と機能 筋収縮の機序と、筋力を規定する因子を理解する。 【KW】興奮収縮連関・形態要因・神経要因・筋線維組成 * 筋の収縮メカニズム、収縮様式を事前に復習。	森	p32~42 p136~143	202
第6回	筋カトレニングの原則、分類 筋力増強運動の基礎理論を学ぶ。 【KW】原則・条件・最大筋力法・最大反復法・筋持久力 * 筋力増強における三大原則を復習しておくこと。	森	p163~171	202
第7回	筋カトレニングの実際① 非荷重位での筋力増強運動の実際を学ぶ。 【KW】中殿筋・大腿四頭筋(SLR,PS)・腸腰筋・大殿筋 * 開運動連鎖、閉運動連鎖を復習して臨むこと。	森	P171~177	202
第8回	筋カトレニングの実際② 荷重位での筋力増強運動の実際を学ぶ。 【KW】ペダリング・スクワット・立ち上がり・股外転筋CKC * 立ち上がり動作における筋活動を復習しておくこと。	森	P171~177	202
第9回	呼吸理学療法;排痰法 体位排痰法を理解する。 【KW】排痰に必要な要素・肺区域・排痰体位 他 * 肺の解剖(肺区域)を覚えておく	宮下	P96~113 各論 P348~368 +配布資料	202
第10回	持久カトレニング 全身持久力の評価と運動強度の設定を理解する。 【KW】エネルギー代謝・運動負荷試験・運動強度 他 * ATP-PCr系について調べておく。	宮下	p125~135 p178~195	202
第11回	姿勢運動制御と運動学習 諸理論の理解と臨床応用を学ぶ。 【KW】スキーマ理論、システム理論、KRとKP、フィードバック * 運動学習について復習して臨むこと。	森	p59~77	202
第12回	姿勢障害・バランス障害に対する運動療法 障害の理解と運動療法を学ぶ。 【KW】システム理論、姿勢戦略、立ち直り反射 * 姿勢運動障害、姿勢アライメントについて復習して臨むこと。	森	p78~95 p207~229	202
第13回	疼痛に対する運動療法 疼痛の病態を理解し、臨床応用を学ぶ。 【KW】痛みの多面性、急性痛、慢性痛、VAS、NRS 他 * 痛みの分類、痛みの評価スケールを復習して臨むこと。	森	各論 p120~150 +配布資料	202
第14回	復習(1) 第1~4,9,10回の内容で演習問題を提示し、解説を行う。 * 上記範囲で学習した内容を復習して臨むこと。	森		202
第15回	復習(2) 第5~8,11~13回の内容で演習問題を提示し、解説を行う。 * 上記範囲で学習した内容を復習して臨むこと。	森		202
定期試験 7月25日	前期末試験			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	運動療法学実習	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	森梢・植田英則・宮下正好	解剖学実習Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱ、基礎PT学実習Ⅰ・Ⅱ、運動療法学、運動機能評価学、など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験に加え、各分野においてより専門的な知識を持った任用資格の教員が、関節可動域訓練や筋力増強運動などを中心に各分野における運動療法の基礎となる技術を指導します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	関節可動域運動、筋力増強運動など、基本的な運動療法を実践することができる。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的なリスク管理ができる。 2. 運動療法に必要な基礎知識を述べることができる。 3. 適切な治療手技を選択できる。 4. 運動療法の基礎的技術を対象者に対し、正確に実践することができる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「運動療法学」と並行して進めていきます。講義内容を復習してから授業に臨むと理解が深まります。 2. 理学療法の実習の基礎となります。ここで症例の触れ方、肢位のとり方、セラピストの安定した姿勢、動かし方、力の入れ方をしっかり学んでください。 3. 授業中の実技練習だけでは技術の習得は不十分であるため、放課後等利用し各自実技練習を進めること。その際、担当教員に事前にアポイントをとっていただければ実技練習につき直接指導します。 						
教科書・参考書						
教科書: 吉尾雅春(監)「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第5版」医学書院.2023 吉尾雅春(監)「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 第5版」医学書院.2023 参考書: 市橋則明(編)「運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版」文光堂.2014 石川 朗(編)「理学療法テキスト 運動療法学」中山書店.2014 石川 朗(編)「理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第2版」中山書店.2017						
受講時留意点、その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は動きやすい服装で臨んでください。ただし、派手な色や柄は控えること。(1年次基礎PT学実習Ⅰ・Ⅱの基準を参考にしてください。) 2. 実習中は病院・施設と思い、言葉遣いに注意し、真剣に取り組むこと。 3. 自分の周りを動きやすく、また周りを見て全員が動きやすくなるように環境整備に留意すること。 4. 授業前に手洗いをし、血圧・脈拍測定、体調聴取を実習相手と互いにして実習に臨むこと。 5. 実習中(放課後の自主練習を含む)は感染対策を十分に行うこと。 						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート						
実技試験	100	実技試験を実施。2週間前までに課題と確認ポイントを提示する。				
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	コースオリエンテーション ROM exercise① 感染症対策・バイタルチェック測定方法。ROMexの基本事項。 * バイタル測定の復習をしておくこと	植田	P2~13	治療室
第2回	ROM exercise、ストレッチング法② 上肢のROMex 【KW】肩甲骨、肩甲上腕関節、肘関節、手関節、手指 * 上肢の関節の種類や運動学を復習して臨むこと。	植田	p14~31	治療室
第3回	ROM exercise、ストレッチング法③ 下肢のROMex 【KW】股関節、膝関節、足関節、足部 * 下肢の関節の種類や運動学を復習して臨むこと。	植田	P146~162	治療室
第4回	ROM exercise、ストレッチング法④ 頭頸部・体幹のROMex 【KW】頭部、頸部、体幹 * 脊椎関節の解剖学、運動学を復習して臨むこと。	植田	P146~162	治療室
第5回	筋力増強運動① 基本的な運動と抵抗のかけ方。 【KW】自動運動・自動介助運動・抵抗運動 * 自動運動、他動運動の定義を復習しておくこと。	森	p32~42 p136~143	治療室
第6回	筋力増強運動② 筋力に応じた肢位、筋収縮の選択を学ぶ。 【KW】MMT・等尺性収縮・求心性収縮・遠心性収縮 * 筋収縮様式を復習して臨むこと。	森	p163~171	治療室
第7回	筋力増強運動③ 非荷重位での筋力増強運動の実際を学ぶ。 【KW】中殿筋・大腿四頭筋(SLR,PS)・棘上筋・棘下筋 * OKCの特徴を復習しておくこと。	森	P171~177	治療室
第8回	筋力増強運動④ 荷重位での筋力増強運動の実際を学ぶ 【KW】ペダリング・スクワット・立ち上がり・股外転CKC * CKCの特徴を復習しておくこと。	森	P171~177	治療室
第9回	呼吸理学療法;排痰法 排痰体位を覚える。排痰手技を体験する。 【KW】体位排痰法・スクイーミング * 肺の解剖(肺区域)を覚えておく	宮下	P96~113 各論 P348~368 +配布資料	治療室
第10回	持久カトレーニング運動処方と全身持久カトレーニングの方法を学ぶ。 【KW】カルボナーネ法・PWC測定 * ATP-PCr系について調べておく。	宮下	p125~135 p178~195	機能訓練室
第11回	バランス障害に対する運動療法 バランストレーニングの方法を学ぶ。 【KW】運動戦略、平衡反応、バランスボード * システム理論について復習しておくこと。	森	P207~229	治療室
第12回	姿勢調節障害に対する運動療法 姿勢評価とアライメント 【KW】姿勢評価、運動連鎖、アライメント * 姿勢調節障害の概要について復習しておくこと。	森	p325~354	治療室
第13回	各疾患に対する代表的な運動療法 代表的な体操の目的、方法を学ぶ。 【KW】Mckenzie体操、Frenkel体操、Codman体操 * 体操の目的、方法を身体を動かしながら復習すること。	森	配布資料	治療室
第14回	筋力増強運動⑤ 第5回~第8回の復習 【KW】徒手抵抗運動・自動介助運動・口頭指示 * 第5~8回の内容を十分に練習して臨むこと。	森		治療室
第15回	ROM exercise、ストレッチング法⑤ 第1回~第4回の復習 【KW】肩甲上腕関節、肘関節、股関節、膝関節 * 第1~4回の内容を十分に練習して臨むこと。	植田		治療室
実技試験		森 植田		治療室 機能訓練室

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	中枢神経疾患理学療法学 I	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子、内田成男、長田美紀	解剖学、神経内科学、脳神経外科学、神経機能評価学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 後期	この講義は、理学療法士が担当します。医療機関における実務経験を基に、脳血管障害患者に対する理学療法評価・治療について授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	脳血管障害の全般的な障害像と理学療法評価、治療介入の基本が理解できる。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1.中枢神経系の機能解剖について説明できる。 2.脳血管障害(脳卒中)の基本的な病理および障害像が理解できる。 3.脳血管障害(脳卒中)に対する理学療法評価について説明できる。 4.脳血管障害(脳卒中)に対する基本的な理学療法介入が理解できる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この講義は、理学療法の主要な対象疾患である脳血管障害について、医学的な基礎知識から理学療法の評価、統合と解釈までを学習していきます。中枢神経疾患理学療法学実習 I と連携して講義を行いますので、関連付けて学習しましょう。1年生や2年生前期で学んだ解剖学、生理学、神経機能評価学などを復習し、また脳神経外科学、神経内科学などの臨床医学の知識も踏まえて、授業に臨んでください。復習だけでなく、予習も心掛けてください。						
教科書・参考書						
【教科書】森岡周(編)・阿部浩明(編):標準理学療法 専門分野 神経理学療法学第3版.医学書院,2022 【参考書】医療情報科学研究所:病気がみえるvol7.脳・神経 第2版.メディックメディア,2017 石川朗(総編)・大畑高司(編):15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト・神経障害理学療法学 I 第2版.中山書店,2020						
受講時留意点、その他						
適宜、必要な文献および資料を配布しますが、各自、必要な資料を調べる習慣を身につけましょう。授業内でも授業外でも質問を受け付けます。分からないことはそのままにしないようにしましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	期末試験を実施し、60%以上の得点率を合格とする。				
小テスト	*	必要に応じて確認テストを実施する。(ただし、成績評定には含めない)				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正答でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り、携帯電話の使用や飲食等の不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	中枢神経系の機能解剖 脳の構造と機能を復習する。 【KW】脳の構造・機能局在、伝導路、大脳動脈灌流について	望月	4～52 配布資料	
第2回	脳卒中の分類 脳卒中の定義、分類、疫学、医学的治療と回復メカニズムについて概観する。 【KW】脳卒中の分類、疫学と病態、治療概略	内田	53～62 80～95 配布資料	
第3回	脳卒中における障害像の把握① 脳卒中における全身状態、意識障害、総合評価について理解する。 【KW】 JCS、SIAS、FMA	望月	63～79 配布資料	
第4回	脳卒中における障害像の把握② 脳卒中における運動障害について理解を深める。 【KW】片麻痺、反射異常と筋緊張異常、共同運動、BRS	望月	98～125 配布資料	
第5回	脳卒中における障害像の把握③ 脳卒中における運動麻痺に評価方法について理解する。 【KW】痙縮、MAS	望月	126～136 配布資料	
第6回	脳卒中における障害像の把握④ 脳卒中における合併症について理解する。 【KW】感覚障害、視床痛、嚥下障害その他合併症(筋力低下)	望月	243～263 配布資料	
第7回	脳卒中における障害像の把握⑤ 脳卒中における異常姿勢や歩行障害の評価を理解する。 【KW】ウェルニッケマン肢位、分回し歩行、反張膝歩行、	望月	200～224 配布資料	
第8回	脳卒中における障害像の把握⑥ 脳卒中における代表的な高次脳機能障害について理解する。 【KW】失語、失行症、失認、Pusher、遂行機能障害	内田	153～199 配布資料	
第9回	小脳の機能と障害、評価 小脳の機能解剖と障害、評価について理解する。 【KW】協調運動障害、失調、バランス機能評価	内田	137～152 配布資料	
第10回	統合と解釈① 評価結果を統合、解釈する流れを学ぶ。 【KW】評価結果の解釈、アセスメント、問題点の抽出	望月	配布資料	
第11回	統合と解釈② 予後予測と目標設定のしかたについて学ぶ。 【KW】予後予測と目標設定	望月	配布資料	
第12回	脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実践①急性期介入 急性期におけるリスク管理、離床開始基準、ポジショニングについて学ぶ。 【KW】リスク管理、離床基準、ポジショニング	望月	266～278 配布資料	
第13回	脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実践①標準的治療介入 脳卒中後片麻痺患者への標準的治療介入について学ぶ。 【KW】一般的トレーニングと課題特異的トレーニング、電気刺激、ロボット、ボツリヌス	内田	279～290 配布資料	
第14回	脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実践②回復期介入 回復期における介入の流れについて学ぶ。 【KW】装具療法、生活環境、ADL訓練	内田	291～305 配布資料	
第15回	まとめ、振り返り	望月	配布資料	
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	中枢神経疾患理学療法学実習 I	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子、内田成男、長田美紀	解剖学、神経内科学、脳神経外科学、神経機能評価学実習				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 後期	この講義は、理学療法士が担当します。医療機関における実務経験を基に、脳血管障害患者に対する理学療法評価・治療について授業を行います。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	脳血管障害の全般的な障害像を理解し、適切な理学療法評価が実践できる。					
行動目標 (SBO)	1.脳血管障害に対する基本的な評価を対象者に説明し実施できる。 2.脳血管障害に対する基本的な評価の結果を記録できる。 3.脳血管障害に対する基本的な評価結果の解釈を理解できる。(助言により実践できる)					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この講義は、理学療法の主要な対象疾患である脳血管障害について、医学的な基礎知識から理学療法の評価、統合と解釈までを学習します。中枢神経疾患理学療法学 I で学んだ内容をもとに理学療法評価、統合と解釈について学び、助言もとに実践していきます。 上記の講義内容についてしっかりと復習し講義に臨んでください。						
教科書・参考書						
【教科書】森岡周(編)・阿部浩明(編):標準理学療法 専門分野 神経理学療法学第3版,医学書院,2022 【参考書】医療情報科学研究所:病気がみえるvol7.脳・神経 第2版.メディックメディア,2017 石川朗(総編)・大畑高司(編):15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト・神経障害理学療法学 I 第2版.中山書店,2020						
受講時留意点、その他						
動きやすい服装で参加してください。頭髪、アクセサリー等は本校の規定を守るようにしてください。 適宜、必要な文献および資料を配布しますが、各自、必要な資料を調べる習慣を身につけましょう。 予習、復習を心がけ、分からないことは質問し、そのままにしないようにしましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	10	授業内で提示した課題の提出・発表を評価に加える。				
実技試験	90	実技試験を実施し、60%以上の得点率を合格とする。				
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	オリエンテーション、神経機能評価の復習 感覚評価、深部腱反射、筋緊張検査等の神経機能評価を復習する。 【KW】感覚評価、深部腱反射、筋緊張検査	望月	63～79 配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第2回	脳卒中総合機能評価 脳卒中の総合機能評価について学ぶ。 【KW】SIAS (Stroke Impairment Assessment Set) 運動機能を中心に	内田	63～79 配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第3回	片麻痺運動機能評価 上肢・手指の片麻痺運動機能評価を学ぶ。 【KW】Brunnstrom Recovery Stage test 上肢・手指	望月	63～79 配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第4回	片麻痺運動機能評価 下肢の片麻痺運動機能評価を学ぶ。 【KW】Brunnstrom Recovery Stage test 下肢	望月	63～79 配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第5回	姿勢障害の評価 脳卒中患者の姿勢障害、評価について学ぶ。 【KW】臥位、座位、立位	望月	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第6回	動作障害の評価① 脳卒中患者の寝返りから起き上がりまでの動作障害、評価について学ぶ。 【KW】寝返り～起き上がり(臥位～座位まで)	望月	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第7回	動作障害の評価② 脳卒中患者の立ち上がり、移乗等の動作障害、評価について学ぶ。 【KW】立ち上がり、移乗(座位～立位、移乗動作)	望月	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第8回	歩行障害の評価 脳卒中患者の歩行障害、評価について学ぶ。 【KW】分回し歩行、反張膝	望月	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第9回	バランス障害の評価 脳卒中患者のバランス障害、評価について学ぶ。 【KW】協調運動障害、失調、バランス機能評価	内田	137～152 配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第10回	高次脳機能障害の評価 脳卒中患者の高次脳機能障害、評価について学ぶ。 【KW】半側空間無視、TMT、失語・失行・失認	内田	153～199 配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第11回	仮想症例に対する理学療法評価の実践 仮想症例を提示し実際に評価を行う。 【KW】評価項目の列挙、評価の実践	望月	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第12回	評価結果の統合と解釈 第12回の評価結果をもとに統合と解釈、目標設定を行う。(グループワーク) 【KW】統合と解釈、目標設定	望月	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第13回	脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実践① 急性期脳卒中患者への理学療法の実践について学ぶ。 【KW】リスク管理、離床基準、ポジショニング	望月	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第14回	脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実践② 脳卒中患者への理学療法の実践について学ぶ。 【KW】課題指向型トレーニング	内田	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
第15回	まとめ(ケーススタディ)	望月	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	神経・筋疾患理学療法学I	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	白井英彬	解剖学I、解剖学II、運動学、基礎理学療法学 機能診断学、義肢装具学など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実施経験を基に、 脊髄損傷に対する知識、日常生活における介助・指導方法を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	脊髄損傷の基本的知識、障害、理学療法の方法を理解する					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊髄損傷の疾患特性を説明することが出来る 2. 脊髄損傷の障害特性を説明することが出来る 3. 脊髄損傷の合併症を説明することが出来る 4. 脊髄損傷の起居動作を模倣することが出来る 5. 脊髄損傷に対応したトランスファーを実施することが出来る 6. 脊髄損傷の社会復帰に関わる理学療法士の役割を理解することが出来る 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>脊髄損傷の障害には様々な合併症が存在します。理学療法士は、合併症の発生機序を理解し社会復帰を目的に機能回復と能力の再獲得を目指します。本授業では、脊髄損傷の理学療法に必要な基礎知識の定着と、臨床現場で行なわれている理学療法アプローチを知ることを目的とします。</p> <p>座学での知識をもとに、基本的な身体への触り方や訓練指示の仕方等も実演していきます。</p>						
教科書・参考書						
教科書：標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版*2 配布資料						
受講時留意点、その他						
<p>体調管理をしっかり行い、休まずに受講して下さい。内容、時間割を変更することがあります。その際は、掲示板、デスクネッツなどでお知らせします。注意して見ておくようにして下さい。</p> <p>また、実際に患者への指導や動作の模倣などをする授業では長坐位姿勢を長く保持する場面もありますので、腰痛等ある場合は無理せず、事前に相談するか、授業内に報告するようにしてください。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験（脊髄損傷）で60点未満の者は再試験を実施する				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他		<p>科目に対する興味、関心、学習に対する積極性が良好な場合、加点の対象とする場合がある。</p> <p>授業に対する迷惑行為、清潔感にかける身だしなみなどは減点の対象とする場合がある。</p> <p>正当でない理由での欠席は減点の対象とする場合がある。</p>				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	コースオリエンテーション (前半) 脊髄損傷の疾患特性・障害特性 (後半) 前半は、この講義の目的、目標、スケジュールなどを確認、理解する 後半は、脊髄損傷がどのような疾患でどのような障害が特徴なのか理解する	白井	配布 プリント	202
第2回	脊髄損傷の理学療法① 脊髄・脊椎の解剖 中枢・末梢神経、伝導路、 自律神経の理解 疾患を捉えるうえで必要な解剖知識の確認と、中枢神経・伝導路の復習 【キーワード】脊髄、脊椎、中枢・末梢神経、自律神経、伝導路	白井	配布 プリント	202
第3回	脊髄損傷の理学療法② 急性期、亜急性期の治療・呼吸器合併症 急性期、の治療を理解する。呼吸管理を必要とする病態を理解する 【キーワード】脊髄ショック、合併症	白井	配布 プリント	202
第4回	脊髄損傷の理学療法③ 褥瘡・排尿排便障害・痙性・拘縮・異所性骨化 脊髄損傷における二次的障害を理解する 【キーワード】褥瘡・徐圧、尿路管理、排便訓練、ROM訓練	白井	配布 プリント	202
第5回	脊髄損傷の理学療法④ 障害の評価と予後予測 その1 機能障害の評価、能力障害の評価と予後予測を考える 【キーワード】ASIA、フランケルの分類、ザンコリーの分類	白井	配布 プリント	202
第6回	脊髄損傷の理学療法⑤ 障害の評価と予後予測 その2 機能障害の評価、能力障害の評価と予後予測を考える 【キーワード】ASIA、フランケルの分類、ザンコリーの分類	白井	配布 プリント	202
第7回	脊髄損傷の理学療法⑥ 脊髄損傷の自律神経障害 脊髄損傷の自律神経障害の特徴を理解する 【キーワード】自律神経障害、起立性低血圧、自律神経過反応	白井	配布 プリント	202
第8回	脊髄損傷の理学療法⑦ 脊髄損傷のADL 脊髄損傷のADLの特徴を理解し、経験する 【キーワード】運動障害、感覚障害、自律神経障害	白井	配布 プリント	202
第9回	国家試験を解いてみる その1 第1回～第8回までの知識をもとに国家試験を解く 【キーワード】国家試験問題演習 グループワーク	白井	配布 プリント	202
第10回	理学療法実践1 脊髄損傷者へのROM訓練、呼吸理学療法、痙性へのアプローチ 脊髄損傷患者への理学療法アプローチの実践 【キーワード】呼吸理学療法、胸郭・肩甲骨ROM訓練、ストレッチ	白井	配布 プリント	講堂
第11回	理学療法実践2 C5、C6、C7の寝返り・起き上がり・座位保持 C5、C6、C7の座位・寝返り・起き上がり・プッシュアップを体験する 【キーワード】重心、回転軸、モーメント、支持基底、鼓舞	白井	配布 プリント	講堂
第12回	理学療法実践3 C6、C7のプッシュアップ C6、C7のプッシュアップを体験する 【キーワード】重心、回転軸、モーメント、支持基底、鼓舞、ハムストリングスのストレッチ	白井	配布 プリント	講堂
第13回	理学療法実践4 C5、C6、C7のトランスファー C5、C6、C7の移乗動作、1人介助、2人介助を体験する 【キーワード】前方トランスファー、側方トランスファー	白井	配布 プリント	講堂
第14回	理学療法実践5 車椅子駆動・キャスター上げ・段差越え等・装具・自助具 車椅子操作と介助法を体験し、歩行補助具、歩行用装具、自助具等を理解する 【キーワード】キャスター上げ、下肢装具、機器リハ	白井	配布 プリント	講堂
第15回	国家試験を解いてみる その2 第1回～第14回までの知識をもとに国家試験を解く 【キーワード】国家試験問題演習 グループワーク 試験対策	白井	配布 プリント	202
定期試験	後期末試験 第1～15回の範囲でペーパーテストを行う。			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	運動器疾患理学療法学Ⅰ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋、森梢 佐野正夫	解剖学Ⅰ、解剖学実習、運動学、生理学 整形外科Ⅰ・Ⅱ、基礎理学療法学実習				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、臨床実習で関わる疾患や国家試験によく出る疾患を中心に、学生が理解できるように授業していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	運動器系疾患における理学療法の進め方、考え方を理解する。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 変形性関節症の病理、臨床症状、治療方法が分かる。 2. 骨折の病態、治癒過程、治療法が分かる。 3. 末梢神経損傷の病態、治療法が分かる。 4. 熱傷の病態、治療法が分かる。 5. 運動器疾患における基本的な理学療法評価が分かる。 6. 運動器疾患における基本的な運動療法が分かる。 7. 各疾患に応じて必要な評価、運動療法を選択することができる。 8. 関節構造を踏まえた理学療法を理解する。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>本講義で学ぶ疾患は臨床場面で数多く関わるものです。解剖学・運動学的知識をもとにその病態を理解し、理学療法を組み立てていけるよう講義を展開していきます。解剖学、運動学、整形外科等関連項目で学んだ知識を結びつけながら理解していくことがポイントです。そこを意識して受講できると良いでしょう。学習が十分に進まないようでしたら相談をしてください。個別の指導を実施します。</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書:標準理学療法学 骨関節理学療法学 第2版(医学書院) 参考書:運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版(南江堂)、Crosslink 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学(メジカルビュー)、標準整形外科学 第13版(医学書院) など</p>						
受講時留意点、その他						
<p>本講義は、運動器疾患理学療法学実習Ⅰと関連付けて行います。 解剖学、整形外科などで学んだ内容(教科書、ノート、資料)を適宜参考にしてください。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	定期試験を行います。本試験で不合格の場合再試験を実施します。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	<u>変形性股関節症①</u> 変形性股関節症の基礎(病態、臨床症状)とそれに対する理学療法の基本事項を理解する。	大沼	P190～239	202
第2回	<u>変形性股関節症②</u> 変形性股関節症に対する代表的な手術法を理解し、術後理学療法について説明できる。	大沼	P190～239	202
第3回	<u>変形性膝関節症①</u> 変形性膝関節症の基礎(病態、臨床症状)とそれに対する理学療法の基本事項を理解する。	大沼	P240～275	202
第4回	<u>変形性膝関節症②</u> 変形性膝関節症に対する代表的な手術法、禁忌事項を理解し、術後理学療法について説明できる。	大沼	P240～275	202
第5回	<u>変形性関節症の痛みについて</u> 変形性関節症の痛みについて理解し、痛みの原因に対して考えることができる。	佐野	P240～275	202
第6回	<u>骨折の基礎</u> 骨折要因と分類、全身症状と局所症状を理解する。	森	P240～275	202
第7回	<u>大腿骨近位部骨折①</u> 大腿骨近位部骨折の特徴を理解する。	森	P104～167	202
第8回	<u>大腿骨近位部骨折②</u> 術前・術後リスクを理解し、評価内容を理解する。	森	P104～167	202
第9回	<u>大腿骨近位部骨折③</u> 整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。	森	P104～167	202
第10回	<u>大腿骨近位部骨折④</u> まとめと復習	森	配布資料	202
第11回	<u>変形性脊椎症、側彎症</u> 変形性脊椎症を中心とした疾患の病態を知り、理学療法の基礎を説明できる。	大沼	P370～437	202
第12回	<u>上肢の骨折</u> 上肢骨折の特徴を理解し、骨折部の治癒過程に応じた理学療法プログラムを理解する。	大沼	P60～103	202
第13回	<u>下肢の骨折</u> 下肢骨折の特徴を理解し、骨折部の治癒過程に応じた理学療法プログラムを理解する。	大沼	P168～189 P526～541	202
第14回	<u>末梢神経損傷に対する理学療法</u> 末梢神経損傷の原因、特徴、評価を理解する。	大沼	P16～39	202
第15回	<u>熱傷に対する理学療法</u> 熱傷の評価、良肢位、治療を理解する。	大沼	配布資料	202
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	運動器疾患理学療法学実習 I	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学	大沼賢洋、森梢 佐野正夫	解剖学 I、解剖学実習、運動学、生理学 整形外科学 I・II、基礎理学療法学実習				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、臨床実習で関わる疾患や国家試験によく出る疾患を中心に、学生が理解できるように授業していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	運動器系疾患に対する基本的な評価、運動療法を実践できる。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接を適切に行うことができる。 2. 症例に応じた評価を選択・実践できる。 3. 疾患に応じた関節可動域運動、筋力増強運動ができる。 4. 杖等の調節、荷重計画の遂行を含め、歩行指導ができる。 5. リスクに配慮しながらの動作指導ができる。 6. 疾患特性を把握して、リスク管理をすることができる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業で学ぶ疾患は臨床場面で数多く関わるもので、講義で学んだ内容をもとに対象者(症例)を想定して実施していきます。将来担当するであろう患者様に対して、評価・治療・ADL指導を実施する際のヒントになるような内容で展開していきます。また、実技は、実際の臨床に直結する内容となりますので、繰り返しの練習が必要となります。実技が上達しない、思うように進まないなどあるようでしたら相談をしてください。個別の指導を実施します。						
教科書・参考書						
教科書:標準理学療法学 骨関節理学療法学 第2版(医学書院) 参考書:運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版(南江堂)、Crosslink 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学(メジカルビュー)、標準整形外科学 第13版(医学書院) など						
受講時留意点、その他						
この授業は、運動器疾患理学療法学 I と関連付けて行います。適宜資料を参考にしてください。 Tシャツ、ハーフパンツ等動きやすい服装で出席してください(服装、身だしなみは清潔感のあるものとします)。 学内の実習ではありますが、緊張感を持ち、礼儀正しく臨みましょう。特に、実技練習の際は学生同士といえども許可を得る、礼を述べることを絶対に忘れないでください。授業前後の手洗いを徹底してください。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート						
実技試験	100	変形性股関節症と大腿骨頸部骨折の2症例を提示し、課題を実施。				
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回	変形性股関節症(評価) 変形性股関節症術後のリスクを理解し、医療面接を実施、術後運動指導ができる。	大沼	P190~239	治療室
第2回	変形性股関節症(評価) 変形性股関節症術後のリスクを理解し、整形外科的処置に応じた評価を挙げ、進め方を理解する。	大沼	P190~239	治療室

(R02-カリキュラム)

第3回	<u>変形性股関節症(理学療法)</u> 変形性股関節症術後の測定した結果から適切な筋力練習を選択し、実施することができる。	大沼	P190～239	治療室
第4回	<u>変形性股関節症(ADL指導)</u> 変形性股関節症の機能的評価の実施、その結果を踏まえて日常生活動作指導ができる。	大沼	P190～239	治療室
第5回	<u>変形性関節症(痛みに対するアプローチ)</u> 変形性関節症に対する痛みの評価の実施、その結果を踏まえて痛みに対するアプローチができる。	佐野	P104～167	治療室
第6回	<u>大腿骨近位部骨折(評価)</u> 術前・術後のリスクを理解し、整形外科的処置に応じた評価を挙げ、進め方を理解する。	森	P104～167	治療室
第7回	<u>大腿骨近位部骨折(関節可動域運動)</u> 術後のリスクを理解し、測定した結果から肢位や持ち方、動かし方を工夫しながら進めることができる。	森	P104～167	治療室
第8回	<u>大腿骨近位部骨折(筋力増強運動)</u> 術後のリスクを理解し、測定した結果から適切な筋力練習を選択し、実施することができる。	森	P104～167	治療室
第9回	<u>大腿骨近位部骨折(歩行練習・ADL)</u> 術後のリスクを理解し、荷重時期、筋力に合わせて歩行補助具を選択し、実施することができる。	森	P104～167	治療室
第10回	<u>大腿骨近位部骨折(復習)</u> 理学療法の一連の流れを確認し、実施することができる。	森	P104～167	治療室
第11回	<u>大腿骨近位部骨折(復習)</u> 理学療法の一連の流れを確認し、実施することができる。	森	配布資料	治療室
第12回	<u>股関節疾患の理学療法①</u> 杖調整、免荷歩行を、器機を利用して指導・練習ができる。	大沼	P190～239	治療室
第13回	<u>股関節疾患の理学療法②</u> 状態に合わせて、器機を利用した起居動作・運動の指導ができる。	大沼	P190～239	治療室
第14回	<u>股関節疾患の理学療法③</u> 病期に応じた理学療法評価・治療を実施する。	大沼	P190～239	治療室
第15回	<u>実技確認</u> 術後の軟部組織の修復過程を理解し、それに対する理学療法を知る。	大沼 森	配布資料	治療室 機能訓練室
定期試験				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	スポーツ理学療法	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	赤岩龍士	解剖学・解剖学実習・運動学・整形外科学・運動器疾患理学療法学・スポーツ科学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 * 実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次後期	この授業はスポーツ認定理学療法士（JSPO公認アスレティックトレーナー、JPSA公認パラスポーツトレーナー、JPSA公認上級パラスポーツ指導員）が担当します。医療施設やスポーツ場面、レクリエーションでの実務経験を基に、スポーツを行う人への指導やケア方法を教授します。					
授 業 目 標 * 詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	スポーツ理学療法における動作の特徴、外傷障害、応急処置、コンディショニングについて理解する。					
行動目標 (SBO)	1 スポーツ理学療法について知る。 2 コンディショニングの知識・技術を身につける。 3 競技ごとの特性を踏まえたスポーツ理学療法について知る。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>スポーツは、競技レベルから一般愛好家レベルまで幅広く行われている活動です。どの競技レベルにおいても、スポーツにおける外傷・障害は、予防することが第一となります。本講義では、スポーツに関連する理学療法について、幅広く学び、競技の特性を踏まえた対応方法に至るまで理解を深める。</p>						
教科書・参考書						
【教科書】「スポーツ理学療法」メジカルビュー 【参考図書】「セラピストのための障がい者スポーツ」メジカルビュー						
受講時留意点、その他						
各講義において実習ができる服装で参加すること。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	50	25問 5択問題				
小テスト						
レポート	50	競技特性に応じたスポーツ理学療法に関するレポート				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り・携帯電話の使用・飲食等、不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	コースオリエンテーション 本講義の目的、スポーツ理学療法の定義について理解する 【キーワード】スポーツ理学療法・定義	赤岩	教科書	講堂
第2回	スポーツ理学療法 基礎 コンディショニングについて理解する。 【キーワード】コンディショニング・障害予防	赤岩	教科書	講堂
第3回	アスリートにおける傷害予防 評価方法、傷害予防について理解する。 【キーワード】検査方法・傷害予防	赤岩	教科書	講堂
第4回	アスリートに対するパフォーマンスエンハンスメント① トレーニング方法について理解する 【キーワード】スクワット・デッドリフト・ベンチプレス	赤岩	教科書	講堂
第5回	アスリートに対するパフォーマンスエンハンスメント② トレーニング方法について理解する 【キーワード】体幹トレーニング・プライオメトリクス・SAQ	赤岩	教科書	講堂
第6回	コンディショニング① コンディショニング方法について理解する 【キーワード】ストレッチング・リラクセーション	赤岩	教科書	講堂
第7回	コンディショニング② テーピング テーピングについて理解する 【キーワード】足関節捻挫・予防・テーピング	赤岩	教科書	講堂
第8回	コンディショニング③ コンディショニング方法について理解する 【キーワード】アスリハ・トレーニングの原則・ピリオダイゼーション	赤岩	教科書	講堂
第9回	スポーツマッサージ ① (実習) スポーツ場面におけるコンディショニング方法について知る。 【キーワード】コンディショニング・スポーツマッサージ・リラクセーション	赤岩	教科書	講堂
第10回	スポーツマッサージ ② (実習) スポーツ場面におけるコンディショニング方法について知る。 【キーワード】コンディショニング・スポーツマッサージ・リラクセーション	赤岩	教科書	講堂
第11回	スポーツ栄養学とアンチドーピング スポーツ栄養学とドーピングについて理解する。 【キーワード】サプリメント、栄養学、ドーピング	赤岩	教科書	講堂
第12回	競技種目ごとの特性① グループワーク。競技種目ごとの特性について理解する。 【キーワード】競技特性、外傷と障がい、コンディショニング	赤岩	教科書	講堂
第13回	競技種目ごとの特性② グループワーク。競技種目ごとの特性について理解する。 【キーワード】競技特性、外傷と障がい、コンディショニング	赤岩	教科書	講堂
第14回	競技種目ごとの特性③ グループワーク。競技種目ごとの特性について理解する。 【キーワード】競技特性、外傷と障がい、コンディショニング	赤岩	教科書	講堂
第15回	競技種目ごとの特性③ パラスポーツ パラスポーツの種競技の特性を知る。 【キーワード】パラスポーツ、外傷と障がい、コンディショニング	赤岩	教科書	講堂
11/15				
定期試験	定期試験			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	日常生活活動学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	長田美紀	基礎理学療法学,機能診断学,リハビリテーション概論 日常生活活動学実習,生活環境論,動作分析学実習				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 前期	この授業は回復期病棟での理学療法実務経験を基に、疾患だけでなく退院後の日常動作までを横断的に捉える過程を教授します。理学療法士の職域が治療場面に限らず、地域と深く関わりがあることを理解していただけるよう授業を展開していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	日常生活の特徴を理解し、基本的な評価方法で様々な動作・場面を評価できる。					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1, 日常生活活動に関わる概念や用語を説明できる 2, 日常生活活動の評価法の種類を知る 3, BI・FIMなどの基本的な評価方法を習得する 4, 評価スケールを用い動作や症例から実際に点数付けができる 5, 自助具を作成することができる 6, 車椅子のメンテナンス・シーティングが出来る 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業は、対象者の日常生活について学ぶ授業です。生活復帰するために理学療法を行う上で必要な評価を学びます。臨床的にイメージしづらいことも多いかと思われますので、動画など可能な限り理解し易い材料を提供していきます。代表的な評価スケールに関しては自身で評価できるよう、自宅などでもチャレンジしてみましょう。						
教科書・参考書						
千野直一 編著 :脳卒中の機能評価SIASとFIM, 金原出版, 2012						
受講時留意点、その他						
<p>学習内容の理解が深まるよう、随時授業に関する予習・復習をしましょう。</p> <p>実際の日常生活をイメージするため、授業によっては持ち物を指定する場合があります。その都度デスクネットや口頭で周知しますので、忘れることのないよう互いに声をかけあってください。</p> <p>第15回では車椅子のメンテナンスを行います。必須ではありませんが実習着を推奨します。</p> <p>※この科目は本校ディプロマポリシーの2,4に対応します。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	70	前期末試験(70点分)を実施。60%未満の学生を対象に再試験を実施する				
小テスト						
レポート	30	授業:自助具作成に関するレポート課題を提出				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100	定期試験(70%)とレポート(30%)の合計				

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	イントロダクション、ADLの概念、位置づけ、目的 【KW】定義、self-care、評価の流れと評価時期		配布資料	202
第2回	ADLの範囲と理学療法との関係性 【KW】APDL、BADL、IADL、出来るADL、しているADL、するADL		配布資料	202
第3回	QOL 【KW】定義、ICF、ニーズとホープ、評価方法		配布資料	202
第4回	Barthel Index 【KW】総論、背景、全容、段階付け、細項目段階付け		配布資料	202
第5回	Functional Independence Measure① 【KW】総論、背景、全容、段階付け		教科書 78-89	202
第6回	Functional Independence Measure② 【KW】セルフケア(食事、整容、入浴、更衣)		教科書 90-101	202
第7回	Functional Independence Measure③ 【KW】セルフケア(トイレ動作、排泄)		教科書 102-109	202
第8回	Functional Independence Measure④ 【KW】移乗、移動		教科書 110-120	202
第9回	Functional Independence Measure⑤ 【KW】認知項目(コミュニケーション、社会的認知)		教科書 121-133	202
第10回	Functional Independence Measure⑥ 【KW】FIMのケーススタディと記録方法		教科書 134-146	202
第11回	ADLを支援する用具 【KW】自助具、生活支援機器、便利グッズ、自助具作成 ※自助具に関するレポート課題 提出期限:7月3日(月)9:00迄		配布資料	202
第12回	様々なADL評価スケール① 【KW】BI、FIM、老研式、PULSES、ケニー式、など		配布資料	202
第13回	様々なADL評価スケール② 【KW】BI、FIM、老研式、PULSES、ケニー式、など		配布資料	202
第14回	疾患病気別ADL評価 【KW】病期毎の脳卒中、片麻痺、起居動作評価		配布資料	202
第15回	まとめ 【KW】車椅子シーティング、メンテナンスを学ぶ ※必須ではないが、実習用の服装が望ましい		配布資料	講堂
定期試験	教室等の変更があれば随時連絡			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	日常生活活動学実習	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子 長田美紀	基礎理学療法実習Ⅱ,日常生活活動学 動作分析学実習,理学療法学全般				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での実務経験を基に、日常生活に必要な起居動作・移乗・歩行などの介助・指導方法を提示します。1年時に学修した対象への触れ方を意識しながら、治療につながる介助を学び理解を深めてください。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	基本動作及び歩行訓練が行えるようになるために、日常生活活動における基本動作の介助や指導方法を理解する。					
行動目標(SBO)	1.基本動作を手順を踏まえて再現できる 2.基本動作を自立度に合わせて介助できる 3.車椅子操作と介助ができる 4.歩行補助具の使用方を指導できる 5.環境に合わせた歩行指導ができる 6.ADL動作を介助、指導できる					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
日常生活内で行われる基本動作は、それぞれの動作単独で行われるのではなく一連の動作内で行われます。授業ではそれぞれの動作を個別に取り扱いますが、常に次の動作があることを意識するようにしてください。またそれぞれの動作を分解し、動作を分析しながら授業を行っていきます。どこを介助すべきか、どの程度介助すべきか、を考えられるようになると、今後大切な様々な動作を観察・分析する能力が身につくこととなります。						
教科書・参考書						
指定教科書なし						
受講時留意点、その他						
実技授業の服装は原則半袖、ハーフパンツとします。華美なもの、破れた服装等は受講を認めない事があります。感染症予防のため授業前に手洗いを実施、実技相手が変わるごとに手指アルコール消毒を徹底して下さい。衛生面に配慮(床に膝をつかない、床に物を置かないなど)しましょう。授業終了時に自己チェックリストにて、その日の実技を自己採点していただきます。成績評価の20%を占めると同時に出席確認も兼ねていますので、必ず記載して授業終了時に毎回忘れず提出して下さい。実技確認を希望する場合は、事前に担当教員へ約束を取り付けてください。放課後などに対応します。※この科目は本校ディプロマポリシーの2.4に対応します。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	20	自己チェックリストの提出で評価(内容の到達状況は成績を左右しない)				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	80	実技確認で評価				
(合計)	100	実技確認(80%)と自己チェックリスト(20%)の合計				

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	コースオリエンテーション、臥位姿勢、寝返り、起き上がり この授業の概要及び説明、寝返りから起き上がりを行ってみる。	長田	配布資料	治療室
第2回	臥位姿勢、寝返り、起き上がり(1) 寝返りの立ち直り反応を観察し、軽度介助が行えるようになる。	長田	配布資料	治療室
第3回	臥位姿勢、寝返り、起き上がり(2) 寝返りから起き上りの中等度及び重度介助ができるようになる。	長田	配布資料	治療室
第4回	座位姿勢、立ち上がり、移乗(1) 立ち上がりの動作が、どういった身体運動で行われているのか理解する。 立ち上がり動作を軽度、中等度、重度介助する。	長田	配布資料	治療室
第5回	座位姿勢、立ち上がり、移乗(2) 立ち上がりの動作が、どういった身体運動で行われているのか理解する。 立ち上がり動作を軽度、中等度、重度介助する。	長田	配布資料	治療室
第6回	座位姿勢、立ち上がり、移乗(3) ベッド ⇄ 車いす間の移乗動作を介助する。	長田	配布資料	治療室
第7回	座位姿勢、立ち上がり、移乗(4) 移乗動作を2人または3人で介助する方法を学ぶ。 起き上がりから移乗動作といった一連の動作を介助する。	長田	配布資料	治療室
第8回	実技確認 第1回～7回の授業より課題を提示。それを実施する。	望月 長田		治療室 機能訓練室
第9回	車椅子操作 車いす自走を体験し、指導方法を学ぶ。 車いす介助を様々な場面で体験し方法について学ぶ。	望月	配布資料	治療室 機能訓練室
第10回	歩行(1) ステップング、ウェイトシフトが歩行にどう関与しているの T杖を対象者に 合わせ、2動作および3動作を指導する。	望月	配布資料	治療室 機能訓練室
第11回	松葉杖のフィッティング 段差昇降 荷重練習 松葉杖を対象者に合わせ、段差昇降や免荷歩行の指導方法を学ぶ。 荷重量を調整するティルトテーブルを安全に扱うことができる。	望月	配布資料	講堂
第12回	歩行(2) 膝折れ患者の杖歩行介助方法を検討・実施してみる。 自身で荷重量と膝折れを調整しつつ歩行介助する方法を学ぶ。	望月	配布資料	治療室 機能訓練室
第13回	四つ這い、膝立ち、床からの立ち上がり 支持基底面の変化と重心移動の関係を意識した操作方法を学ぶ。	望月	配布資料	治療室
第14回	歩行(3) 重心と荷重量を意識した歩行介助方法を検討・実施してみる。 骨盤から歩行介助する方法を学ぶ。	望月	配布資料	治療室 機能訓練室
第15回	ADL動作 更衣動作や食事動作などを、疾患を想定して動作指導できる。 介助方法を検討し学ぶ。	望月	配布資料	治療室
定期試験				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	地域リハビリテーション学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	市村真樹	リハビリテーション概論、基礎理学療法学、社会福祉概論 臨床理学療法学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
2年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、地域リハビリテーションという概念の中の理学療法士の関わり方を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	医療機関退院後、あるいは障害を有しながら地域で生活する人々の生活障害や生活障害に対する理学療法介入の実際について学習する。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域リハビリテーションおよび地域理学療法の定義について理解する。 2. 人々の生活を支える視点について理解する。 3. 日本の社会情勢と課題について理解する。 4. 地域リハビリテーションに関連する法規を理解する。 5. 理学療法的支援を具体的に理解する。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
患者や家族、他の専門スタッフとの関わり方を学習します。医療従事者としての意識で講義に参加してください。						
講義形式、グループワーク形式にて授業を行う。資料や映像を配信する。						
参考書：1) 石川朗, 鈴木英樹 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 地域理学療法学 初版 中山書店 2021年						
受講時留意点、その他						
社会的態度、医療的態度を尊重します。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	90	期末試験を行い成績評価を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション	10	グループワークでの態度・発言等を参考にする。				
その他		科目に対する興味、関心、学習に対する積極性が良好な場合、加点の対象とする場合がある。 授業に対する迷惑行為、清潔感にける身だしなみなどは減点の対象とする場合がある。 正当でない理由での欠席は減点の対象とする場合がある。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	リハビリテーションの一連の流れとそこに関わる専門職を学ぶ	市村真樹	配布資料	
第2回	「急性期・回復期・生活期」のリハビリテーションを考える	市村真樹	配布資料	
第3回	地域リハビリテーションの概念と視点	市村真樹	配布資料	
第4回	地域リハビリテーションと社会情勢	市村真樹	配布資料	
第5回	介護保険制度	市村真樹	配布資料	
第6回	対象と支援方法	市村真樹	配布資料	
第7回	理学療法的支援（1）起居動作・良肢位・移乗・移動動作	市村真樹	配布資料	
第8回	理学療法的支援（2）食事と排泄	市村真樹	配布資料	
第9回	理学療法的支援（3）社会参加	市村真樹	配布資料	
第10回	理学療法的支援（4）フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニア	市村真樹	配布資料	
第11回	理学療法的支援（5）認知症・軽度認知障害	市村真樹	配布資料	202
第12回	理学療法的支援（6）環境的側面	市村真樹	配布資料	
第13回	「理学療法士の起業」理学療法士の実際の起業について学ぶ。 【キーワード】理学療法士の起業	寺倉浩司		
第14回	実際の地域リハビリテーションの取り組み 1	市村真樹		
第15回	実際の地域リハビリテーションの取り組み 2	市村真樹		
定期試験	筆記試験（5択、記述、記号選択、その他）			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	臨床実習Ⅱ	1	45	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子、大沼賢洋 臨床実習指導者	専門分野の評価学、専門分野の理学療法学、 専門分野の理学療法実習など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
2年次 後期	この授業は、臨床の理学療法士および学校教員で担当します。医療施設での実務経験をもとに、患者への理学療法や業務について見学や体験を通して学びを深めます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標(GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる (理学療法の対象者との関係性構築) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動を取ることが出来る (チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割) 地域理学療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステム(特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション)における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに参与する関連専門職の役割を理解することができる (地域理学療法における臨床実習) 					
行動目標(SBO)	<ol style="list-style-type: none"> <ol style="list-style-type: none"> 清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる。 共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築することができる。 周囲における自己の存在を意識した行動を行う事が出来る。 自らが置かれた立場で、必要とされている要件を認識し、他者や指導者の助言などに対して適切に応答することができる。 対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自信の感情を制御して接することができる。 対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りを心がけることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる。 部門におけるルールを理解し、診療プロセス(処方の確認、計画書、効果判定、カルテの記録、算定手順など)を理解した言動を取ることができる。 臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる。 積極的に理学療法スタッフや多職種と関わり、良好な関係を構築することができる。 インシデント・アクシデントが生じた際には実習施設の手順に従って対応することができる。 守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる。 臨床実習施設における多職種連携の展開について見学することができる。 <ol style="list-style-type: none"> 通所リハビリテーション利用者(個別、集団)に対する理学療法を見学することができる 通所リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験することができる 訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学することができる 訪問リハビリテーション離床者に対する理学療法の一部を経験することができる ケアプランの立案過程を見学することができる 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						

(R02-カリキュラム)

臨床実習 I : 40時間(8時間×5日) + 学内実習5時間 計45時間 1単位。
授業は学外の実習施設、通所施設へ通い、臨床実習指導者の指導の下で行われます。理学療法場面に参加し、様々な見学、体験を行います。実習は以下のような方法で行われます。

(1) 診療参加型実習

- ・理学療法士の業務について「見学・体験」することを目的とします。
- ・実習生が臨床実習指導者の指導のもと具体的な指示を受け、理学療法の補助行為を行う事によって、臨床経験を積んでいく授業形態です。
- ・本実習では、指導者から実習施設における理学療法士の役割を学びます。
- ・対象者や臨床実習指導者、施設スタッフとの関わりを通して、適切な接し方を学びます。

(2) 実習日誌

- ・行動記録、1日の振り返り、明日の準備、などを記録します。
- ・毎日記録し、臨床実習指導者へ提出します(学校指定の書式)。
- ・臨床実習指導者は内容確認と共に、具体的な行動について指導をします。

教科書・参考書

- ・臨床実習ガイド(本校編集授業資料)
- ・臨床実習教育の手引き第6版(日本理学療法士協会編集・発行)
- ・その他、学内授業で使用した教科書
- ・臨床実習指導者が用意した学修教材

受講時留意点、その他

- ・服装は、学校指定のユニフォーム(KCもしくはポロシャツ)とします。ただし、実習施設で指定がある場合はそれに従ってください。
- ・実習施設の規則を守り、実習生として適切な行動を心がけてください。
- ・原則的に平日の開講ですが、実習施設や臨床実習指導者の勤務の都合で土日開講の場合があります。

成績評価方法

評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など
定期試験		
小テスト		
レポート	*	テーマ「臨床実習施設における理学療法の流れ」 「地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割と多職種の間連について」
実技試験		
プレゼンテーション	*	実習後のセミナーにおける発表内容、プレゼンテーションスキルを考慮する。
その他	100	ソーシャルスキルルーブリック、臨床実習支援システムの記録内容(出席状況、日誌、レポート、チェックリスト)、実習後のレポート・発表の内容をもとに判断する。
(合計)	100	

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	実習前セミナー① 実習地発表、オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。	望月 学科教員	実習の手引き	普通教室
第2回	実習前セミナー② 実習地発表、オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。	望月 学科教員	実習日誌	普通教室
第3回 1日目	コースオリエンテーション、診療参加型実習1 施設の規則、実習スケジュールなど	臨床実習 指導者		実習施設
第4回 2日目	診療参加型臨床実習2 施設・訪問先での理学療法の見学・体験。	臨床実習 指導者		実習施設
第5回 3日目	診療参加型臨床実習3 施設・訪問先での理学療法の見学・体験。	臨床実習 指導者		実習施設
第6回 4日目	診療参加型臨床実習4 施設・訪問先での理学療法の見学・体験。	臨床実習 指導者		実習施設
第7回 5日目	診療参加型実習5、まとめ 臨床実習記録についてのフィードバック	臨床実習 指導者		実習施設
第8回	実習後セミナー① 実習関係書類の確認。 臨床実習の振り返り。課題レポート作成。	望月 学科教員		普通教室
第9回	実習後セミナー② 課題レポートの発表、討論を行う。	望月 学科教員		普通教室

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	身体運動学	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	植田英則	運動学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅱ、解剖学実習Ⅰ・Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
3年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法に必要な基礎的知識を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	骨、関節、骨格筋、靭帯等の構造、運動を三次元的に理解する。					
行動目標 (SBO)	基本構造に基づき、関節運動を理解する。 自動運動を見ることでどの部位が障害されているのか考えることができるようになる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業は運動学Ⅰ・Ⅱを基礎に展開していきます。関節の構造に焦点を当て、どの部位がどのように動いているか、各組織がどのようになっているのか特徴をよく理解し、関節運動を観察できるように進めます。授業前には必ず運動学の復習を進めてください。						
教科書・参考書						
教科書：なし。必要に応じ、資料を配布						
受講時留意点、その他						
健康管理をしっかり行い、休まずに受講しましょう。身だしなみを整え、礼儀正しく受講しましょう。 予定・日程を変更する場合、掲示板またはデスクネットでお知らせします。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	五者択一問題を20問。100点満点で60点以上が合格。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	授業への積極的な参加、科目に対する興味・関心が良好等は加点の対象とする場合があります。 無礼な態度、不適切な身だしなみ、受講中の居眠り、迷惑行為（受講中の私語、飲食、携帯電話の使用等）、SNS等への授業についての公開 など 減点の対象とします。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	<p>頭部・頸椎1：頭部を中心に関節運動を理解する。授業前には「C0/1/2の構造」を復習しよう。</p> <p>【KW】後頭顆・翼状靭帯・後頭下筋群</p>	植田	配布資料	203
第2回	<p>頭部・頸椎2：頸椎を中心に関節運動を理解する。授業前には「C2～7の構造」を復習しよう。</p> <p>【KW】彎曲・椎間関節</p>	植田	配布資料	203
第3回	<p>胸椎・肋骨1：胸椎を中心に関節運動を理解する。授業前に「Th1～12、胸郭の構造」を復習しよう。</p> <p>【KW】彎曲・椎間関節・胸郭</p>	植田	配布資料	203
第4回	<p>胸椎・肋骨2：肋骨を中心に関節運動を理解する。授業前には「肋骨、胸郭の構造」を復習しよう。</p> <p>【KW】上位・下位・キーリブ</p>	植田	配布資料	203
第5回	<p>腰椎：腰椎、下位胸椎の関節運動を理解する。授業前には「Th11～L5/S1の構造」を復習しよう。</p> <p>【KW】彎曲・椎間関節・腸腰靭帯・腰方形筋</p>	植田	配布資料	203
第6回	<p>仙腸関節1：仙腸関節の関節運動を理解する。授業前には「骨盤の構造」を復習しよう。</p> <p>【KW】骨盤・性差・岬角</p>	植田	配布資料	203
第7回	<p>仙腸関節2：仙腸関節の関節運動を理解する。授業前には「骨盤の構造」を復習しよう。</p> <p>【KW】上殿皮神経・中殿皮神経</p>	植田	配布資料	203
第8回	<p>顎関節：顎関節の関節運動を理解する。授業前には「顎関節の構造」を復習しよう。</p> <p>【KW】下顎骨・舌骨・アライメント</p>	植田	配布資料	203
定期試験 7/11	実施する			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	中枢神経疾患理学療法学Ⅱ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	市村真樹	脳神経外科学、神経内科学、神経機能評価学、 中枢神経疾患理学療法学・実習Ⅰ・Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
3年次前期	この科目は理学療法士が担当します。医療施設での実務経験を基に脳血管障害に対する理学療法治療学を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	脳血管障害に対する治療法について理解し、障害像に合わせた理学療法を説明することができる。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管障害の基本的な障害像が説明できる。 2. 脳血管障害に対する基本的な理学療法が説明できる。 3. 対象者の脳血管障害像を医学的に説明することができる。 4. 対象者の脳血管障害像に合わせた理学療法を説明することができる。 5. 実施した理学療法を理解し、治療立案の考え方を説明することができる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業では理学療法の主要な対象疾患である脳血管障害について中枢神経疾患理学療法学実習Ⅱと共有し、中枢神経疾患の疾患特性に対しての治療実践、治療プログラムの立案法を紹介をします。						
教科書・参考書						
<p>【教科書】石川 朗 総編集 神経障害理学療法学Ⅰ 第2版. 中山書店, 2020.</p> <p>【参考書】医療情報科学研究所 病気が見えるvol.7 第2版 脳・神経. メディックメディア, 2017.</p>						
受講時留意点、その他						
<p>学習内容の理解が深まるように、受講準備（予習）を怠らないようにしてください。</p> <p>講義だけでなく、体験や実技があります。常に実技ができる服装で参加してください。配布資料とはPDFと紙の資料を含めます。PDFの場合、紙では配布しません。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末の定期試験にて評価します。				
小テスト		第5回、第10回、第15回終了後、オンラインにて小テストを行う。成績には含めない。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	第15回で演習問題を実施し、解説を行う。				
(合計)	100%					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回 5/13	オリエンテーション、脳血管障害、中枢性運動障害の病態 【key word】脳卒中の疾患特性、筋緊張異常	市村真樹	p33～44 p55～64 Lecture4・6	203
第2回 5/19	脳の機能と脳のリハビリテーション 【key word】脳のリハビリテーション、一次運動野・一次体性感覚野	市村真樹	p11～32 Lecture2・3	203
第3回 5/26	脳卒中後片麻痺に対する理学療法① 治療理論と展開 【key word】評価と治療、セラピーサイクル	市村真樹		配布資料 203
第4回 5/30	脳卒中後片麻痺に対する理学療法② 運動麻痺・筋緊張の異常 【key word】片麻痺の回復、運動麻痺の解釈、痙縮の解釈	市村真樹	p55～64 Lecture6	203
第5回 6/2	脳卒中後片麻痺に対する理学療法③ 意識障害と感覚障害 【key word】意識障害、感覚障害、網様体賦活系・視床・中心後回・内 包後脚	市村真樹	p65～74 Lecture7	203
第6回 6/6	脳卒中後片麻痺に対する理学療法④ 運動失調障害 【key word】失調・小脳虫部・小脳半球	市村真樹		配布資料 203
第7回 6/9	脳卒中後片麻痺に対する理学療法⑤ 注意障害・半側空間無視 1 【key word】注意障害、半側空間無視、前頭前野・頭頂葉・視床・上丘・ 下頭頂小葉・上側頭溝・前頭前野・視床枕・扁桃体	市村真樹	p107～118 Lecture11	PDF資料 203
第8回 6/13	脳卒中後片麻痺に対する理学療法⑥ 注意障害・半側空間無視 2 【key word】注意障害、半側空間無視、前頭前野・頭頂葉・視床・上丘・ 下頭頂小葉・上側頭溝・前頭前野・視床枕・扁桃体	市村真樹	p107～118 Lecture11	PDF資料 203
第9回 6/16	脳卒中後片麻痺に対する理学療法⑦ 失行・失認 【key word】失行、失認、失語、頭頂葉・縁上回・補足運動野・後頭葉・ 中心後回・左下前頭回・左上側頭回・角回・縁上回	市村真樹	p107～118 Lecture11	PDF資料 203
第10回 6/20	脳卒中後片麻痺に対する理学療法⑧ 歩行障害 【key word】片麻痺歩行、歩行訓練	市村真樹	p85～94 Lecture9	PDF資料 203
第11回 6/23	脳卒中後片麻痺に対する理学療法⑨ 亜脱臼 【key word】亜脱臼	市村真樹		配布資料 203
第12回 6/27	脳卒中後片麻痺に対する急性期の介入 【key word】開始基準と中止基準 pusher現象	市村真樹	p119～132 Lecture12	203
第13回 6/30	脳卒中後片麻痺に対する回復期の介入 【key word】セルフケア能力とADL自立	市村真樹	p133～142 Lecture13	203
第14回 7/4	脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実際(1)急性期 【key word】リスク管理、早期リハビリテーション	市村真樹	p143～154 Lecture14	203
第15回 7/7	脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実際(2)回復期 【key word】病棟ADL、ソフトランディング・ハードランディング	市村真樹	p155～166 Lecture15	203
定期試験 7/15	筆記試験 (5択、記述、記号選択、その他) 3限	市村真樹		

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	中枢神経疾患理学療法学実習Ⅱ	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	市村真樹	脳神経外科学、神経内科学、神経機能評価学、中枢神経疾患理学療法学・実習Ⅰ、中枢神経疾患理学療法学Ⅱ、他				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
3年次前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での実務経験を基に脳血管障害に対する理学療法治療学を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	脳血管障害の治療法について理解し、障害像に合わせた理学療法を実施することができる。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管障害の疾患特性と障害特性を理解できる。 2. 脳血管障害の疾患特性と障害特性に適した治療法を体験できる。 3. 脳血管障害の疾患特性と障害特性に適した治療法を模倣することができる。 4. 脳血管障害の疾患特性と障害特性に適した治療法の解釈を体験することができる。 5. 評価結果と整合性のある治療プログラムの立案を体験することができる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業は中枢神経疾患理学療法学Ⅱで学んだ理論を実践します。中枢神経疾患の疾患特性に対しての治療実践、治療プログラムの立案法を体験し実践します。						
教科書・参考書						
【教科書】石川 朗 総編集 神経障害理学療法学Ⅰ第2版、中山書店、2020。 【参考書】医療情報科学研究所 病気が見えるvol.7 第2版 脳・神経、メディックメディア、2017。						
受講時留意点、その他						
学習内容の理解が深まるように、受講準備（予習・復習）を怠らないようにしてください。 実技中心です。常に実技ができる服装と身だしなみで参加してください。KCが必要な時は指示しますので用意してください。実技という性質上、学生各々で上達が異なります。補修を受けたい学生・技能が不十分な学生は受講時間を延長します。（任意参加）						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート						
実技試験	100%	身体操作・課題指向型EXの実技試験をそれぞれ実施する。				
プレゼンテーション						
その他		取り組みが積極的な態度の者は加点する。				
(合計)	100%					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回 5月13日	身体操作① 四肢体幹の観察・関節可動域訓練と方略 【key word】脳卒中の疾患特性、筋緊張異常	市村真樹		治療室 機能訓練室 補習あり
第2回 5月19日	身体操作② 姿勢観察・動作観察・動作訓練と方略(1) 【key word】評価と治療、セラピーサイクル	市村真樹		治療室 機能訓練室 補習あり
第3回 5月26日	身体操作③ 姿勢観察・動作観察・動作訓練と方略(2) 【key word】評価と治療、セラピーサイクル	市村真樹		治療室 機能訓練室 補習あり
第4回 5月30日	身体操作④ 運動麻痺・筋緊張の異常とその方略 【key word】筋緊張の異常、痙縮の解釈	市村真樹	p55~64 Lecture6	治療室 機能訓練室
第5回 6月2日	身体操作⑤ 意識障害・感覚障害とその方略 【key word】意識障害・感覚障害	市村真樹	p65~74 Lecture7	治療室 機能訓練室 補習あり
第6回 6月6日	身体操作⑥ 運動失調障害とその方略 【key word】運動失調・協調性障害	市村真樹		治療室 機能訓練室
第7回 6月9日	身体操作⑦ 注意障害・半側空間無視とその方略(1) 【key word】注意障害、半側空間無視	市村真樹	p107~118 Lecture11	治療室 機能訓練室 補習あり
第8回 6月13日	課題指向型EX① 注意障害・半側空間無視とその方略(2) 【key word】注意障害、半側空間無視	市村真樹	p107~118 Lecture11	治療室 機能訓練室
第9回 6月16日	身体操作⑧ 失行・失認とその方略 【key word】失行、失認、失語	市村真樹	p107~118 Lecture11	治療室 機能訓練室 補習あり
第10回 6月20日	課題指向型EX② 歩行訓練・異常歩行とその方略 【key word】片麻痺歩行、歩行訓練	市村真樹	p85~94 Lecture9	治療室 機能訓練室
第11回 6月23日	身体操作⑨ 亜脱臼の管理とその方略 【key word】亜脱臼	市村真樹		治療室 機能訓練室 補習あり
第12回 6月27日	課題指向型EX③ 上肢の機能回復とその方略 【key word】片麻痺の上肢の機能回復 (ミラーセラピー)	市村真樹		治療室 機能訓練室
第13回 6月30日	課題指向型EX④ 下肢の機能回復とその方略 【key word】片麻痺の下肢の機能回復 (傾斜板)	市村真樹		治療室 機能訓練室 補習あり
第14回 7月4日	課題指向型EX⑤ 急性期・回復期の介入と方略(1) 【key word】起き上がり・座位・立ち上がり・その他	市村真樹	p119~142 Lecture12・13	治療室 機能訓練室
第15回 7月7日	課題指向型EX⑥ 急性期・回復期の介入とその方略(2) 【key word】起き上がり・座位・立ち上がり・その他	市村真樹	p143~166 Lecture14・15	治療室 機能訓練室
実技試験 第1回	実技試験：身体操作 7月24日1限~4限	市村真樹		治療室 機能訓練室

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	神経・筋疾患理学療法学II	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	内田 成男	神経内科学・中枢神経理学療法学 日常生活活動学・臨床理学療法学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
3年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、神経難病などに対する知識、理学療法アプローチを教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	パーキンソン病など代表的な疾患の理学療法が行えるようになるために、それらの病態に関する知識、治療法について理解する。					
行動目標 (SBO)	① 各疾患における特徴的な症状について述べるができる。 ② 各疾患に必要な評価項目について列挙できる。 ③ 各疾患の病態や病期に合わせた理学療法が考えられるようになる。 ④ 疾患毎の特徴や理学療法を他者に口頭で伝えることができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
神経・筋疾患理学療法IIでは、主に神経難病といわれる疾患を取り扱います。多くの疾患を扱いますので、1つ1つ整理しながら学習して下さい。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認を行いましょう。 症例検討は、グループ毎に分かれて行います。仮想症例を通じて評価から治療プログラムまで、一連の考え方を学びますので、自ら考え積極的に授業参加するようにしてください。						
教科書・参考書						
教科書：川平和美（編） 標準理学療法学・作業療法学 基礎専門分野 神経内科学 第5版, 医学書院 病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版, メディックメディア 参考書：潮見泰藏（編著） ビジュアルレクチャー 神経理学療法学、医歯薬出版						
受講時留意点、その他						
欠席することなく受講できるように健康管理に留意しましょう。 都度、その時点までの授業でお伝えした知識をもとにグループワークを行ないます。 ここでの取り組みが皆さんの習熟度を測るものさしとなりますので、復習してから受講するようにしましょう。 ※この科目は本校ディプロマポリシーの2,4に対応します。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	80	前期末試験（80点分）を実施。				
小テスト		知識・技術の確認として実施予定・・・ただし成績評価には含めない				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション	20	グループワークにおける成果物				
その他		合計点数 60%未満の学生を対象に再試験を実施する				
(合計)	100	定期試験（80%）とグループワーク課題（20%）の合計				
回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室		

(R02-カリキュラム)

第1回 5月27日	神経・筋疾患総論 これから取り上げる疾患の分類、ニロパチーとミオパチーの違いについて学ぶ。 【キーワード】神経原性筋萎縮、筋原性筋萎縮、末梢神経損傷	内田	配布 プリント	203
第2回 5月27日	多発性神経炎・ギラン・バレー症候群の理学療法 多発性神経炎、特にギラン・バレー症候群の症状と理学療法を学ぶ。 【キーワード】先行感染、脱髄型、軸索型	内田	配布 プリント	203
第3回 5月28日	多発性硬化症の理学療法 疾患の特徴と理学療法評価、理学療法について学ぶ。 【キーワード】特徴的な疼痛、Uhthoff徴候、寛解憎悪	内田	配布 プリント	203
第4回 6月3日	パーキンソン病の理学療法（1） 疾患の特長および治療薬等について学ぶ。 【キーワード】黒質緻密部、Hoehn&Yahrの重症度分類、L-Dopa製剤	内田	配布 プリント	203
第5回 6月3日	パーキンソン病の理学療法（2） 症状や重症度分類に合わせた理学療法について学ぶ。 【キーワード】バランス障害、歩行障害、手がかり	内田	配布 プリント	203
第6回 6月10日	筋萎縮性側索硬化症の理学療法 疾患の特徴と理学療法評価、病期に合わせた理学療法について学ぶ。 【キーワード】陰性四徴候、球麻痺、重症度分類	内田	配布 プリント	203
第7回 6月10日	神経・筋疾患に対する理学療法（まとめ①） 第1～6回までの復習を行う。	内田	配布 プリント	203
第8回 6月17日	脊髄小脳変性症の理学療法（1） 疾患の特徴と理学療法評価について学ぶ。 【キーワード】多系統萎縮症、協調性障害	内田	配布 プリント	203
第9回 6月17日	脊髄小脳変性症の理学療法（2） 病態と進行段階に合わせた理学療法について学ぶ。 【キーワード】バランス、運動失調、フレンケル体操、PNF、重錘負荷、他	内田	配布 プリント	203
第10回 6月24日	多発性筋炎・重症筋無力症の理学療法 疾患の特徴と理学療法評価、病期に合わせた理学療法を学ぶ。 【キーワード】ヘリオプロ疹、ゴットマン徴候、レイノ現象、waning現象	内田	配布 プリント	203
第11回 6月24日	進行性筋ジストロフィーの理学療法（1） 疾患の特長と理学療法評価について学ぶ。 【キーワード】 遺伝形式、仮性肥大、動揺性歩行、登攀性起立	内田	配布 プリント	203
第12回 7月1日	進行性筋ジストロフィーの理学療法（2） 症状および機能障害程度に合わせた理学療法について学ぶ。 【キーワード】 厚生労働省分類（stage I - VIII）、予防、自然経過	内田	配布 プリント	203
第13回 7月1日	神経・筋疾患に対する理学療法（まとめ②） 第8～12回までの復習を行う。	内田	配布 プリント	203
第14回 7月8日	症例検討（1） 提示された症例に対し、ICFに則り評価項目と問題点を列挙する。 【キーワード】 理学療法評価、統合と解釈	内田	配布 プリント	203
第15回 7月8日	症例検討（2） 列挙した問題点に対する治療アプローチを立案しグループ毎に発表する 【キーワード】 統合と解釈、プログラム立案	内田	配布 プリント	203
定期試験 7月22日（予定）	前期末試験 第1～15回の範囲で筆記試験（選択形式）を行う。	内田		

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	運動器疾患理学療法学Ⅱ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋、植田英則、森梢 小林敦郎、松本武士	解剖学Ⅰ、解剖学実習、運動学、生理学 整形外科学Ⅰ・Ⅱ、基礎理学療法学実習				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
3年次前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、臨床実習で関わる疾患や国家試験によく出る疾患を中心に、学生が理解できるように授業していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	運動器系疾患における理学療法の進め方、考え方を理解する。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 変形性関節症の病理、臨床症状、治療方法が分かる。 骨折の病態、治癒過程、治療方法が分かる。 スポーツ疾患における基本的な理学療法評価が分かる。 エビデンス・ガイドラインを知ることができる。 運動器疾患における基本的な理学療法評価が分かる。 運動器疾患における基本的な運動療法が分かる。 各疾患に応じて必要な評価、運動療法を選択することができる。 関節構造を踏まえた理学療法を理解する。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>本講義で学ぶ疾患は臨床場面で数多く関わるものです。解剖学・運動学的知識をもとにその病態を理解し、理学療法を組み立てていけるよう講義を展開していきます。解剖学、運動学、整形外科学等関連項目で学んだ知識を結びつけながら理解していくことがポイントです。そこを意識して受講できると良いでしょう。学習が十分に進まないようでしたら相談をしてください。個別の指導を実施します。</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書：標準理学療法学 骨関節理学療法学 第2版 (医学書院) 参考書：運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版 (南江堂)、Crosslink 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 (メジカルビュー)、標準整形外科学 第13版 (医学書院) など</p>						
受講時留意点、その他						
<p>本講義は、運動器疾患理学療法学実習Ⅰと関連付けて行います。 解剖学、整形外科学などで学んだ内容 (教科書、ノート、資料) を適宜参考にしてください。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	定期試験を行います。本試験で不合格の場合再試験を実施します。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回	コースオリエンテーション、 <u>肩関節周辺疾患①</u> 肩関節周辺疾患の評価について理解する	大沼賢洋	P276-369	203
第2回	<u>肩関節周辺疾患②</u> 肩関節周辺疾患の病態と治療について理解する	大沼賢洋	P276-369	203
第3回	<u>整形外科テスト</u> 頸部・上肢・下肢の整形外科テストについて理解する	大沼賢洋	配布資料	203
第4回	運動器疾患 総論①	小林敦郎	配布資料	203
第5回	<u>関節リウマチ①</u> 自己免疫疾患・膠原病・関節リウマチの基礎を理解する 臨床症状(関節症状・関節外症状)・臨床検査・診断基準を理解する	森梢	P542-575	203
第6回	運動器疾患 総論②	松本武士	配布資料	203
第7回	<u>関節リウマチ②</u> 評価・治療① 評価の工夫、術後のリハビリテーションを理解する 保存のリハビリテーション(ADL)を理解する	森梢	P542-575	203
第8回	<u>腰椎周辺の機能と構造</u> 体幹・骨盤の解剖学を確認する	植田英則	P370-437	203
第9回	<u>腰椎周辺の疾患学</u> 腰痛の原因を理解する	植田英則	P370-437	203
第10回	<u>スポーツ疾患</u> 野球肘、上腕骨外側上顆炎、オスグッドシュラッター病、ジャンパー膝、 十字靭帯損傷、半月板損傷などの病態と治療を理解する	大沼賢洋	P438-469	203
第11回	<u>足関節周辺疾患</u> 捻挫・靭帯損傷の病態と治療を理解する	大沼賢洋	P470-498	203
第12回	<u>運動器疾患の理学療法</u> エビデンス・ガイドラインに基づく運動療法を理解する	大沼賢洋	配布資料	203
第13回	<u>画像評価</u> 理学療法の対象となる代表的な骨関節疾患の画像診断の診かたを理解する	大沼賢洋	配布資料	203
第14回	<u>疾患別理学療法(関節リウマチ、肩・膝・股関節疾患など)</u> 疾患別の理学療法を理解する	大沼賢洋	配布資料	203
第15回	<u>疾患別理学療法(骨折、スポーツ外傷、脊椎疾患など)</u> 疾患別の理学療法を理解する	大沼賢洋	配布資料	203
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	運動器疾患理学療法学実習Ⅱ	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋、植田英則 小林敦郎、松本武士	解剖学Ⅰ、解剖学実習、運動学、生理学 整形外科学Ⅰ・Ⅱ、基礎理学療法学実習				
開講時期	実務家教員による科目の概要	*実務家教員による科目の場合に記載しています				
3年次前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、臨床実習で関わる疾患や国家試験によく出る疾患を中心に、学生が理解できるように授業していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	運動器系疾患に対する基本的な評価、運動療法を実践できる。					
行動目標 (SBO)	1. 軟部組織損傷の病態を学ぶ。 2. 軟部組織損傷に対する治療法の理論を知る。 3. 軟部組織損傷に対する治療技術を経験する。 4. 疾患に応じた関節可動域運動、筋力増強運動ができる。 5. 症例に応じた評価、運動療法を選択・実践できる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業で学ぶ疾患は臨床場面で数多く関わるもので、講義で学んだ内容をもとに対象者（症例）を想定して実施していきます。将来担当するであろう患者様に対して、評価・治療・ADL指導を実施する際のヒントになるような内容で展開をしていきます。また、実技は、実際の臨床に直結する内容となりますので、繰り返しの練習が必要となります。実技が上達しない、思うように進まないなどあるようでしたら相談をしてください。個別の指導を実施します。						
教科書・参考書						
教科書：標準理学療法学 骨関節理学療法学 第2版（医学書院）						
参考書：運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版（南江堂）、Crosslink 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学（メジカルビュー）、標準整形外科学 第13版（医学書院） など						
受講時留意点、その他						
この授業は、運動器疾患理学療法学Ⅰと関連付けて行います。適宜資料を参考にしてください。 Tシャツ、ハーフパンツ等動きやすい服装で出席してください（服装、身だしなみは清潔感のあるものとします）。 学内の実習ではありますが、緊張感を持ち、礼儀正しく臨みましょう。特に、実技練習の際は学生同士といえども許可を得る、礼を述べることを絶対に忘れないでください。授業前後の手洗いも含め、感染予防対策を徹底してください。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート						
実技試験	100	授業内容をもとに上肢・体幹・下肢の治療手技を実施。				
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回	<u>コースオリエンテーション、肩関節周辺疾患①</u> 肩関節周辺疾患の評価方法の実習	大沼賢洋	配布資料	治療室
第2回	<u>肩関節周辺疾患②</u> 肩関節周辺疾患の治療の実習	大沼賢洋	配布資料	治療室
第3回	<u>整形外科テスト①</u> 頸部・上肢の実践。	大沼賢洋	配布資料	治療室
第4回	<u>運動器疾患 総論①</u>	小林敦郎	配布資料	治療室
第5回	<u>整形外科テスト②</u> 下肢の実践。	大沼賢洋	配布資料	治療室
第6回	<u>ストレッチング①</u> 部・上肢の実践。	頸 大沼賢洋	配布資料	治療室
第7回	<u>運動器疾患 総論②</u>	松本武士	配布資料	治療室
第8回	<u>腰痛に対する評価</u> 腰痛原因を特定する評価を実施することができる。	植田英則	配布資料	治療室
第9回	<u>腰痛に対する治療① 軟部組織mobilization</u> 筋性の原因に対して治療を実施することができる。	植田英則	配布資料	治療室
第10回	<u>腰痛に対する治療② 関節mobilization</u> 関節性の原因に対して治療を実施することができる。	植田英則	配布資料	治療室
第11回	<u>腰痛に対する治療③ stabilization、Active training</u> 腰部周囲の筋に対してアプローチすることができる。	植田英則	配布資料	治療室
第12回	<u>腰痛に対する治療④ stabilization、Active training</u> 自己コントロールするための運動を実施することができる。	植田英則	配布資料	治療室
第13回	<u>ストレッチング②</u> 肢の実践。	下 大沼賢洋	配布資料	治療室
第14回	<u>筋力増強運動</u> 肢の実践。	下 大沼賢洋	配布資料	治療室
第15回	<u>上肢・体幹・下肢に対する治療手技の確認・まとめ</u> ここまで学んだ治療手技を正しく実施することができる。	大沼賢洋	配布資料	治療室 機能訓練室
定期試験				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	小児理学療法学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	川原崎真子 / 赤岩龍士	小児科学・運動学・人間発達学・整形外科学・神経内科学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
3年次後期	この授業は、小児施設で実務経験のある理学療法士が担当します。 こどもの正常運動発達の過程、各発達障害の理学療法について学びます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	小児の成長と発達を理解し、脳性まひなどの発達障害の特性を知る。					
行動目標 (SBO)	1 反射反応の名称・統合部位・出現消失時期・誘発方法・異常性を覚える 2 発達検査方法の名称、目的、検査内容を覚える 3 脳性まひの定義を覚え、痙直型・アト-ゼ型・その他の病態及び特徴について説明できる 4 脳性まひの治療方法を、目的を踏まえ説明できる 5 知的発達障害、ダウン症、自閉症、二分脊椎、ペルテス病、先天性股関節脱臼などの特徴や					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>こどもの発達過程を知り、発達過程で生じる様々な変化に興味を持っていただくと良いでしょう。</p> <p>また、発達障害は成人の中枢神経疾患とも密接な関わりがあるので、他の教科と関連していることも念頭に置いてください。</p> <p>①正常運動発達の過程 ②脳性まひの種類とタイプ分類 ③脳性まひをはじめとする各発達障害のい特徴 ④小児整形外科疾患の特徴 以上4点が大項目となります。</p> <p>運動発達過程は暗記しなければならないことが多く、発達障害に関しては臨床像をイメージできるようにすることが重要となります。</p> <p>VTRなどの教材を多く用いますので、メモをすることや様子や状況を頭に思い浮かべながら受講してください。</p>						
教科書・参考書						
小児理学療法学 新田収著 医歯薬出版 木本孝子他「写真で見る 乳児の運動発達」協同医書・五味重春「脳性麻痺 第2版」医歯薬出版 など						
受講時留意点、その他						
講義形式での授業ですが、特異的な姿勢や動作などは身体を動かしながら行う予定です。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	各講義でレポートを作成。提出期限、内容で採点。未提出1枚10点減点。欠席でも提出可。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での遅刻・欠席、不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	胎生期の成長と発達 在胎期間中の身体器官や運動機能の発達について学ぶ 【キーワード】胎生期・40週・低体重児	川原崎		203
第2回	運動発達の概要 正常運動発達過程の順序や法則について学ぶ 【キーワード】運動発達・原則・方向性	川原崎		203
第3回	正常運動発達 正常運動発達過程における段階的変化について学ぶ 【キーワード】キーマンス・粗大運動	川原崎		203
第4回	反射・反応（１） 発達過程で出現する様々な反射・反応について学ぶ 【キーワード】原始反射・姿勢反射・階層理論	川原崎		203
第5回	反射・反応（２） 発達過程で出現する様々な反射・反応について学ぶ 【キーワード】各反射・出現と消失・統合部位	川原崎		203
第6回	発達診断・発達評価 発達の評価方法の種類とそれぞれの概要や特徴について学ぶ 【キーワード】DDST・GMFCS・ADL評価	川原崎		203
第7回	発達障害と異常姿勢 運動発達障害で特徴的な異常姿勢について学ぶ 【キーワード】異常姿勢・はさみ足・ATNR	川原崎		203
第8回	脳性まひの病態と疫学 脳性まひの定義や特徴、疫学について学ぶ 【キーワード】CP・定義・特徴	川原崎		203
第9回	脳性まひのタイプ 脳性まひの病型とそれぞれの特徴について学ぶ 【キーワード】痙直型・アテトーゼ型・麻痺の分布	川原崎		203
第10回	脳性まひと理学療法① 脳性まひ児の運動療法や介入方法について学ぶ 【キーワード】運動療法・ストレッチング・ADL指導	川原崎		203
第11回	脳性まひと理学療法② 脳性まひ児の運動療法や介入方法について学ぶ 【キーワード】運動療法・ストレッチング・ADL指導助	川原崎		203
第12回	その他の発達障害① 発達障害の概要を知り、それぞれの特徴について学ぶ 【キーワード】ダウン症・広汎性発達障害・知的発達障害	川原崎		203
第13回	その他の発達障害② 発達障害の概要を知り、それぞれの特徴について学ぶ 【キーワード】ダウン症・広汎性発達障害・知的発達障害	川原崎		203
第14回	整形外科領域： 整形外科分野の疾患や病態、理学療法について学ぶ。 【キーワード】二分脊椎・ペルテス病・理学療法	川原崎		203
第15回	まとめ 運動発達過程および評価、脳性まひ、発達障害、整形疾患について復習する。	川原崎		203

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	内部疾患理学療法学	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	赤岩 龍士 森雄司 / 宮川透 / 現職PT	解剖学Ⅱ、生理学、内科学Ⅰ、内科学Ⅱ、基礎PT学 機能診断学、内部疾患理学療法学 など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
3年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、呼吸・循環・代謝疾患に対する理学療法治療学を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	呼吸・循環・代謝疾患に対する理学療法を理解する。					
行動目標 (SBO)	1.呼吸・循環・代謝疾患を理解するための生理学的知識を習得する。 2.理学療法の対象となる呼吸・循環・代謝疾患の病態生理を理解する。 3.呼吸・循環・代謝疾患に対する基本的な介入方法を知る。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業では、慢性閉塞性肺疾患・心筋梗塞・糖尿病といった内部障害系の疾患に対する理学療法を学びます。運動器・神経系で理学療法を受ける患者さんの中にも、合併症として呼吸・循環・代謝疾患を持っている方も少なくありません。患者さんのリスク管理にもつながる科目ですから、ぜひ興味をもって受講して下さい。						
教科書・参考書						
教科書 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 (中山書店) 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 (中山書店)						
受講時留意点、その他						
第6回・第7回 宮川 透 先生 (聖隷富士病院) 第8回・第9回・第10回 森雄司 先生 (静岡医療センター) による講義を予定しています。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験を行い、成績評価を行う。評価割合は原則として100%とする。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での遅刻・欠席、授業中の居眠り・携帯電話の使用・飲食等、不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	呼吸器系の解剖・生理・運動学 呼吸理学療法に必要な解剖・生理・運動学を学ぶ。 【KW】 気管支・肺・呼吸調節・呼吸運動	宮下	(呼吸) Lecture2,3	203
第2回	呼吸不全の病態と呼吸器疾患 呼吸理学療法の対象疾患を学ぶ 【KW】 呼吸不全・慢性閉塞性肺疾患(COPD)・間質性肺疾患	宮下	(呼吸) Lecture4	203
第3回	呼吸理学療法のための評価 呼吸器疾患に対する代表的な検査・評価を学ぶ 【KW】 パルスオキシメトリ・フローボリューム曲線・mMRC質問票・6MWT	宮下	(呼吸) Lecture5,6	203
第4回	疾患別呼吸理学療法(1)慢性呼吸不全 慢性呼吸不全に対する吸理学療法を学ぶ 【KW】 呼吸練習・運動療法・ADL指導	宮下	(呼吸) Lecture10,13	203
第5回	疾患別呼吸理学療法(2)急性呼吸不全(外科手術後) 術後肺合併症への介入を学ぶ 【KW】 リスクファクター・聴診・排痰	宮下	(呼吸) Lecture8,14	203
第6回	循環器系の解剖と生理 【KW】 冠循環、心ポンプ機能、循環調節機構、心電図	宮川	(循環・代謝) Lecture2	203
第7回	虚血性心疾患、慢性心不全の病態・検査と治療 【KW】 心筋虚血、心不全、検査所見	宮川	(循環・代謝) Lecture5,7	203
第8回	運動耐容能とその評価 運動に伴う循環器の反応について学ぶ。 【KW】 運動時の血流配分・運動時の循環応答・嫌気性代謝閾値	森	(循環・代謝) Lecture3	203
第9回	心臓リハビリテーション総論、循環器理学療法の評価 心臓リハビリテーションの目的・効果と、評価について学ぶ。 【KW】 運動療法の身体効果・リスク層別化	森	(循環・代謝) Lecture8 Lecture9	203
第10回	循環器理学療法の実際 循環器疾患（主に虚血性心疾患）に対する介入方法を学ぶ。 【KW】 心臓リハビリプログラム・Mets・運動療法の禁忌・運動処方	森	(循環・代謝) Lecture 9 Lecture10	203
第11回	代謝疾患 糖尿病の病態 糖尿病の病態や疾患特性について学ぶ 【KW】 インスリン作用・I型糖尿病・II型糖尿病	赤岩	(循環・代謝) Lecture 11	203
第12回	代謝疾患 糖尿病と合併症 糖尿病の合併症と治療指針について学ぶ 【KW】 合併症・壊疽・治療方法	赤岩	(循環・代謝) Lecture 12	203
第13回	代謝疾患 糖尿病の理学療法 糖尿病の運動療法と食事療法について学ぶ。 【KW】 運動処方・GLUT4・糖尿病教育	赤岩	(循環・代謝) Lecture 12 Lecture 13	203
第14回	代謝疾患 高血圧症・肥満症 生活習慣病の病態と理学療法について学ぶ。 【KW】 生活習慣病・動脈硬化・合併症	赤岩	配布資料	203
第15回	腎疾患の理学療法 腎臓病の概要と腎疾患に対する理学療法を学ぶ。 【KW】 慢性腎臓病 (CKD) ・血液透析・有酸素運動	赤岩	配布資料	202
定期試験	後期末試験			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	内部疾患理学療法学実習	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	赤岩 龍士 森雄司／宮川透／現職PT	解剖学Ⅱ、生理学、内科学Ⅰ、内科学Ⅱ、基礎PT学 機能診断学、内部疾患理学療法学 など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
3年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、呼吸・循環・代謝疾患に対する理学療法治療学を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	呼吸器疾患、代謝疾患に対する介入方法を知る。 心電図の体験を通して、波形に対する理解を深める。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸のフィジカル・アセスメントを体験する。 2. 呼吸器疾患（慢性、急性）に対する介入の流れを知る。 3. 気管吸引の流れを知り、一通り実施する。 4. 心電図検査の流れを体験し、代表的な異常波形を知る。 5. 代謝疾患、生活習慣病に対するアプローチ（運動療法、コーチング）を知る。 6. 運動処方考え方を理解する。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>この授業では、呼吸器疾患と代謝疾患への介入方法、および心電図を実習を通して学びます。</p> <p>本校の臨床実習などは内部障害系の疾患は必須項目ではありません。そこで、骨関節疾患、中枢神経疾患に対する評価・手技に比べて求める習熟度は低く設定していますが、基本的な手技を体験して、臨床に出た後あたりに学ぶ際に繋がるようにしていきます。</p>						
教科書・参考書						
教科書 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸（中山書店） *第1回～第7回、第8・9回 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝（中山書店） *第10回、第11回～第15回						
受講時留意点、その他						
運動のしやすい服装で受講して下さい。体調管理に注意して休まず受講しましょう。 呼吸器の授業では、聴診器、パルスオキシメーターなどを使用します。使用後は消毒をして片付けて下さい。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	80	介入方法、運動処方などに関するレポートを課して採点する。呼吸器疾患60点満点、代謝疾患20点満点とする。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	20	授業内の取り組み状況、評価・治療手技などが一通りできるかを評価する（配点は10点）。各授業内で行動観察を行い、評価する。 授業に対する興味・関心が良好、周囲との協調性が良好な場合など、加点の対象とする事がある。 授業に対する迷惑行為、無礼な態度、不適切な身だしなみ（頭髪、爪、服装）、携帯電話等の使用、飲食などは、減点の対象とします。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	呼吸理学療法のための評価(1) フィジカルアセスメント 視診・触診を実習する 【KW】呼吸数・呼吸パターン・胸郭運動・SpO2	宮下	(呼吸) Lecture5	治療室 聴診器 パルスオキシメータ
第2回	呼吸理学療法のための評価(2) 聴診 胸部の聴診を実習する 【KW】気管呼吸音・気管支呼吸音・肺胞呼吸音	宮下	(呼吸) Lecture5	機能訓練室 聴診器 パルスオキシメータ
第3回	呼吸理学療法のための評価(3)画像所見の評価(胸部X線) 胸部の聴診を実習する 【KW】気管呼吸音・気管支呼吸音・肺胞呼吸音	宮下	(呼吸) Lecture6	203
第4回	呼吸理学療法基本手技(1)コンディショニング 呼吸法指導,呼吸介助手技を実習する 【KW】口すぼめ呼吸・横隔膜呼吸・呼吸介助手技	宮下	(呼吸) Lecture7,9	治療室 聴診器 パルスオキシメータ
第5回	呼吸理学療法基本手技(2)排痰法 排痰法の一通りの流れを実習する 【KW】聴診・副雑音・体位ドレナージ・スキージング	宮下	(呼吸) Lecture 8	治療室 聴診器 パルスオキシメータ
第6回	疾患別呼吸理学療法(1)慢性呼吸不全 慢性呼吸不全で実施するコンディショニング、運動療法等を学ぶ。 【KW】呼吸練習・呼吸筋ストレッチ体操・筋力トレーニング 他	宮下	(呼吸) Lecture10, 13	治療室 聴診器 パルスオキシメータ
第7回	疾患別呼吸理学療法(2)急性呼吸不全 術後合併症への介入を考える 【KW】術前指導・聴診・体位ドレナージ・スキージング	宮下	(呼吸) Lecture14	治療室 聴診器 パルスオキシメータ
第8回	呼吸理学療法のための評価(3)運動耐容能の評価 6分間テストを体験し、実施方法を学ぶ。 【KW】目的・適応・歩行コース・説明	宮下	(呼吸) Lecture6	基礎医学実 習室
第9回	呼吸理学療法のための評価(3)運動耐容能の評価 7分間テストを体験し、実施方法を学ぶ。 【KW】目的・適応・歩行コース・説明	宮下	(循環・代謝) Lecture3	機能訓練室 心電図
第10回	心電図の診かた 心電図を測定し読影する。 【KW】12誘導、電極と心電図波形	宮川	(呼吸) Lecture15	治療室 吸引装置
第11回	心電図の診かた 心電図を測定し読影する。 【KW】13誘導、電極と心電図波形	宮川	(呼吸) Lecture15	治療室 吸引装置
第12回	代謝疾患の運動処方 エネルギー代謝 エネルギー代謝と運動処方について学ぶ。 【KW】三大栄養素・ATP-PC r系・TCA回路	赤岩	(循環・代謝) Lecture 1	203
第13回	代謝疾患の運動処方 運動強度と運動の種類 運動処方が必要とされる強度設定について学ぶ。 【KW】最大酸素摂取量・AT (嫌気性代謝閾値)・MET s	赤岩	(循環・代謝) Lecture 1 Lecture 3	203
第14回	代謝疾患の評価と理学療法 運動処方における持久運動の種類と評価について学ぶ。 【KW】全身持久力・トレッドミル・自転車エルゴメータ	赤岩	(循環・代謝) Lecture 3 Lecture 13	203
第15回	代謝疾患の評価と理学療法 運動処方における抵抗運動の種類と評価について学ぶ。 【KW】下肢筋力・WBI・等速性筋収縮	赤岩	(循環・代謝) Lecture 3 Lecture 13	203
補習	呼吸器疾患のケーススタディ	宮下		203

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	物理療法学	2	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	森梢 /内田成男/中村剛志	生理学、物理療法学実習、運動療法学 など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
3年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、物理療法の基礎理論から実践方法までを教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	物理療法の理論と実施方法を理解する					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理的手段の基礎事項が分かる。 2. 物理療法の生体への反応を述べることができる。 3. 各療法の実施手順を述べるができる。 4. 各療法の適応、禁忌が分かる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>物理療法の基礎理論は、治療手段の基礎となる「物理学」の内容と、生体の反応を理解するための「生理学」の内容に大別できます。物理学の考え方については慣れていない人もいるかもしれませんが、学ぶのは治療手段の理解に最低限必要なものだけです。苦手意識をもたずに取り組んで下さい。</p> <p>治療の実施については、実施手順とあわせて、適応・禁忌を十分に理解しましょう。リスク管理は、物理療法において重要な事項です。禁忌をしっかりと覚え、適切な物理療法を選択できるようにしましょう。</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書：石川 朗（編）15レクチャーシリーズ 物理療法テキスト 物理療法学・実習（第2版），中山書店，2025</p> <p>参考書：奈良勲（監）標準理学療法学 専門分野 物理療法学（第6版），医学書院,2025</p> <p>吉田英樹（編）：Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学（第1版），メジカルビュー社，2020.</p>						
受講時留意点、その他						
健康管理に留意し、休まずに受講しましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末定期試験を実施する。60点以上を合格の目安とする。 第1回～第15回までの全ての内容から出題する。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	第14回、第15回で演習問題（範囲は次ページ）を提示し、解説を行う。原則として成績には含まず、学習状況の確認のために実施。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	<u>コースオリエンテーション、物理的なエネルギー</u> 物理的なエネルギーの種類を学ぶ。 【キーワード】熱エネルギー・波のエネルギー・電気エネルギー	森	p1~10	配布資料 203
第2回	<u>温熱の基礎</u> 温熱の物理的特性と生理学的作用を学ぶ。 【キーワード】比熱・熱の移動・生体反応	中村	p25~32	配布資料 203
第3回	<u>物理療法の対象となる病態</u> 物理療法の対象となる症状、病態を学ぶ。 【キーワード】炎症・疼痛	内田	p 6~10	配布資料 203
第4回	<u>温熱療法：ホットパック、パラフィン浴</u> 温熱療法（伝導熱と輻射熱）について学ぶ。 【キーワード】ホットパック・パラフィン・適応・禁忌	中村	p33~43	配布資料 203
第5回	<u>電気刺激療法の基礎</u> 電気エネルギーの理論を理解し、生理学的効果を学ぶ。 【キーワード】電流・持続時間・周波数・強さ-時間曲線・他	内田	p109~120	配布資料 203
第6回	<u>温熱療法：極超短波</u> エネルギー変換熱について学ぶ。 【キーワード】熱発生の原理・生理学的作用・コサインの法則・禁忌	中村	p44~64	配布資料 203
第7回	<u>電気刺激療法：</u> 電気刺激療法の実際を学ぶ。 【キーワード】TENS・TES・FES	内田	p121~142	配布資料 203
第8回	<u>寒冷療法</u> 寒冷療法の生理学的作用と実施方法を学ぶ。 【キーワード】アイスマッサージ・生理学的作用・適応・禁忌	中村	p87~96	配布資料 203
第9回	<u>牽引療法</u> 牽引の生体への力学的影響を理解し、適応・禁忌を学ぶ。 【キーワード】頸椎牽引・腰椎牽引・牽引力・方向	内田	p143~154	配布資料 203
第10回	<u>水治療法</u> 水の特性と水治療法の実際を学ぶ。 【キーワード】浮力・抵抗・生理学的作用・渦流浴・プール療法	中村	p97~108	配布資料 203
第11回	<u>超音波療法①</u> 超音波の発生原理・特性と性能について学ぶ。 【キーワード】逆ピエゾ圧電効果・ビーム不均等率・有効照射面積	中村	p65~76	配布資料 203
第12回	<u>超音波療法②</u> 超音波療法と実施手順、適応と禁忌を学ぶ。 【キーワード】移動法・水中法・実施手順・適応・禁忌	中村	p65~76	配布資料 203
第13回	<u>光線療法：レーザー療法・紫外線療法・赤外線療法</u> 光線療法の基本を理解し、適応・禁忌を学ぶ。 【キーワード】波長・出力・適応・禁忌	中村	p44~52 p77~86	配布資料 203
第14回	<u>復習①</u> 第1~6回の復習（問題演習）を行う。	森		配布資料 203
第15回	<u>復習②</u> 第7~13回の復習（問題演習）を行う。	森		配布資料 203
定期試験	後期末試験			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	物理療法学実習	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	森梢 /内田成男/望月里子	生理学、物理療法学 など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
3年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、物理療法機器の使用方法から実施方法を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	代表的な物理療法を一通り実施することができる。 各種疾患に適した物理療法を選択できる。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理的刺激による生体反応を体験し、理解できる。 2. 物理療法機器の基本的な操作ができる。 3. 注意事項に応じた確認、説明が出来、禁忌を回避できる。 4. 代表的な疾患へ適した物理療法を選択し、治療プログラムを検討できる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業では、講義で学んだ各種療法を実際に行います。自ら体験すること、観察することで、物理的刺激で生じる生体反応を理解できるでしょう。また、実施手順、禁忌事項を理解し、安全に行う技能を身につけていきます。機器の台数が限られているため、何グループかに分かれてローテーションしながらの実習になります。限られた時間になりますが、出来るだけ多く体験し、授業時間内で一通りの操作ができるようにしていきます。もう一つの目標として、各種疾患に適した物理療法の選択ができるようにしていきます。治療法の選択は難しい課題ですが、グループで協力しながら検討していきます。						
教科書・参考書						
教科書：石川 朗（編）15レクチャーシリーズ 物理療法テキスト 物理療法学・実習（第2版），中山書店，2025 参考書：奈良勲（監）標準理学療法学 専門分野 物理療法学（第6版），医学書院，2025 吉田英樹（編）：Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学（第1版），メジカルビュー社，2020.						
受講時留意点、その他						
物理療法機器を扱いますので、危険が伴います。各自集中力をもって授業に臨んで下さい。手洗いをして、爪は短く切り、身だしなみを整えましょう。装飾品は除去して下さい。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	70	第15回で作成するレポートを70%の評価割合で成績評価に参入する。 なお、レポートは第15回の時間内で作成、提出することとする。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	30	代表的な物理療法が一通り実施できるようになったかを「行動観察」で評価する。 第14回に実施する課題は、2週間前に提示。				
(合計)	100					
回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等			教員	教科書	教材 教室

(R02-カリキュラム)

第1回 5/23④	コースオリエンテーション、使用機器の説明 物理療法学実習で使用する機器や測定機器の説明 【キーワード】パルスオキシメーター・表面温度計	森		治療室
第2回	温熱刺激による生体反応① 代表的な温熱療法の実施手順を習得する。 【キーワード】ホットパック・パラフィン・極超短波	森	p6~64	治療室
第3回	温熱刺激による生体反応② 温熱による生体の変化を体験し、測定する。 【キーワード】伝導熱・表面温度・伝導率	森	p6~64	治療室
第4回	寒冷療法 寒冷療法の体験を通して生体の反応を学ぶ。 【キーワード】表面温度計・氷・バイタルサイン	森	p87~96	治療室
第5回	水治療法 渦流浴の体験を通して、全身・局所への影響を理解する。 【キーワード】部分浴・全身浴	森	p97~108	治療室 水治療室
第6回	電気刺激療法① 電気刺激装置の使用方法和時値、SD曲線を学ぶ。 【キーワード】モーターポイント・クロナキシー・TES・TENS	内田	p109~142	治療室
第7回	電気刺激療法② 電気刺激装置の使用方法和時値、SD曲線を学ぶ。 【キーワード】モーターポイント・クロナキシー・TES・TENS	内田	p109~142	治療室
第8回	牽引療法 牽引装置の操作体験を通し、牽引力・方向の調整を学ぶ。 【キーワード】頸椎牽引・腰椎牽引	内田	p143~154	治療室
第9回	超音波療法 超音波治療器を用い、実施方法を学ぶ 【キーワード】接触法・水中法・キャビテーション	森	p65~76	治療室
第10回	物理療法の総合復習① 各種療法の復習を行う。 【キーワード】温熱療法・電気刺激療法・光線療法・超音波療法	森		治療室
第11回	物理療法の総合復習② 各種療法の復習を行う。 【キーワード】電気刺激療法・ホットパック・超音波療法	森		治療室
第12回	疾患別物理療法プログラムの検討 ① 骨関節疾患に対する物理療法の選択をグループで検討する。 【キーワード】骨折・変形性関節症・腰痛症・肩関節周囲炎	森	配布資料	203
第13回	疾患別物理療法プログラムの検討 ② 神経疾患に対する物理療法の選択をグループで検討する。 【キーワード】末梢神経麻痺・中枢性麻痺・疼痛	森	配布資料	203
第14回	物理療法の総合復習③ 代表的な物理療法を一通り実施できるか確認する。 【キーワード】電気刺激療法・ホットパック・超音波療法	森		治療室 機能訓練室 OT実習室1
第15回	疾患別物理療法プログラムの検討 ③ 各種疾患に対する物理療法をレポートにまとめる。 【キーワード】骨関節疾患・神経疾患・適応と禁忌	森		203
補習	物理療法の総合復習	森		治療室

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	装具学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	市村真樹	解剖学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱ、臨床運動学、整形外科学、神経内科学、中枢神経疾患理学療法Ⅰ・Ⅱ、運動器疾患理学療法				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
3年次前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での実務経験を基に装具に必要なバイオメカニクスの理解、疾患に合わせた装具治療ができるように授業をしていきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	疾患により、運動機能障害を呈した人に対して適切な装具療法が実施できるよう、装具の基本的な構造と機能を理解し、疾患や障害に適した装具の選択や装具療法を理解する。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常歩行と比較し、運動力学的視点で装具歩行を説明できる。 2. 装具の基本的構造と機能を理解できる。 3. 疾患や障害に合わせた装具の選択を理解できる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>本講義では、身体バイオメカニクスを基に進めていきます。解剖学・運動学の復習を十分行うことで理解が深まります。装具の種類は多いですが、各々の部品や機能などを理解することで疾患や障害に合わせた装具の選定が可能になります。授業中に装具の実物を提示しますので、しっかり確認するようにしてください。</p>						
教科書・参考書						
<p>教科書：石川朗, 佐竹将宏 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学 第2版 中山書店 2020年 参考書：1) 日本義肢装具学会監修 装具学 第4版 医歯薬出版株式会社 2013年 2) ペリー歩行分析 正常歩行と異常歩行 原著第2版 医歯薬出版株式会社2012年 その他</p>						
受講時留意点、その他						
<p>学習内容の理解が深まるように、受講準備（予習）を怠らないようにしてください。 講義だけでなく、体験や実技があります。常に実技ができる服装で参加してください。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を実施する。60点以上を合格の目安とする。第1回～第15回までの全ての内容から出題する。				
小テスト	0	第5回、第10回、第15回終了後、オンラインにて小テストを行う。成績には含めない。				
レポート	0					
実技試験	0					
プレゼンテーション	0					
その他	0	第15回で演習問題を実施し、解説を行う。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回 5月12日	「装具総論 装具療法の基本(目的と分類)」 【キーワード】装具 3点固定の原理、製作の流れ、歩行のバイオメカニクス	市村真樹	P1~8 LECTURE1	203
第2回 5月19日	「装具の分類各論 下肢装具の部品・短下肢装具」 【キーワード】短下肢装具、継手	市村真樹	P11~30 LECTURE2・3	203
第3回 5月26日	「装具の分類各論 下肢装具」 【キーワード】長下肢装具、股装具、膝装具	市村真樹	P31~40 LECTURE4	203
第4回 5月30日	「装具の分類各論 靴型装具、下肢装具のチェックアウト」 【キーワード】靴型装具、チェックアウト	市村真樹	P41~62 LECTURE5	203
第5回 6月2日	「装具の分類各論 上肢装具」 【キーワード】肩関節装具 手関節装具	市村真樹	P85~94 LECTURE9	203
第6回 6月6日	「装具の分類各論 体幹装具」 【キーワード】頸椎装具 腰仙椎装具 側弯矯正装具	市村真樹	P73~84 LECTURE 8	203
第7回 6月9日	「歩行補助装具」 【キーワード】歩行補助具 車椅子 クッション	市村真樹	P95~108 LECTURE10	203
第8回 6月13日	「疾患別：脊髄損傷の装具療法」 【キーワード】頸髄損傷の歩行	市村真樹	P143~154 LECTURE14	203
第9回 6月16日	「疾患別：整形外科疾患の装具療法」 【キーワード】膝装具 体幹装具	市村真樹	P123~142 LECTURE12	203
第10回 6月20日	「疾患別：脳卒中①」 脳卒中片麻痺の歩行の特徴	市村真樹	配布資料	203
第11回 6月23日	「疾患別：脳卒中②」 脳卒中片麻痺の装具の特徴	市村真樹	P109~118 LECTURE11	203
第12回 6月27日	「疾患別：脳卒中③」 脳卒中片麻痺の装具療法の紹介	市村真樹	P109~118 LECTURE11	203
第13回 6月30日	「疾患別：整形外科疾」 関節リウマチの装具療法の紹介	市村真樹	P123~132 LECTURE12	203
第14回 7月4日	「疾患別：小児疾患」 対麻痺・小児の装具療法の紹介	市村真樹	P147~153 LECTURE14	203
第15回 7月7日	演習問題	市村真樹	配布資料	203
定期試験 7月15日	筆記試験（5択、記述、記号選択、その他）4限			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	義肢学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	植田英則	解剖学・運動学・運動機能評価学・整形外科学・装具学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
3年次後期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	切断高位に合わせた義足の特徴を理解できる。					
行動目標 (SBO)	1. 各義足の構造と機能を理解できる。 2. 各義足のアライメントと歩行の特徴を理解できる。 3. 切断のリハビリテーションの進め方を理解できる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
本講義は解剖学・運動学の復習を十分行うことで理解が深まります。初回に復習を行いますが、各自でも進めてください。授業中に義肢の実物を提示しますので、しっかり確認するようにしてください。						
教科書・参考書						
教科書: 石川朗総編集.15レクチャーシリーズ理学療法テキスト義肢学第2版 中山書店 参考書: 川村次郎他.義肢装具学第4版 医学書院						
受講時留意点、その他						
体験のある授業時は、動きやすい服装で参加すること。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験を実施する。6割以上を合格とする。				
小テスト	0					
レポート	0					
実技試験	0					
プレゼンテーション	0					
その他	0					
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材教室
第1回	解剖学の復習:義足を学ぶ上で重要な解剖学の復習を行う。 【キーワード】高位	植田	配布資料	203
第2回	切断・義肢総論義足の基本的知識を深める。 【キーワード】名称・種類・仮義足	植田	p1-10	203
第3回	下腿義足①代表的なソケットの特徴を理解する。 【キーワード】ソケット、特徴、適応	植田	p43-62	203
第4回	下腿義足②装着後の正常なアライメントを理解する。 【キーワード】ベンチアライメント、スタティックアライメント	植田	p43-62	203
第5回	下腿義足③各相での異常の形、その原因を理解する。 【キーワード】異常歩行、IC～MSt	植田	p43-62	203
第6回	大腿義足①代表的なソケットの特徴を理解する。 【キーワード】四辺形ソケット、坐骨収納型ソケット	植田	p33-52	203
第7回	大腿義足②大腿義足の膝継手の特徴を理解する。 【キーワード】膝継手、遊脚相、立脚相	植田	p33-52	203
第8回	大腿義足③大腿義足のアライメントを理解する。 【キーワード】静的・動的アライメント	植田	p33-52	203
第9回	大腿義足④異常歩行の原因と出現相を理解する。 【キーワード】異常歩行、遊脚期、立脚期	植田	配布資料	203
第10回	義足体験・歩行介助模擬義足体験装置を使用し、義足歩行指導を体験する。 【キーワード】体験装置、介助法	植田	配布資料	機能訓練室
第11回	義手総論:上肢切断の基本知識と義手を理解する。 【キーワード】上腕切断・前腕切断	岡本	資料配布	203
第12回	股義足・膝義足・サイム義足・足部部分義足 代表的な義足の特徴を理解する。 【キーワード】特徴、ソケット、アライメント	植田	p63-72	203
第13回	断端管理法・評価模擬断端を使用し、ソフトドレッシング法を体験する。【キーワード】ソフトドレッシング法、周径、四肢長	植田	p73-92	機能訓練室
第14回	切断のリハビリテーション 切断患者のADL指導を実施することができる。【キーワード】ADL、義足側、健側	植田	配布資料	機能訓練室
第15回	まとめ	植田	配布資料	203
定期試験	実施する			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	症例検討Ⅰ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子 、長田美紀	臨床実習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、PT評価学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
3年次 後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、症例検討の方法について教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	一連の理学療法思考を整理し、ディスカッションすることが出来る。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例検討の方法を知る。 2. 検討内容について意見の根拠となる知識を教科書等から調べることが出来る。 3. 検討内容を参考に理学療法アセスメントが出来る。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>症例検討とは、症例の理学療法訓練や経過などから、提供した理学療法と理学療法士の思考過程を検討することです。この授業では、症例検討に必要な知識とプレゼンテーションに必要な態度や話し方等を学びます。検討会では、話す態度や聴く態度も重要です。活発な検討会が出来るよう準備をしていきましょう。</p>						
教科書・参考書						
特に指定なし						
受講時留意点、その他						
<p>体調管理をしっかり行い、休まずに受講して下さい。 受講時は礼儀正しく、清潔な身だしなみ（頭髪、服装など）を心がけましょう。 内容、時間割を変更することがあります。その際は、掲示板、デスクネットなどでお知らせします。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験		定期試験は行いません。				
小テスト						
レポート	50	授業での提出物が対象。（授業内で終わらない場合は宿題） 提示した書式に沿ってつくられているかで評価する。（字数など、詳細は授業内で説明） 未提出、提出期限遅れの場合は大幅な減点とする。				
実技試験						
プレゼンテーション	50	体験発表会を実施します。（詳細は、授業内で説明）				
その他	*	課題やプレゼンテーションに関して事前の相談等も受け付けます。				
(合計)	100	合計が6割に満たない場合は追加の課題提出が必要となる場合があります。				

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	症例検討とは 症例検討の意義や目的を学ぶ。	望月		
第2回	症例検討の方法 書式に沿って症例検討を進める方法を学ぶ。	望月		
第3回	症例検討に向けて 症例検討に向けて資料作成の方法を学ぶ。	望月		
第4回	症例検討の準備 症例検討での発表に向けて準備する。	望月		
第5回	症例検討① 発表とディスカッションを行う。	望月		
第6回	症例検討② 発表とディスカッションを行う。	望月		
第7回	症例検討③ 発表とディスカッションを行う。	望月		
第8回	症例検討④ 発表とディスカッションを行う。	望月		
第9回				
第10回				
第11回				
第12回				
第13回				
第14回				
第15回				
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	生活環境論Ⅰ	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	植田英則 、宮上純貴	地域リハビリテーション学、生活環境論Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
3年次 前期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	住宅改修に必要な共通基本技術を知識を学ぶ。					
行動目標 (SBO)	①住宅改修に必要な建築基準法を学ぶ。 ②共通技術の基本的な考え方を学ぶ。 ③具体的な方法を事例を通して学ぶ。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業は、今まで学んできたことを基に自宅復帰・社会復帰に向けて考えていく授業です。イーラーニング方式で進めることが多い授業です。積極的に進めていきましょう。						
教科書・参考書						
指定教科書：なし						
参考書：改訂第5版福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 東京商工会議所						
受講時留意点、その他						
授業中にスマートフォンを使用します。充電を十分な状態としてください。また、授業中は節度をもって、使用しましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	第8回でまとめたレポートで採点します。詳細な内容は授業でお伝えします。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	住宅改修に必要な建築基準法を知る 【KW】建築物の用途、建ぺい率、容積率	植田		203
第2回	段差の解消方法 【KW】地面からの高さ、スロープ、すりつけ板	植田		203
第3回	手すりの取り付け 【KW】種類、使用場所・方法、取付位置	植田		203
第4回	スペースへの配慮 【KW】幅員、モジュール	植田		203
第5回	その他配慮すべき事項 【KW】家具、照明、冷暖房	植田		203
第6回	住環境整備の事例紹介①	宮上		203
第7回	住環境整備の事例紹介②	宮上		203
第8回	まとめ 第1～7回まで学んだ事をレポートとしてまとめる	植田		203
第9回				
第10回				
第11回				
第12回				
第13回				
第14回				
第15回				
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	臨床実習Ⅲ	4	180	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋、望月里子、赤岩龍士 森梢、白井英彬、長田美紀	専門分野の評価学、専門分野の理学療法学、専門分野の理学療法学実習など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
3年次 前期	この授業は、臨床の理学療法士および学校教員で担当します。医療施設での実務経験をもとに、患者への理学療法や業務について見学や体験を通して学びを深めます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる (理学療法の対象者との関係性構築) 2. 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動を取ることが出来る (チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割) 3. 理学療法の流れを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明することができる (理学療法プロセスの理解) 4. 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、1)～3)を実践することができる。 (対象者に対する理学療法実践) 					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. <ol style="list-style-type: none"> ①清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる。 ②共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築することができる。 ③周囲における自己の存在を意識した行動を行う事が出来る。 ④自らが置かれた立場で、必要とされている要件を認識し、他者や指導者の助言などに対して適切に応答することができる。 ⑤対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自信の感情を制御して接することができる。 ⑥対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りを心がけることができる。 2. <ol style="list-style-type: none"> ①医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる。 ②部門におけるルールを理解し、診療プロセス(処方の確認、計画書、効果判定、カルテの記録、算定手順など)を理解した言動を取ることができる。 ③臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる。 ④積極的に理学療法スタッフや多職種と関わり、良好な関係を構築することができる。 ⑤インシデント・アクシデントが生じた際には実習施設の手順に従って対応することができる。 ⑥守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる。 ⑦臨床実習施設における多職種連携の展開について見学することができる。 3. <ol style="list-style-type: none"> ①指導者の助言のもと、検査項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由について説明することができる。 ②指導者の助言のもと、検査結果の関連性について説明することができる。 ③可能ならば、指導者の助言のもと、対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明することが経験できる。 ④可能ならば、指導者の助言のもと、対象者の治療目標を設定し、その設定根拠について説明することが経験できる。 ⑤可能ならば、指導者の助言のもと、理学療法プログラムを選択や、その根拠について説明することが経験できる。 ⑥可能ならば、指導者の助言のもと、理学療法の即時効果を確認し、その内容について説明することが経験できる。 ⑦可能ならば、指導者の助言のもと、実施内容を診療記録に記載することが経験できる。 ⑧可能ならば、指導者の助言のもと、カンファレンスでの症例提示内容について説明をすることが経験できる。 					

(R02-カリキュラム)

行動目標 (SBO)	<p>4.</p> <p>1) リスク管理について</p> <p>①スタンダードプリコーション (標準予防策) が実施できる</p> <p>②バイタルサインの計測を実施できる</p> <p>③意識レベルの評価を見学し、可能ならば実施できる</p> <p>④各種モニターの使用が経験できる</p> <p>2) 理学療法評価について</p> <p>①情報収集 (診療記録、画像所見、部門内、部門外を含む) を実施することができる</p> <p>②フィジカルアセスメント (問診、視診、聴診、触診) を実施することができる</p> <p>③基本的な検査測定を実施することができる</p> <p>・形態測計測・感覚検査・反射検査・筋緊張検査・関節可動域計測</p> <p>・筋力検査・運動耐用力</p> <p>④姿勢観察を経験することができる。</p> <p>⑤動作観察を経験することができる。</p> <p>⑥疼痛の評価を経験することができる。</p> <p>⑦日常生活活動評価 (手段的日常生活活動を含む) を経験することができる。</p> <p>⑧運動器疾患に関する個別検査を経験することができる。</p> <p>⑨中枢神経疾患に関する個別検査を経験することができる。</p> <p>⑩内部障害に関する個別検査を経験することができる。</p> <p>⑪各種発達評価を経験することができる。</p> <p>3) 理学療法治療技術について</p> <p>①運動療法を経験することができる</p> <p>・関節可動域運動・筋力増強運動・バランス練習</p> <p>・基本動作練習 (随意性の促進含む) ・移動動作練習・日常生活活動練習</p> <p>②物理療法を経験することができる</p> <p>・温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・超音波療法・水治療法</p> <p>・光線療法・牽引療法</p> <p>③義肢装具療法などを経験することができる</p> <p>・長・短下肢装具の適合性の確認・長・短下肢装具の調整・福祉用具の選択</p> <p>・歩行補助具の使用法の説明</p>
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など	
<p>臨床実習Ⅲ：135時間 (8時間×15日) + 学内実習45時間 計180時間</p> <p>この授業は、学外の実習施設へ通い、臨床実習指導者の下で行われます。診療場面に参加し、様々な体験、見学を行います。実習は以下のような方法で行われます。</p> <p>(1) 診療参加型臨床実習</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 実習生が臨床実習指導者の助手として、診療補助行為を行うことによって、臨床経験を積んでいく授業形態です。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 検査・測定や動作介助が実習内容となります。指導者が担当している複数の対象者に対し、指導者の指示のもとで経験を積みながら治療技術と臨床思考を習得していきます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1人の対象者に対し、ある部分は自分で実施し、ある部分は指導者が実施するのを見学する形になります。この過程で、指導者の考える障害像や統合と解釈、ゴール・プログラム立案プロセスの説明を受けながら理解を深めます。</p> <p>(2) 実習日誌</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行動記録、実習記録 (体験数)、1日の振りかえりなどを記載します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 毎日記載して、臨床実習指導者へ提出します (学校指定の書式使用)。</p> <p>(3) ポートフォリオ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 診療参加型実習中に体験した検査測定や介助の記録や、指導者から指示のあった自宅学習の内容、自己研鑽でまとめた資料等をファイリングします。テーマに沿って資料を整理することで、理学療法の全体像や流れを把握します。</p> <p>・また、毎日、指導者と共に確認し記載するチェックリストも挟み込んでいきます。</p> <p>・記入の際は個人情報の流出に留意し、臨床実習指導者から適切な情報の取り扱いを学びます。</p>	
教科書・参考書	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習教育の手引き (日本理学療法士協会 編集・発行) ・臨床実習ガイド (本校編集授業資料) ・臨床実習記録 (本校編集授業資料) ・その他、学内授業で活用した教科書 ・臨床実習指導者が用意した学修教材 	
受講時留意点、その他	
<p><input checked="" type="checkbox"/> 服装は、学校指定のユニフォームとします。ただし、実習施設で指定がある場合それにしたがって下さい。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 実習施設の規則を守り、理学療法学生として適切な行動を心がけて下さい。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 原則的に、土日の開講はありません。ただし、実習施設や実習指導者の勤務の関係で変更となる場合があります。</p>	
成績評価方法	
評価方法	評価割合
具体的な評価の方法、観点 など	

(R02-カリキュラム)

定期試験		なし
小テスト		
レポート	*	テーマ「臨床実習施設での多職種連携の展開について」 「検査測定 of 臨床特性」
実技試験	*	実習前後のOSCEにて採点する。
プレゼンテーション	*	実習後のセミナーにおける発表内容、プレゼンテーションスキルを考慮する。
その他	100	臨床実習前後のOSCEにて採点する。また、臨床実習の総括的評価ルーブリック、臨床実習支援システムの記録内容（出席状況、日誌、レポート、チェックリスト）、実習後のレポート・発表の内容を加味する。
(合計)	100	

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	症例提示①～② この授業で目的、目標、スケジュールなどを確認、理解する。 臨床実習で多く経験する症例を1～2例提示する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第2回	症例提示①～② この授業で目的、目標、スケジュールなどを確認、理解する。 臨床実習で多く経験する症例を1～2例提示する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第3回	実技指導① 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第4回	実技指導② 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。	森 学科教員		治療室 機能訓練室
第5回	臨床実習準備講座① 実習地の発表、オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。	望月 学科教員	実習の 手引き	203
第6回	臨床実習準備講座② 実習地の発表、オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。	望月 学科教員	実習の 手引き	203
第7回	実技指導③ 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。	望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第8回	実技指導④ 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。	赤岩 学科教員		治療室 機能訓練室
第9回	OSCE① 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第10回	OSCE② 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第11回	OSCE③ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第12回	OSCE④ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第13回	OSCE復習① 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第14回	OSCE復習② 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室

(R02-カリキュラム)

第15回 1日目	コースオリエンテーション、診療参加型実習 施設の規則、実習スケジュールなど	臨床実習 指導者		実習施設
第16回 2～14日目	診療参加型臨床実習 対象者へ検査・測定・動作介助の見学・体験。	臨床実習 指導者		実習施設
第29回 15日目	まとめ 15日間を到達度記録を用いて振り返りをし、今後の課題を明確にする。	臨床実習 指導者		実習施設
第30回	実技指導⑤ 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第31回	実習後セミナー① 実習の振り返りをする。ポートフォリオの整理を行う。 実習課題レポートの作成、発表、討論を行う。	望月 学科教員		203
第33回	実習後セミナー② 実習の振り返りをする。ポートフォリオの整理を行う。 実習課題レポートの作成、発表、討論を行う。	望月 学科教員		203
第34回	OSCE⑤ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第35回	OSCE⑥ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第36回	OSCE⑦ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第37回	OSCE⑧ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第38回	OSCE復習③ 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第38回	OSCE復習④ 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	臨床実習Ⅳ	9	405	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋、望月里子、森梢 白井英彬、赤岩龍士、長田美紀	専門分野の評価学、専門分野の理学療法学、専門分野の理学療法学実習など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
3年次 後期	この授業は、臨床の理学療法士および学校教員で担当します。医療施設での実務経験をもとに、患者への理学療法や業務について見学や体験を通して学びを深めます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる (理学療法の対象者との関係性構築) 2. 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動を取ることが出来る (チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割) 3. 理学療法の流れを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明することができる (理学療法プロセスの理解) 4. 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目 (水準 I) において、1) ~3) を実践することができる。 (対象者に対する理学療法実践) 					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. <ol style="list-style-type: none"> ①清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる。 ②共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築することができる。 ③周囲における自己の存在を意識した行動を行う事が出来る。 ④自らが置かれた立場で、必要とされている要件を認識し、他者や指導者の助言などに対して適切に応答することができる。 ⑤対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自信の感情を制御して接することができる。 ⑥対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りを心がけることができる。 2. <ol style="list-style-type: none"> ①医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる。 ②部門におけるルールを理解し、診療プロセス (処方の確認、計画書、効果判定、カルテの記録、算定手順など) を理解した言動を取ることができる。 ③臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる。 ④積極的に理学療法スタッフや多職種と関わり、良好な関係を構築することができる。 ⑤インシデント・アクシデントが生じた際には実習施設の手順に従って対応することができる。 ⑥守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる。 ⑦臨床実習施設における多職種連携の展開について見学することができる。 3. <ol style="list-style-type: none"> ①検査項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由について説明することができる。 ②検査結果の関連性について説明することができる。 ③指導者の助言のもと、対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明することができる。 ④指導者の助言のもと、対象者の治療目標を設定し、その設定根拠について説明することができる。 ⑤可能ならば、指導者の助言のもと、理学療法プログラムを選択や、その根拠について説明することができる。 ⑥可能ならば、指導者の助言のもと、理学療法の即時効果を確認し、その内容について説明することができる。 ⑦可能ならば、指導者の助言のもと、実施内容を診療記録に記載することができる。 ⑧可能ならば、指導者の助言のもと、カンファレンスでの症例提示内容について説明をすることができる。 					

(R02-カリキュラム)

行動目標 (SBO)	<p>4.</p> <p>1) リスク管理について</p> <p>①スタンダードプリコーション（標準予防策）が実施できる</p> <p>②バイタルサインの計測を実施できる</p> <p>③意識レベルの評価を見学し、可能ならば実施できる</p> <p>④各種モニターの使用が経験できる</p> <p>2) 理学療法評価について</p> <p>①情報収集（診療記録、画像所見、部門内、部門外を含む）を実施することができる</p> <p>②フィジカルアセスメント（問診、視診、聴診、触診）を実施することができる</p> <p>③基本的な検査測定を実施することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形態測計測・感覚検査・反射検査・筋緊張検査・関節可動域計測 ・筋力検査・運動耐用力 <p>④姿勢観察を実施することができる</p> <p>⑤動作観察を実施することができる</p> <p>⑥疼痛の評価を実施することができる</p> <p>⑦日常生活活動評価（手段的日常生活活動を含む）を実施することができる</p> <p>⑧運動器疾患に関する個別検査を実施することができる</p> <p>⑨中枢神経疾患に関する個別検査を実施することができる</p> <p>⑩内部障害に関する個別検査を実施することができる</p> <p>⑪各種発達評価を実施することができる</p> <p>3) 理学療法治療技術について</p> <p>①運動療法を実施することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関節可動域運動・筋力増強運動・バランス練習 ・基本動作練習（随意性の促進含む）・移動動作練習・日常生活活動練習 <p>②物理療法を経験することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・超音波療法・水治療法 ・光線療法・牽引療法 <p>③義肢装具療法などを経験することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長・短下肢装具の適合性の確認・長・短下肢装具の調整・福祉用具の選択 ・歩行補助具の使用方の説明
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など	
<p>臨床実習Ⅳ：360時間（8時間×40日）＋学内実習45時間 計405時間</p> <p>この授業は、学外の実習施設へ通い、臨床実習指導者の下で行われます。診療場面に参加し、様々な体験、見学を行います。実習は以下のような方法で行われます。</p> <p>（1）診療参加型臨床実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習生が臨床実習指導者の助手として、診療補助行為を行うことによって、臨床経験を積んでいく授業形態です。 ・臨床実習Ⅲの検査・測定、介助に、治療を加えた実習内容となります。指導者が担当している複数の対象者に対し、指導者の指示のもとで治療（関節可動域運動 等）を実施する経験を積みながら治療技術を習得していきます。 ・1人の対象者に対し、ある部分は自分で実施し、ある部分は指導者が実施するのを見学する形になります。この過程で当該対象者の障害像を把握し、ゴール・プログラム立案を指導者の指導を受けながら行います。この過程で、指導者の考える障害像や統合と解釈、ゴール・プログラム立案プロセスの説明を受けながら理解を深めます。 <p>（2）実習日誌</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>行動記録、実習記録（体験数）、1日の振りかえりなどを記載します。 <input type="checkbox"/>毎日記載して、臨床実習指導者へ提出します（学校指定の書式使用）。 <input type="checkbox"/>指導者は確認してサインをします。 <p>（3）ポートフォリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>診療参加型実習中に体験した検査測定や介助の記録や、指導者から指示のあった自宅学習の内容、自己研鑽でまとめた資料等をファイリングします。テーマに沿って資料を整理することで、理学療法の全体像や流れを把握します。 ・また、毎日、指導者と共に確認し記載するチェックリストも挟み込んでいきます。 ・記入の際は個人情報の流出に留意し、臨床実習指導者から適切な情報の取り扱いを学びます。 	
教科書・参考書	

(R02-カリキュラム)

<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習教育の手引き（日本理学療法士協会 編集・発行） ・臨床実習ガイド（本校編集授業資料） ・臨床実習記録（本校編集授業資料） ・その他、学内授業で活用した教科書 ・臨床実習指導者が用意した学修教材 					
受講時留意点、その他					
<p>□服装は、学校指定のユニフォームとします。ただし、実習施設で指定がある場合それにしたがって下さい。</p> <p>□実習施設の規則を守り、理学療法学生として適切な行動を心がけて下さい。</p> <p>□原則的に、土日の開講はありません。ただし、実習施設や実習指導者の勤務の関係で変更となる場合があります。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験		なし			
小テスト					
レポート	*	テーマ「臨床実習施設での多職種連携の展開について」 「臨床実習施設での検査測定からアセスメントの流れ」			
実技試験	*	実習前後のOSCEにて採点する。			
プレゼンテーション	*	実習後のセミナーにおける発表内容、プレゼンテーションスキルを考慮する。			
その他	100	臨床実習前後のOSCEにて採点する。また、臨床実習の総括的評価ルーブリック、臨床実習支援システムの記録内容（出席状況、日誌、レポート、チェックリスト）、実習後のレポート・発表の内容を加味する。			
(合計)	100				
回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等		教員	教科書	教材 教室
第1回	実技指導① 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。		大沼 学科教員	実習の 手引き	治療室 機能訓練室
第2回	実技指導② 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。		白井 学科教員	実習の 手引き	治療室 機能訓練室
第3回	実技指導③ 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。		森 学科教員		治療室 機能訓練室
第4回	実技指導④ 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。		望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第5回	実技指導⑤ 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。		望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第6回	OSCE① 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第7回	OSCE② 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第8回	OSCE③ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第9回	OSCE④ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室

(R02-カリキュラム)

第10回	OSCE復習① 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第11回	OSCE復習② 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第12回	臨床実習準備講座① オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。		望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第13回	臨床実習準備講座① オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。		望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第14回 1日目	コースオリエンテーション、診療参加型実習 施設の規則、実習スケジュールなど		臨床実習 指導者		実習施設
第16～53回 2～39日目	診療参加型臨床実習 対象者へ検査・測定・動作介助・治療の見学・体験。専任教員の実習地訪問（1日のみ）で臨床実習指導者・学生との面談と実習場面の見学。		臨床実習 指導者		実習施設
第54回 40日目	まとめ 40日間を到達度記録を用いて振り返りをし、今後の課題を明確にする。		臨床実習 指導者		実習施設
第54回	実習後セミナー① 実習の振り返りをする。ポートフォリオの整理を行う。 実習課題レポートの作成、発表、討論を行う。		望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第55回	実習後セミナー② 実習の振り返りをする。ポートフォリオの整理を行う。 実習課題レポートの作成、発表、討論を行う。		望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第56回	実技指導⑥ 示した症例問題に対し評価・治療を進める。	提	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第57回	実技指導⑦ 示した症例問題に対し評価・治療を進める。	提	望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第58回	OSCE⑤ 示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	提	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第59回	OSCE⑥ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第60回	OSCE⑦ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第61回	OSCE⑧ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第62回	OSCE復習① 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第63回	OSCE復習② 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。		大沼 学科教員		治療室 機能訓練室

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	臨床運動学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	市村真樹	運動学Ⅰ・運動学Ⅱ・基礎PT学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 後期	この科目は理学療法士が担当します。身体の運動機能を生体力学を中心に動作分析を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	力学的に物事を考え、臨床意思決定の助力にすることができる。					
行動目標 (SBO)	1) 身体の運動機能の演習ができる。 2) 力の合成と分解の演習ができる。 3) 生体におけるテコの演習ができる。 4) 重心を求めることができる。 5) 運動のバイオメカニクスの演習ができる 6) 運動学習の演習ができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
臨床運動学は、運動学Ⅰ、Ⅱの復習と生体力学的思考をプラスして教授します。これは、理学療法や作業療法の治療理論の重要な基礎となります。実際の臨床現場への知識技術の導入例や国家試験問題を例に説明します。						
教科書・参考書						
教科書：国試の達人PT・OTシリーズ2026年 運動解剖生理編 第31版 (アイベック) 参考書：①PT・OTのための運動学テキスト第1版補訂版 ②中村隆一・他：基礎運動学 (第6版・補訂) 医歯薬出版, 2012. <その他の参考図書・文献は随時講義中に紹介する>						
受講時留意点、その他						
学習進度により授業の内容・時間割等を変更する場合には、掲示板、デスクネットなどでお知らせします。配布資料はテキストは配布します。追加資料や動画資料は希望者のみに配布します。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	期末試験を行う。60%以上を合格の目安とし、至らない場合、再試験を行う。				
小テスト		オンラインで6回実施する。記述小テストを2回実施する。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	運動機能：骨・関節・筋 骨・関節・筋の基本構造、機能を学ぶ 【KW】骨の構造、関節の構造、収縮メカニズム 他	市村真樹	国達1・2・3・4章	
第2回	運動機能：上肢（肩甲骨・肩関節） 肩甲骨と肩関節の構造と運動を学ぶ【KW】肩甲上腕関節、肩甲骨の運動 他	市村真樹	国達5章 運動学テキスト tp113～	
第3回	運動機能：上肢（肘・手・手指） 肘、前腕、手、手指の構造と運動を学ぶ【KW】肘関節、肘角、手関節、手指の運動	市村真樹	国達5章 運動学テキスト tp138～	
第4回	運動機能：下肢（骨盤・股関節） 股関節の構造と運動を学ぶ 【KW】股関節の関節、靭帯・骨盤に付着する筋 他	市村真樹	国達6章 運動学テキスト tp203～	
第5回	運動機能：下肢（膝関節・足関節） 膝・足の構造と運動を学ぶ【KW】膝関節、膝半月、膝靭帯、足関節 他	市村真樹	国達6章 運動学テキスト tp236～	
第6回	運動機能：顔面と体幹 顔面・体幹の運動を学ぶ 【KW】咀嚼筋、表情筋、脊柱の関節、脊柱の靭帯 他	市村真樹	国達7章 運動学テキスト tp281～	
第7回	力の合成と分解 【KW】力の合成、力の分解、ベクトル	市村真樹	国達10章 運動学テキスト tp16～	
第8回	生体におけるテコと重心の求め方 【KW】テコ、重心、加速度	市村真樹	国達10章 運動学テキスト tp16～	
第9回	床反力と関節モーメント 【KW】床反力、重心加速度、関節モーメント、筋活動	市村真樹	国達10章 運動学テキスト tp16～	
第10回	運動機能：姿勢 立位姿勢と座位の基本動作を学ぶ 【KW】重心、主要姿勢筋、重心移動、筋活動 他	市村真樹	国達8章 運動学テキスト tp494～	
第11回	立位と立ち上がりのバイオメカニクス 【KW】重心、支持基底、運動・位置エネルギー	市村真樹	国達8章 運動学テキスト tp494～	
第12回	歩行の運動学 【KW】歩行周期	市村真樹	国達9・10章 運動学テキスト tp386～	
第13回	歩行のバイオメカニクス1： 心と床反力作用点 【KW】歩行中の重心、COP	市村真樹	国達9・10章 運動学テキスト tp386～	
第14回	歩行のバイオメカニクス2： 重心の動きを滑らかにする機能 【KW】衝撃吸収、ロッカーファンクション	市村真樹	国達9・10章 運動学テキスト tp386～	
第15回	歩行のバイオメカニクス3： 異常歩行 【KW】代償運動、逸脱運動	市村真樹	国達9・10章 運動学テキスト tp386～	
第16回	上肢の運動のバイオメカニクス 【KW】モーメント、トルク、重心、てこ	市村真樹		
第17回	下肢の運動のバイオメカニクス 【KW】モーメント、トルク、重心、てこ	市村真樹		
第18回	運動学習1： 臨床と運動学習の関係 【KW】学習、フィードバック、KR	市村真樹	国達11章 運動学テキスト tp63～87	
第19回	運動学習2： 運動技能と学習曲線 【KW】技能、パフォーマンス	市村真樹	国達11章 運動学テキスト tp63～87	
第20回	まとめと演習問題	市村真樹		
定期試験	筆記試験（5択、記述、記号選択、その他）			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	人体構造学	1	30	講義	必修	可
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科 作業療法学科	植田英則 ・市村紋子・宮下正好	解剖学Ⅰ・生理学Ⅰ・生理学Ⅱ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 後期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法・作業療法を行う上で必要な基礎医学の知識を習得する。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経・感覚：中枢神経、末梢神経、体性感覚、特殊感覚を学ぶ。 2. 植物機能：循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、代謝、内分泌を学ぶ。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<ul style="list-style-type: none"> ・ この授業は、解剖学・生理学の総復習を行う。 ・ 授業内では、最重要事項を抜粋して説明する。授業で扱う内容は確実に覚えること。 ・ 教科書,参考書を活用し、より深い知識の習得に努めること。 						
教科書・参考書						
<p>【教科書】 国試の達人 PT・OTシリーズ2026年 運動解剖生理学編 第31版 (アイベック)</p> <p>【参考書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)</p>						
受講時留意点、その他						
この授業の後期末試験は、 卒業試験 となる。進度に応じて内容を変更することがある。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験100%で成績評価を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他		正当でない理由での欠席・遅刻などは減点の対象とする。 無礼な行為、迷惑行為、授業中の飲食・スマートフォンの使用、授業についてのSNS等への投稿等は減点の対象とする。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	〔植物機能1〕循環系①心臓の構造と機能 心臓の基本構造と拍出機能を学ぶ。【KW】心臓の構造・刺激伝導系・冠状動脈・減圧反射	宮下	14章	
第2回	〔神経・感覚1〕神経の基礎 ニューロンの構造と伝導・伝達・反射を学ぶ。【KW】神経細胞・神経膠細胞・伝導・伝達・反射	市村紋	12章	
第3回	〔植物機能2〕循環系②末梢循環の構造 血管、リンパの構造を学ぶ。【KW】血管の構造・動脈の分岐・静脈の合流・リンパ系・循環反応	宮下	14章	
第4回	〔神経・感覚2〕中枢神経1 大脳 大脳の構造と機能を学ぶ。【KW】大脳半球・大脳皮質・大脳基底核・錐体路と錐体外路 ほか	市村紋	12章	
第5回	〔植物機能3〕呼吸系 呼吸器の構造と機能を学ぶ。【KW】気管・気管支・肺・呼吸運動・ガスの移動と運搬・酸塩基平衡 ほか	宮下	15章	
第6回	〔神経・感覚3〕中枢神経2 間脳～脊髄 間脳等の構造、機能を学ぶ。【KW】視床と視床下部・脳幹・小脳・脊髄・脳循環(ウィリス動脈輪)	市村紋	12章	
第7回	〔植物機能4〕消化と吸収①消化器の構造 腹部消化管の構造を学ぶ。【KW】口腔～咽頭・胃の構造・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓	市村紋	16章	
第8回	〔神経・感覚4〕末梢神経1 脳神経 脳神経の位置、機能を学ぶ。【KW】脳神経の起始,種類・顔面の運動・顔面の感覚・視覚の経路 ほか	植田	12章	
第9回	〔植物機能5〕消化と吸収②消化器の機能 消化・吸収と排便を学ぶ。【KW】嚥下・糖質,脂質,タンパク質の消化と吸収・門脈	市村紋	16章	
第10回	〔植物機能6〕泌尿器 腎臓・膀胱の構造と尿の生成・排尿を学ぶ。【KW】腎臓の構造・尿の生成・尿量の調節・膀胱の構造・畜尿と排尿	宮下	17章	
第11回	〔神経・感覚5〕末梢神経2 脊髄神経・自律神経 筋の支配神経と自律神経を学ぶ。【KW】筋の支配神経・腕神経叢・交感神経・副交感神経 ほか	植田	12章	
第12回	〔植物機能7〕：代謝 代謝の基礎事項と栄養を学ぶ。【KW】基礎代謝量・栄養素・エネルギー代謝・体温	植田	18章	
第13回	〔神経・感覚6〕体性感覚 体性感覚の受容器と伝導路を学ぶ。【KW】感覚の基礎事項・皮膚・体性感覚の受容器・神経線維の分類 ほか	植田	13章	
第14回	〔植物機能8〕ホルモン ホルモンの種類、名称、産生部位、作用を学ぶ。【KW】ホルモンの基礎事項・下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン ほか	植田	19章	
第15回	〔神経・感覚7〕特殊感覚 視覚器、平衡聴覚器の構造と機能を学ぶ。【KW】眼球の構造・遠近調節・対光反射・明暗順応・聴覚・平衡覚	植田	13章	
定期試験	後期末試験(卒業試験)：第1回～第15回の範囲で行う			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	リハビリテーションと障害	1	30	講義	必修	可
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	内田成男/中村直人/ 野村めぐみ	臨床医学（病理学、脳神経外科学、神経内科学、内科学、精神医学、臨床心理学、整形外科学など）				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 後期	この授業は理学療法士・作業療法士・心理学専門家が担当します。臨床および教育における実務経験を踏まえ、リハビリテーション対象疾患の要点を整理し、疾患の理解を深めること					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法・作業療法の実施に必要な臨床医学等の知識を再確認し、臨床実践に活用					
行動目標 (SBO)	以下の疾患等について、理学・作業療法を実施する上で重要事項を整理し理解する。 1. 病理学 2. 内科学（内部障害） 3. 骨関節障害（整形外科疾患） 4. 臨床神経学 5. 精神医学（精神障害） 6. 臨床心理学の基礎と精神科疾患 7. 小児及び老年期の障害 8. リハビリテーション概論。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この科目は病理学・臨床医学・臨床心理学・リハビリテーション医学等の知識を整理し、理学療法・作業療法を実施する上で病的状態と障害について重要な事項を復習していく専門基礎科目です。広範な知識の確認が必要となるため、日々の積み重ねによる粘り強い学習が求められます。重要なポイントを短絡的に覚えるだけではなく、練習問題を解きながら、その背景や関連事項も理解していきましょう。						
教科書・参考書						
教科書：理学療法士・作業療法士 国家試験 必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学2025：医歯薬 ※病理学、内科学、臨床心理学、神経内科学、整形外科学など関連する臨床医学の指定教科書 参考書：必要に応じ、適宜紹介する。						
受講時留意点、その他						
この科目の後期末定期試験は、最終学年修了の定期試験となります。 自己の臨床経験も踏まえ、臨床医学の知識を着実に理解することが重要となる。 必要に応じて、補習授業を実施する場合がある。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末定期試験				
小テスト		実施する場合がある。				
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション		提出課題の発表を予定している。				
その他		授業に対する迷惑行為、正当な理由のない遅刻・欠席、不適切な受講態度は、成績評価の減点ポイントとします。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	コースオリエンテーション・病理学①用語、創傷治癒、炎症、感染、腫瘍 【KW】炎症症状、感染、悪性腫瘍、変性、萎縮、壊死、肥大	内 田	p2~68	配布資料等 202
第2回	病理学② 病理所見、病因論（循環障害・アレルギー・遺伝性疾患・他） 【KW】痙縮、ショック、浮腫、I型・II型アレルギー、変性、脱髄、他	内 田	p2~68	配布資料等 202
第3回	精神障害と臨床医学① 統合失調症、気分障害、認知症 【KW】思考障害、統合失調症の分類・症状、うつ病と躁病、双極性障害、認知症の原因疾患、分類	野村	p316~394	配布資料等 202
第4回	精神障害と臨床医学② 依存症、薬物療法、てんかん、その他 【KW】アルコール依存、向精神薬、てんかんの分類、	野村	p316~394	配布資料等 201
第5回	骨関節障害と臨床医学① 骨折、関節リウマチ、変形性関節症、その他 【KW】骨折治癒過程、RAの診断基準・Stage	内 田	p69~108	配布資料等 203
第6回	骨関節障害と臨床医学② 小児整形外科、切断、骨粗鬆症、その他 【KW】骨端症、Frankel分類、ASIA、骨壊死、CRPS	内 田	p69~108	配布資料等 203
第7回	中枢神経障害と臨床医学① 脳血管障害、高次脳機能障害、その他 【KW】神経症候、局所症状、画像所見、ゲルストマン症候群、PD	内 田	p109~170	配布資料等 203
第8回	中枢神経障害と臨床医学② 運動N疾患、脱髄疾患、脊髄損傷、他 【KW】ALS、MS、脊髄損傷、ASIA、その他	内 田	p109~170	配布資料等 203
第9回	末梢神経・筋障害と臨床医学およびリハビリテーション医学 【KW】GBS、絞扼性神経障害、PMD、ICF、障害受容、介護保険、他	内 田	p171~192	配布資料等 203
第10回	臨床心理学② 心理検査と学習、心理発達 【KW】投影法、知能検査、記憶、発達課題など	中村直	p269~314	配布資料等 203
第11回	臨床心理学① 防衛機制と心理療法 【KW】防衛機制（投影・反動形成・同一化・他）、心理療法、その他	中村直	p269~315	配布資料等 203
第12回	内科学① 循環器疾患・呼吸器疾患 【KW】虚血性心疾患、心不全、不整脈、COPD、スパイログラム、他	内 田	p395~412	配布資料等 203
第13回	内科学② 代謝疾患、消化器疾患、内分泌疾患、膠原病、その他 【KW】糖尿病、イレウス、肝炎・肝硬変、自己免疫、アシドーシス、他	内 田	p395~412	配布資料等 202
第14回	小児・老年期の障害 廃用症候群、高齢者、小児の障害、予防医学 【KW】高齢者、安静臥床、サルコペニア、フレイル、二分脊椎、他	内 田	p395~447	配布資料等 203
第15回	臨床医学とリハビリテーション まとめ	内 田	教科書 全体	配布資料等 203
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	関連法規	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	植田英則・渡邊勉・生田純一(OT)	リハビリテーション概論、社会福祉概論				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 後期	この授業は理学療法士および作業療法士（臨床講師）が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、臨床に生かす環境設定の方法を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	臨床に関連する制度や法律について理解する。					
行動目標 (SBO)	①理学療法士及び作業療法士法が理解できる ②医療保険制度の仕組みと、診療報酬について説明できる ③障害者総合支援法について説明できる ④理学療法の職域とそれに関連した法律を学ぶ					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
リハビリテーションの根拠となる法令の概要、人々の健康を守る施策の学習を通し、理学療法士の責任と判断根拠について学習します。 理学療法士が働く現場は多岐にわたるが、医療保険や介護保険などの社会保障制度に関連した施設で業務にあたります。卒業後に求められる内容であるため、積極的に学習してください。						
教科書・参考書						
特になし						
受講時留意点、その他						
理学療法士になるという自覚をもって授業に出席してください。 第2～5回は外部講師で、OT学科と合同になります。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	各回課題レポートを提示します。期限が過ぎた課題は採点対象外となります。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	授業への積極参加（挙手による質問や教員の問いかけに対する返答、自己学習に関する報告や相談、等）は最終的な成績判定でプラスに考慮します。 校則を遵守し、実習地へ赴く際の服装の範囲内で授業参加してください。 授業中、他の学生への悪影響（騒音、居眠りや授業態度などによる過度な注意、等）を教員が判断した場合、退出させ欠席とみなし成績にも反映させます。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	<u>コースオリエンテーション</u> <u>医師法・保健師助産師看護師法</u>	植田	配布資料	
第2回	<u>医療保険とリハビリテーション</u>	生田	配布資料	
第3回	<u>医療保険とリハビリテーション</u>	生田	配布資料	
第4回	<u>理学療法士の職域と関連法規</u>	渡邊	配布資料	
第5回	<u>理学療法士の職域と関連法規</u>	渡邊	配布資料	
第6回	<u>障害者総合支援法とリハビリテーション</u>	生田	配布資料	
第7回	<u>障害者総合支援法とリハビリテーション</u>	三田	配布資料	
第8回	<u>まとめ</u>	植田	配布資料	

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法管理学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	植田英則	リハビリテーション概論、関連法規、理学療法教育学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 後期						
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法士としての技術力だけでなく、広義の「働き方」が注視され、個人のみならず組織としての管理が問われる時代になってきた。適切な理学療法サービスを効率よく安全に提供するための管理の視点を養う。					
行動目標 (SBO)	1.各法律・保険制度について理解する。 2.権利擁護と職業倫理について理解する。 3.利用現場に関わるリスクマネジメント、危機管理を理解する。 4.他の医療職の専門性を理解し、チーム医療を学ぶ。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
ここでは理学療法士としての知識・技術の向上だけでなく、実施するにあたってのリスクについて学んでほしい。また、社会に出るにあたり、必要な関係法規、職業倫理やモラルの理解、多職種理解を深め、理学療法士として相応しい品位を授業を通して身につけてほしい。						
教科書・参考書						
教科書 : 石川朗 : 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学, 中山書店, 2020						
受講時留意点、その他						
グループワークでは積極的な参加を望む。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	0%					
小テスト	0%					
レポート	0%					
実技試験	0%					
プレゼンテーション	50%	各項目での発表内容で評価する				
その他	50%	授業の参加状況				
(合計)	100%					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教材 教室
第1回	専門職とチームケア 1 【KW】専門職、養成課程、業務 各専門職について調べ、理解を深める。	植田	第3章	
第2回	専門職とチームケア 2 【KW】専門職、養成課程、業務 各専門職について調べた内容を発表する。	植田	第3章	
第3回	保険・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント 1 【KW】社会保険・医療保険・介護保険 理学療法士が関わる保険制度について調べてグループでまとめる。	植田	第4～6章	
第4回	保険・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント 2 【KW】社会保険・医療保険・介護保険 理学療法士が関わる保険制度について調べてグループでまとめる。	植田	第4～6章	
第5回	診療・介護報酬と収益構造 1 【KW】診療報酬・介護報酬 医療・介護の値段、診療報酬の支払の仕組みについて学ぶ。	植田	第7章	
第6回	診療・介護報酬と収益構造 2 【KW】労働契約法・労働基準法・給与 労働条件・給与の仕組みについて学ぶ。	植田	第7章	
第7回	リスク管理 1 【KW】コンプライアンス、インシデント、アクシデント 病院・施設でのリスクを学ぶ。	植田	第11, 12章	
第8回	リスク管理 2 事例を提示する。事象分析をグループで行う。	植田	第11, 12章	
第9回	リスク管理 3 事象分析した内容をグループごとに発表する。	植田	第11, 12章	
第10回	リスク管理 4 臨床に潜むリスクを列挙し、予防策を考える。	植田	第11, 12章	
第11回	多職種連携 1 事例を提示する。作業療法学生とリハビリの方針を立てる	植田	第8, 9章	
第12回	多職種連携 2 事例を提示する。作業療法学生とリハビリの方針を立てる	植田	第8, 9章	
第13回	多職種連携 3 仮想事例を用いて作業療法学生・看護学生とカンファレンス	植田	第8, 9章	
第14回	多職種連携 4 仮想事例を用いて看護学生とカンファレンス	植田	第8, 9章	
第15回	多職種連携 5 第13, 14回の内容を振り返る	植田	第8, 9章	
定期試験	実施しない			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法教育学	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	白井英彬	理学療法管理学、研究法 リハビリテーション概論、コミュニケーション論				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 後期	この授業は理学療法士が担当します。理学療法士になる前までの学習のみならず、臨床現場で勤務してからの生涯教育に渡る理学療法教育について学びます。理学療法士として成長する過程で、どのような教育環境があるのか、関心を持っていただけるよう授業を展開していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	臨床実習から国家試験、生涯学習に至る教育体制について理解する。					
行動目標 (SBO)	1, 卒前卒後教育、について理解する 2, 診療参加型実習、臨床実習の評価について学ぶ 3, 臨床実習教育、生涯学習について他者と意見交流ができる 4, 登録、専門、認定理学療法士について学ぶ					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業では、理学療法士になるまで、理学療法士になってから、の成長と教育の仕組みを学びます。 これまでに経験してきた臨床実習がどのような成長の場であったのか、どのように評価されるものなのか、を振り返り、今後自身が指導者の立場になった場合、後進の成長・教育にどのように関わるべきかを考え学んでいきましょう。						
教科書・参考書						
参考書 石川朗, 長野聖著 15レクチャーシリーズ 理学療法管理学 (中山書店)						
受講時留意点、その他						
自身が成長するプロセスだけでなく、他者への教育を考える授業です。 グループワークを都度設けますので、積極的かつ前向きな意見交換を心がけるとともに、 今一度、傾聴の姿勢や相手の良い点を見つけるなど、医療人としてのコミュニケーションを意識してみてください。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	各授業におけるレポート課題にて評価する				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	教育管理 理学療法士教育の変遷、教育体制の歴史 【KW】 卒前教育、卒後教育、新人研修プログラム	白井	配布資料	203
第2回	生涯学習 理学療法士として臨床現場に出てから学ぶこと 【KW】 新人PTに対する教育、フォロー体制、登録・専門・認定理学療法士	白井	配布資料	203
第3回	OSCEについて OSCEの意義、他学校のOSCEなどについて OSCEを卒前教育から卒後教育に繋げるために有効な工夫を考える	白井	配布資料	203
第4回	臨床実習について 臨床実習の在り方について知る。指導者が意識するべき事項を学ぶ 実習指導者やスタッフとして、実習生と接する際の姿勢・態度を考える	白井	配布資料	203
第5回	診療参加型実習を考える【グループワーク課題作成】 自身が指導者、理学療法士の先輩になった時の教育への関わりを考える 実習指導者として、8週間のプログラムを考える 【KW】 カリキュラムオーバーロード	白井	配布資料	203
第6回	教育する側になって考える教授法・心構え 様々な例に対し、教育する側としてどう接するべきなのかを考える 【KW】 ティーチング、コーチング、ハラスメント	白井	配布資料	203
第7回	研究・学会参加 研究発表の意義、タイミングや機会、学会発表に向けて必要な準備などを学ぶ 実際の研究発表を聞く 【KW】 県学会、日本理学療法学会	白井	配布資料	203
第8回	目指す理学療法士像【個人課題作成】 自身が学びたい専門分野を1つ挙げ、該当する専門性を向上させるために どのような病院選択、就職活動、自己研鑽・研究活動をしていくかを考える	白井	配布資料	203
第9回				
第10回				
第11回				
第12回				
第13回				
第14回				
第15回				
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法研究	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋	情報統計科学、理学療法研究				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 前期	この授業は、臨床の理学療法士および学校教員で担当します。医療施設、大学院での経験をもとに、学術活動（研究法）を通して、将来、患者や理学療法へ貢献できるように学びを深めます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法を実践する際に生じる疑問や問題の解決手段として研究方法論を理解する					
行動目標 (SBO)	①研究の流れが言える ②信頼性と妥当性が説明できる ③研究倫理について説明できる ④データ尺度を説明できる ⑤統計手法について説明できる ⑥研究計画を立てることができる ⑦研究計画書を作成することができる					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
理学療法を行う上で、研究的視点があると解決しやすいことがあります。そのため研究に必要な基礎知識を学びます。その後実際に研究計画を立てるなど研究の流れを一部体験します。困ったことがあれば、その都度担当教員に相談や報告を行うようにして、課題の提出忘れがないように気をつけてください。						
教科書・参考書						
<教科書>内山靖,島田裕之 編：標準理学療法学 理学療法研究法, 株式会社 医学書院						
受講時留意点、その他						
提出期限は授業中にお伝えします。時間厳守で提出してください。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	100	課題で評価します。第1回10%、第3回10%、第7回10%、第8～9回10%、第10～12回30%、第13～15回30%の割合で評価します。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	研究法総論 研究する基本姿勢と研究の流れについて学ぶ 【キーワード】研究とは、PICO、FINER * 提出課題	大沼	2~14	201
第2回	研究デザイン 研究のデザインについて学ぶ 【キーワード】記述的研究、分析的研究、横断研究、縦断研究、RCT	大沼	16~42	201
第3回	研究論文の構成 文献を読んで、先行研究の内容を吟味する 【キーワード】PECO、文献検索、バイアス * 提出課題	大沼	44~58	203
第4回	研究倫理 研究を行う上で厳守すべき倫理について学ぶ 【キーワード】ヘルシンキ宣言、倫理申請	大沼	36~42	203
第5回	データのみかた(1) 量的データで使われる用語について学ぶ 【キーワード】尺度、過誤、感度、特異度	大沼	106~157	203
第6回	データのみかた(2) 主に統計について学ぶ 【キーワード】図の特徴、記述統計、差の検定、関連性の検定	大沼	106~157	203
第7回	研究テーマ選定 研究テーマを決める 【キーワード】研究意義、研究背景 * 提出課題	大沼	16~25	203
第8回	先行研究調査(1) 先行研究について調べる 【キーワード】研究計画 * 提出課題	大沼	16~25	203
第9回	先行研究調査(2) 先行研究についてまとめる 【キーワード】研究計画 * 第8回の続き	大沼	16~25	203
第10回	研究計画演習(1) 研究計画について考える 【キーワード】研究計画 * 提出課題	大沼	16~25	203
第11回	研究計画演習(2) 研究計画について考える 【キーワード】研究計画 * 第10回の続き	大沼	16~25	203
第12回	研究計画演習(3) 研究計画について考える 【キーワード】研究計画 * 第11回の続き	大沼	16~25	203
第13回	予備実験演習(1) 研究計画に基づき、予備実験を実施する 【キーワード】研究計画書、予備実験 * 提出課題	大沼	配布資料	203
第14回	予備実験演習(2) 予備実験の結果から、研究計画書を作成する 【キーワード】研究計画書、予備実験 * 第13回の続き	大沼	配布資料	203
第15回	予備実験演習(3) 予備実験の結果から、研究計画書を作成する 【キーワード】研究計画書、予備実験 * 第14回の続き	大沼	配布資料	203
定期試験	なし			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法研究演習	1	45	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋	情報統計科学、理学療法研究				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 後期	この授業は、臨床の理学療法士および学校教員で担当します。医療施設での実務経験をもとに、患者への理学療法や業務について見学や体験を通して学びを深めます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法に関するリサーチクエスチョンを解決する方法が理解でき、実施することができる					
行動目標 (SBO)	①研究計画に則り、研究を実施することができる。 ②研究結果を分析することができる。③研究結果を考察することができる。 ④研究内容をまとめることができる。⑤研究内容を発表することができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
前期科目である理学療法研究で計画したものを基に、実際に研究を行っていきます。基本的に授業内で実施できるように配慮しますが、それでも授業外での演習や活動が必要な場合があります。その都度担当教員に相談、報告を行うようにし、円滑に研究を進めて下さい。						
教科書・参考書						
<教科書>内山靖,島田裕之 編：標準理学療法学 理学療法研究法, 株式会社 医学書院						
受講時留意点、その他						
個人情報の扱いに十分注意してください。またデータは個人で持たず、指定のファイル (USBおよび紙ファイル) で保管してください。教員からのアドバイスは、グループごとで異なりますので、積極的に質問をしに来てください。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	100	抄録およびパワーポイントで作成した発表用スライド、発表時の内容で評価します。				
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	プレテスト 研究計画に則りグループでプレテストを行う 【キーワード】 プレテスト、再計画、同意書の作成	大沼	-	202
第2回	研究計画見直し プレテストを基に研究計画を立て直す 【キーワード】 プレテスト、再計画、同意書の作成	大沼	-	202
第3回	調査準備 実際に研究するための準備を行う 【キーワード】 再計画、研究準備	大沼	19-23	202
第4回	調査(1) 計画の手順に従って、データ収集を行う 【キーワード】 実験、調査	大沼	-	治療室/機能訓練室
第5回	調査(2) 計画の手順に従って、データ収集を行う 【キーワード】 実験、調査	大沼	-	治療室/機能訓練室
第6回	調査(3) 計画の手順に従って、データ収集を行う 【キーワード】 実験、調査	大沼	-	治療室/機能訓練室
第7回	調査(4) 計画の手順に従って、データ収集を行う 【キーワード】 実験、調査	大沼	-	治療室/機能訓練室
第8回	調査(5) 計画の手順に従って、データ収集を行う 【キーワード】 実験、調査	大沼	-	治療室/機能訓練室
第9回	調査(6) 計画の手順に従って、データ収集を行う 【キーワード】 実験、調査	大沼	-	治療室/機能訓練室
第10回	調査(7) 計画の手順に従って、データ収集を行う 【キーワード】 実験、調査	大沼	-	治療室/機能訓練室
第11回	調査(8) 計画の手順に従って、データ収集を行う 【キーワード】 実験、調査	大沼	-	治療室/機能訓練室
第12回	データ解析(1) 収集したデータを分析する 【キーワード】 グラフ、図、尺度、推定、検定	大沼	106-157	203
第13回	データ解析(2) 収集したデータを分析する 【キーワード】 グラフ、図、尺度、推定、検定	大沼	106-157	203
第14回	結果考察(1) データ分析した結果について考察する 【キーワード】 考察	大沼	-	203
第15回	結果考察(2) データ分析した結果について考察する 【キーワード】 考察	大沼	-	203
第16回	発表準備(1) 研究内容をパワーポイントでまとめ、抄録を作成する。	大沼	160-182	203
第17回	発表準備(2) 研究内容をパワーポイントでまとめ、抄録を作成する。	大沼	160-182	203
第18回	発表準備(3) 研究内容をパワーポイントでまとめ、抄録を作成する。	大沼	160-182	203
第19回	発表準備(4) 研究内容をパワーポイントでまとめ、抄録を作成する。	大沼	160-182	203
第20回	発表準備(5) パワーポイントと抄録を照らし合わせる。 【キーワード】 抄録、発表原稿	大沼	160-182	203
第21回	発表準備(6) 発表の準備を行う。 【キーワード】 抄録、予演、打ち合わせ	大沼	160-182	203
第22回	発表 研究内容を発表する 【キーワード】 研究発表	大沼	-	203
第23回	発表およびまとめ 発表の続きと研究の流れなど再度確認する 【キーワード】 尺度、研究デザイン、統計	大沼	-	203
定期試験	なし			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	画像評価学	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	森梢 、白井英彬、大沼賢洋	解剖学、生理学、運動学、整形外科学、神経内科学、運動器疾患PT学、中枢神経疾患PT学、内部疾患PT学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
4年次 後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、評価や治療を行う上で必要な画像の評価の仕方を身に付けることができるように授業をしていきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	代表的な疾患を通して、画像所見と理学療法を結びつけることができる。					
行動目標 (SBO)	1.画像の読影に必要な基礎的知識を述べることができる。 2.画像から所見を読み取ることができる。 3.読み取った画像所見から臨床所見を予測することができる。 4.国家試験の画像問題を解くことができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>本講義では、画像診断機器の基本原理と画像のみかたについて学びます。 レントゲン、MRI、CT、超音波画像診断装置などの機器の特徴や基本原理を学習しましょう。 また、理学療法介入、検査・測定計画を立てる際、画像所見より患者の病態を踏まえることができるように学習しましょう。 学習が十分に進まないようでしたら相談をしてください。個別の指導を実施します。</p>						
教科書・参考書						
教科書：PT/OT国家試験 必修ポイント2025 障害別PT治療学.医歯薬出版						
参考書：PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方 国試画像問題攻略 第3版.医歯薬出版						
受講時留意点、その他						
<p>解剖学、生理学、運動学をベースとして、学んでいきます。 適宜、基礎科目の復習をしながら、理解を進めていきましょう。 授業開始前までに、該当する教科書のページ(分野)は目を通しておきましょう。 中枢神経疾患、運動器疾患、内部疾患を中心に勉強していきましょう。 1回ごとに復習を行い、画像に関する知識を習得するように取り組んでください。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	1コマごとに授業の予習・復習をまとめたものを提出する。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					
回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等			教員	教科書	教室 教材

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	総合理学療法評価学	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子、植田英則、赤岩龍士、大沼賢洋、森梢、白井英彬、長田美紀	解剖学、生理学、運動学、整形外科学、神経内科学、運動機能評価学、神経機能評価学、日常生活活動学、運動器疾患PT学、中枢神経疾患PT学、内部疾患PT学				
開講時期	実務家教員による科目の概要	*実務家教員による科目の場合に記載しています				
4年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法の評価や治療の仕方を身に付けることができるように授業をしていきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法評価に必要な基礎的知識を高める。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法に関連の深い基礎医学分野の知識を修得する。 2. 対象にあわせて必要な評価を理解することができる。 3. 基本的な検査・測定 of 知識を再確認する。 4. 運動器系・神経系・内部疾患系の基本的な検査方法を理解することができる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>この授業は現場で活かせる知識を身につける授業です。</p> <p>特に関連の深い、運動器系、神経系、内部疾患系の内容を中心に学んでいきます。</p> <p>また、理学療法評価の基礎となる検査・測定の部分においても復習していきます。</p> <p>臨床実習で習得してきた技術・知識を確かなものとするため、身体を動かすことも交えながら学習していきます。</p> <p>学習が十分に進まないようでしたら相談をしてください。個別の指導を実施します。</p>						
教科書・参考書						
教科書：PT/OT国家試験 必修ポイント2026 基礎PT学.医歯薬出版						
受講時留意点、その他						
<p>解剖学、生理学、運動学をベースとして、学んでいきます。</p> <p>適宜、基礎科目の復習をしながら、理解を進めていきましょう。</p> <p>授業開始前までに、該当する教科書のページ（分野）は目を通しておきましょう。</p> <p>運動器系、神経系、内部疾患系を中心に勉強していきましょう。</p> <p>1回ごとに復習を行い、画像に関する知識を習得するように取り組んでください。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	定期試験を実施する。60点以上を合格の目安とする。 第1回～第11回全ての内容から出題する。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					
回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等			教員	教科書	教室 教材

(R02-カリキュラム)

第1回	オリエンテーション・検査測定① 徒手筋力検査(MMT)について学ぶ。 【キーワード】顔面筋のMMT・段階付け	望月里子	配布資料	
第2回	検査測定② 徒手筋力検査(MMT)について学ぶ。 【キーワード】主内在筋・足趾のMMT	望月里子	配布資料	
第3回	検査測定③ 徒手筋力検査(MMT)について学ぶ。 【キーワード】MMT・段階1～5・筋力・代償動作	望月里子	配布資料	
第4回	検査測定④ 関節可動域測定(ROM)について学ぶ。 【キーワード】手指・足趾のROM、参考可動域、代償動作	望月里子	配布資料	
第5回	検査測定⑤ 情報収集、全身状態の評価について学ぶ。 【キーワード】意識、呼吸、循環	望月里子	配布資料	
第6回	検査測定⑥ 各種疾患、障害別評価(運動器)について学ぶ。 【キーワード】関節リウマチ・腱板断裂損傷・靭帯損傷・股関節疾患	大沼賢洋	配布資料	
第7回	検査測定⑦ 反射・脳神経・歩行・感覚・痛みについて学ぶ。 【キーワード】反射・Brunnstrom法・運動神経伝導検査	望月里子	配布資料	
第8回	検査測定⑧ 整形外科テストについて学ぶ。 【キーワード】整形外科テスト・注意事項・陽性の基準	大沼賢洋	配布資料	
第9回	検査測定⑨ 各種疾患、障害別評価(中枢神経障害)について学ぶ。 【キーワード】脳血管障害・パーキンソン病・脊髄小脳変性症	望月里子	配布資料	
第10回	検査測定⑩ 日常生活活動(ADL)について学ぶ。 【キーワード】FIM・BI・QOL	白井英彬	配布資料	
第11回	検査測定⑪ 心身機能(小児の発達)について学ぶ。 【キーワード】反応・正常発達・発達検査	赤岩龍士	配布資料	
定期試験				
第12回	検査測定⑫ 筋の触察・筋長検査法 【キーワード】触診、筋収縮様式	植田英則 望月里子	配布資料	
第13回	検査測定⑬ 筋の触察・筋長検査法 【キーワード】触診、筋収縮様式	植田英則 望月里子	配布資料	
第14回	検査測定⑭ 筋の触察・筋長検査法 【キーワード】触診、筋収縮様式	植田英則 望月里子	配布資料	
第15回	検査測定⑮ 筋の触察・筋長検査法 【キーワード】触診、筋収縮様式	植田英則 望月里子	配布資料	

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	予防理学療法学	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	赤岩龍士 、森 梢、 小松 亮（非常勤講師）	生理学、内部疾患PT学、薬理・健康と栄養				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
4年次後期	この授業は健康増進認定理学療法士および健康運動指導士、第1種衛生管理者資格を持つ理学療法士が担当します。健康増進分野で理学療法士がどのように活動を行うかを学びます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	予防理学療法と健康増進分野について知る。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1 予防理学療法で必要とされる知識、技術を知る。 2 行政における健康増進事業について知る。 3 各分野における予防理学療法について知る。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>予防理学療法は、国策でもある健康増進事業においても重要な位置づけと言えます。疫学や老年医学、フレイルやサルコペニア、各疾患の予防だけでなく、ウィメンズヘルスや産業保健に至るまで多岐にわたります。</p> <p>様々な領域で共通することを踏まえつつ、理学療法士がどのような役割で、求められる専門性は何かと考えながら学習を進めてください。</p>						
教科書・参考書						
【教科書】 予防理学療法学 (15レクチャーシリーズ理学療法テキスト) 中山書店						
受講時留意点、その他						
第7回 小松 亮 先生 (富士整形外科病院) による講義を予定しています。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	「予防理学療法において自分自身が取り組めること」形式指定のレポート				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での遅刻・欠席、不適切な行為をした場合、減点の対象とする。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修 等	教員	教科書	教室 教材
第1回	コースオリエンテーション 本講義の目的、予防理学療法の定義について理解する 【キーワード】予防理学療法・健康寿命・高齢者問題	赤岩	第1章 P1～P10	203
第2回	予防理学療法の施策 日本の予防医学や健康増進事業について理解する。 【キーワード】健康日本21・行政事業・健康増進事業のPT	赤岩	第1章 P1～P10	203
第3回	ヘルスプロモーション ヘルスプロモーションについて理解する。 【キーワード】ヘルスプロモーション・一次、二次、三次予防	赤岩	第2,3章 P11～P33	203
第4回	老年医学と予防理学療法 フレイルとサルコペニアについて理解する 【キーワード】フレイル、サルコペニア、予防方法	赤岩	第4章 P35～P44	203
第5回	ウイメンズヘルス・メンズヘルス：基礎知識 ウイメンズヘルス・メンズヘルスに関わる基礎知識を学ぶ 【キーワード】産前産後・骨盤底筋トレーニング・骨盤底機能障害	森	第1 4 章 P141～ P150	203
第6回	ウイメンズヘルス・メンズヘルス：産前・産後 産前・産後における理学療法について理解する 【キーワード】骨盤痛・腰背部痛・ADL指導・抱っこ紐	小松	第1 4 章 P141～ P150	203
第7回	ウイメンズヘルス・メンズヘルス：骨盤底機能障害 骨盤底機能障害に対する理学療法について理解する 【キーワード】骨盤内臓器脱・排尿障害・骨盤底筋トレーニング	森	第1 4 章 P141～ P150	203
第8回	産業理学療法とまとめ 産業理学療法について理解する 【キーワード】労働関連法規・産業保健・労働衛生	赤岩	第1章 P151～ P160	203
定期試験	実施しない			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	症例検討Ⅱ	1	30	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子 、長田美紀	PT評価学、臨床実習Ⅳ、症例検討Ⅰ、臨床実習Ⅴ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、症例検討の方法について教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	一連の理学療法思考を整理し、ディスカッションすることが出来る					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例検討のための情報を整理できる。 2. 検討内容について意見の根拠となる知識を教科書等から調べることが出来る。 3. 検討内容を参考に理学療法をアセスメントが出来る。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>症例検討とは、症例の理学療法訓練や経過などから、提供した理学療法と理学療法士の思考過程を検討することです。この授業では、症例検討に必要な知識とプレゼンテーションに必要な態度や話し方等を学びます。検討会では、話す態度や聴く態度も重要です。活発な検討会が出来るよう準備をしていきましょう。</p>						
教科書・参考書						
参考書	症例動画で分かる理学療法臨床推論 豊田輝 羊土社					
受講時留意点、その他						
<p>授業内でスマートフォンを使用することがありますので、充電等の準備をしてください。理論的、論理的なディスカッションが出来るよう心掛けましょう。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験		なし				
小テスト		なし				
レポート	50	授業での提出物が対象。(授業内で終わらない場合は宿題) 提示した書式に沿ってつくられているかで評価する。(字数など、詳細は授業内で説明) 未提出、提出期限遅れの場合は大幅な減点とする。				
実技試験						
プレゼンテーション	50	症例検討会の発表を学生同士で相互評価し反映させます。				
その他	*	課題やプレゼンテーションに関して事前の相談等も受け付けます。				
(合計)	100	合計が6割に満たない場合は追加の課題提出が必要となる場合があります。				

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	症例検討に向けた情報整理の仕方①	望月		
第2回	症例検討に向けた情報整理の仕方②	望月		
第3回	症例検討の準備①	望月		
第4回	症例検討の準備②	望月		
第5回	症例検討①	望月		
第6回	症例検討②	望月		
第7回	症例検討③	望月		
第8回	症例検討④ まとめ	望月		
第9回				
第10回				
第11回				
第12回				
第13回				
第14回				
第15回				
定期試験	なし			

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	臨床理学療法学	2	60	講義	必修	可
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	望月里子 、植田英則、赤岩龍士、大沼賢洋、森梢、白井英彬	運動学、運動機能評価学、神経機能評価学、整形外科学、中枢神経疾患理学療法学、神経筋疾患理学療法学				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
4年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法の専門分野における基礎学力が向上するように授業を展開していきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	理学療法専門分野における基礎学力を習得する。					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の基礎、概要を理解する。 2. 理学療法における職業倫理、関連法規について理解する。 3. 各障害別の基本的な理学療法評価、治療介入について理解する。 4. 地域における理学療法について理解する。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>この授業は、理学療法の専門知識を復習し、臨床現場で必要な知識の習得を目的とします。</p> <p>授業内では、重要事項を抜粋して説明します。授業で扱う内容は確実に覚えるようにしましょう。</p> <p>教科書,参考書を活用し、より深い知識の習得に努めてください。</p>						
教科書・参考書						
<p>【教科書】国試の達人 PT・OTシリーズ2026 理学療法編 第25版 .アイベック</p> <p>【参考書】PT/OT国家試験 必修ポイント2026 基礎PT学.医歯薬出版</p>						
受講時留意点、その他						
<p>この授業の後期末試験は、卒業試験となります。</p> <p>進行や習熟度に応じて内容を変更することがあります。</p> <p>分からないことは随時質問を受付ますので、そのままにならないようにしましょう。</p>						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	後期末試験100%で成績評価を行う。 360点満点中、6割以上で合格とする。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 目付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
第1回	学習方法の検討・イントロダクション、PT評価① 運動機能評価について学ぶ。 【キーワード】ROM、MMT	望月里子	配布資料	
第2回	理学療法評価法2 神経系の理学療法評価について学ぶ。 【キーワード】反射、BRS、SIAS	望月里子	配布資料	
第3回	ADL評価 ADL評価について学ぶ。 【キーワード】FIM、BI、QOL	白井英彬	配布資料	
第4回	運動療法 筋力強化やトレーニングの目的、方法、効果について学ぶ。 【キーワード】筋力増強、運動学習	植田英則	配布資料	
第5回	義肢学 義肢の種類、アライメントについて学ぶ。 【キーワード】義肢、義足アライメント	植田英則	配布資料	
第6回	補装具療法1 上下肢装具の種類や適応について学ぶ。 【キーワード】上肢装具、下肢装具	望月里子	配布資料	
第7回	補装具療法2 体幹・靴装具の種類や適応について学ぶ。 【キーワード】体幹、靴	望月里子	配布資料	
第8回	基礎理学療法、理学療法管理学、地域理学療法① 理学療法の基本、範囲について学ぶ。 【キーワード】関連法規、研究、地域包括ケアシステム	望月里子	配布資料	
第9回	基礎理学療法、理学療法管理学、地域理学療法② 理学療法の基本、範囲について学ぶ。 【キーワード】関連法規、研究、地域包括ケアシステム	望月里子	配布資料	
第10回	内部障害1(呼吸器①) 呼吸器障害の評価、理学療法を学ぶ。 【キーワード】COPD、体位排痰法、呼吸性アシドーシス	望月里子	配布資料	
第11回	内部障害2(循環器①) 循環器障害の評価(心電図)を中心に行う。 【キーワード】心電図、NYHA分類	望月里子	配布資料	
第12回	内部障害3(循環器②) 循環器障害の理学療法について学ぶ。 【キーワード】心不全、血圧、運動療法の効果	望月里子	配布資料	
第13回	内部障害4(代謝) 糖尿病や腎不全患者への運動処方や運動強度の設定について学ぶ。 【キーワード】糖尿病、腎不全、運動強度	赤岩龍士	配布資料	
第14回	整形外科1 リウマチや変形性関節症の評価、理学療法について学ぶ。 【キーワード】RA、変形性関節症	大沼賢洋	配布資料	
第15回	整形外科2 骨折や靭帯損傷の評価、理学療法について学ぶ。 【キーワード】骨折、靭帯損傷	大沼賢洋	配布資料	
第16回	整形外科3 脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアの評価、理学療法について学ぶ。 【キーワード】末梢神経、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア	大沼賢洋	配布資料	
第17回	整形外科4 スポーツ障害、熱傷の評価、理学療法について学ぶ。 【キーワード】側弯症、スポーツ障害、熱傷	大沼賢洋	配布資料	

(R02-カリキュラム)

第18回	中枢神経障害1 中枢神経疾患の病態や評価について学ぶ。 【キーワード】病態、画像、評価	望月里子	配布資料	
第19回	中枢神経障害2 中枢神経疾患の理学療法、リスク管理について学ぶ。 【キーワード】理学療法、リスク管理	望月里子	配布資料	
第20回	中枢神経障害3 中枢神経疾患患者への補装具療法について学ぶ。 【キーワード】AFO、継手	望月里子	配布資料	
第21回	中枢神経障害4 頭部外傷について学ぶ。 【キーワード】びまん性軸索損傷、意識障害、高次脳機能障害	望月里子	配布資料	
第22回	神経筋障害 神経・筋障害の疾患、評価、理学療法について学ぶ。 【キーワード】パーキンソン病、失調、ALS	白井英彬	配布資料	
第23回	脊髄損傷1 脊髄損傷の評価について学ぶ。 【キーワード】残存機能、Zancolli、ASIA	白井英彬	配布資料	
第24回	脊髄損傷2 脊髄損傷の理学療法について学ぶ。 【キーワード】Frenkel分類、獲得可能な動作	白井英彬	配布資料	
第25回	物理療法 物理療法の適応、目的や効果、禁忌について学ぶ。 【キーワード】温熱療法、寒冷療法、電気刺激	森梢	配布資料	
第26回	臨床運動学、歩行 姿勢や歩行について力学的視点で考える。 【キーワード】力学、歩行周期、アライメント	森梢	配布資料	
第27回	小児、発達 小児の発達段階、代表的な疾患、評価、理学療法について学ぶ。 【キーワード】発達、脳性麻痺、二分脊椎	赤岩龍士	配布資料	
第28回	高齢期障害、がん がんの緩和ケアや高齢期の理学療法について学ぶ。 【キーワード】フレイル、がん、加齢	望月里子	配布資料	
第29回	まとめ①	望月里子	配布資料	
第30回	まとめ②	望月里子	配布資料	
定期試験				講堂・レク リエーショ ン室

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法学技術論	1	30	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋、岡部敏幸、和泉謙二 相原忠洋、斎藤佳久、中嶋富美	理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ、運動機能評価学、神経機能評価学、骨関節疾患理学療法学、中枢神経理学療法学など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています					
4年次後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、理学療法の評価や治療の仕方を身に付けることができるように授業をしていきます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回の授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	臨床に対応した知識・技術を身につける。					
行動目標 (SBO)	1. 理学療法に必要な知識・技術を学ぶ。 2. 対象の状態、場所にあわせて評価・治療ができる。 3. 対象に合わせた、治療の考え方を理解することができる。 4. 対象に合わせた、治療を模倣することができる。 5. リスク管理ができる。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業は現場で活かせる知識・技術を身につける授業である。臨床で活躍されている理学療法士を講師として招き、展開していく。卒業し、臨床家として進む方向性を少しでも感じていただきたい。疑問を持った場合、積極的に発言することを求める。また、学習した内容はしっかりとメモを取り、反復練習をして習得するように努めてください。くれぐれも講師に失礼のないよう、取り組んでください。						
教科書・参考書						
特に指定しない						
受講時留意点、その他						
1. 実習開始前、必ず手洗いをする事。 2. Tシャツ、ハーフパンツ等動きやすい服装、靴下は白を着用し出席すること。 3. 服装、身だしなみは清潔感のあるものとする事。 4. 実習施設であると思えば緊張感を持つこと。 5. 被験者を本当の患者であるように対応すること。 6. 感染症対策として、手指消毒や換気を徹底すること。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	90	15回終了後レポートを作成し提出。レポートは提出期限を15回終了1週間後とする。文字数は1600字とする。採点は 1. 提出期限を守る。2. 様式を守る。3. 誤字脱字がない。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	10	行動観察：授業で指定されて服装ができる。指示に従い、取り組むことができる。以上を観察する。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教室 教材
----------	-------------------------------	----	-----	----------

(R02-カリキュラム)

第1回	PNF① 基本的概念、対象、手技を学ぶ。	齋藤佳久	配布資料	治療室 機能訓練室
第2回	PNF②	齋藤佳久	配布資料	治療室 機能訓練室
第3回	PNF③	齋藤佳久	配布資料	治療室 機能訓練室
第4回	PNF④	齋藤佳久	配布資料	治療室 機能訓練室
第5回	臨床動作分析①	和泉謙二	配布資料	203
第6回	臨床動作分析②	和泉謙二	配布資料	203
第7回	認知神経リハビリテーション①	中嶋富美	配布資料	治療室 機能訓練室
第8回	認知神経リハビリテーション②	中嶋富美	配布資料	治療室 機能訓練室
第9回	認知神経リハビリテーション③	中嶋富美	配布資料	治療室 機能訓練室
第10回	足底板① 足底板を実際に作成する。	岡部敏幸	配布資料	治療室 機能訓練室
第11回	足底板② 足底板を実際に作成する。	岡部敏幸	配布資料	治療室 機能訓練室
第12回	徒手医学① 脊柱の評価から関節・軟部組織mobilization技術を学ぶ。	相原忠洋	配布資料	治療室 機能訓練室
第13回	徒手医学②	相原忠洋	配布資料	治療室 機能訓練室
第14回	徒手医学③	相原忠洋	配布資料	治療室 機能訓練室
第15回	徒手医学④	相原忠洋	配布資料	治療室 機能訓練室

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法セミナー	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	森梢 、小林庸亮、河原一剛 川村浩二、鳥飼達也	臨床実習				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 後期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設や施設外での理学療法の実務経験を基に、社会における理学療法士の役割について教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	最近の理学療法について学び、今後の理学療法の実践に適応できるよう再考できる					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 最近の理学療法関連のトピックスについて説明できる。 自分の目指す理学療法士像を考えることができる。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
<p>理学療法関連の最近のトピックスについて学ぶ授業です。</p> <p>臨床現場だけでなく新たな場面で理学療法士がどのように活躍しているかを紹介します。</p> <p>理学療法における最近の知識を得るとともに、自分の将来像を考えるきっかけにしていきたいと思います。</p>						
教科書・参考書						
特に指定しない						
受講時留意点、その他						
レポートの作成方法は授業中にお伝えします。時間厳守で提出して下さい。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	第8回終了後レポートを作成し提出する。 レポートは提出期限は第8回終了1週間後とする。 採点項目：1. 提出期限 2. 様式 3. 誤字脱字 4. 意見を述べる				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	理学療法を治療として展開するための基礎知識（1） 【キーワード】 EBM、治療ガイドライン、動作分析	小林庸亮		
第2回	理学療法を治療として展開するための基礎知識（2） 【キーワード】 EBM、治療ガイドライン、動作分析	小林庸亮		
第3回	生きた証を残すため（1） 【キーワード】 がんリハビリテーション、環境、挑戦	河原一剛		
第4回	生きた証を残すため（2） 【キーワード】 がんリハビリテーション、環境、挑戦	河原一剛		
第5回	理学療法士の職域の展望（1） 【キーワード】 日本理学療法士協会、静岡県理学療法士会	川村浩二		
第6回	理学療法士の職域の展望（2） 【キーワード】 日本理学療法士協会、静岡県理学療法士会	川村浩二		
第7回	多方面で活躍するためには（1） 【キーワード】 出張講習会、パーソナル・グループトレーニング	鳥飼達也		
第8回	多方面で活躍するためには（2） 【キーワード】 出張講習会、パーソナル・グループトレーニング	鳥飼達也		
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	生活環境論Ⅱ	1	15	講義	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	<u>植田英則</u> 、 宮上純貴・松本信広 (外部講師)	生活環境論Ⅰ、臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 前期	この授業は理学療法士が担当します。医療施設での理学療法の実務経験を基に、臨床に生かす環境設定の方法を教授します。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	自宅復帰・社会復帰に向けた法的諸制度・住環境整備を学ぶ					
行動目標 (SBO)	<ul style="list-style-type: none"> ・住環境設備に必要な法的諸制度を学ぶ。 ・住環境整備の流れを理解し、理学療法士の役割を学ぶ。 ・事例を通して住環境整備を学ぶ。 					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
この授業は、生活環境論Ⅰ・今までに学習した内容を活かし、自宅復帰・社会復帰に向けてどのように結び付けていくかを深めていく授業です。臨床実習でかかわった症例をイメージしながら進められると良いでしょう。						
教科書・参考書						
特になし。授業内容に合わせて、適宜、指示します。						
受講時留意点、その他						
講義や演習、グループワークに積極的に参加すること。 体調管理に留意し、欠席しないようにしましょう。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験						
小テスト						
レポート	100	第6～8回に行った課題を提出していただき、採点します。				
実技試験						
プレゼンテーション						
その他						
(合計)	100					

(R02-カリキュラム)

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	<u>ガイダンス、生活環境論 I 復習</u> 【key word】住環境整備、建築基準法	植田		201
第2回	<u>住環境整備と法的諸制度①</u> 【key word】社会保障制度、	宮上		201
第3回	<u>住環境整備と法的諸制度②</u> 【key word】社会保障制度、障害者福祉、日本国憲法	宮上		201
第4回	<u>住環境整備に関わる理学療法の実際①</u> 臨床で働かれている外部講師を招聘しての授業	松本		203
第5回	<u>住環境整備に関わる理学療法の実際②</u>	松本		203
第6回	<u>住環境整備の実践①</u> 事例を提示します。その事例に適切な住環境整備を検討しましょ う。	植田		203
第7回	<u>住環境整備の実践②</u> 事例を提示します。その事例に適切な住環境整備を検討しましょ う。	植田		203
第8回	<u>住環境整備の実践③</u> 事例を提示します。その事例に適切な住環境整備を検討しましょ う。	植田		203
第9回				
第10回				
第11回				
第12回				
第13回				
第14回				
第15回				
定期試験				

(R02-カリキュラム)

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	授業方法	必修・選択	聴講生受入
専門	臨床実習 V	9	405	実習	必修	—
対象学科	担当教員	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科	大沼賢洋、望月里子、赤岩龍士 森梢、白井英彬、長田美紀	専門分野の評価学、専門分野の理学療法学、専門分野の理学療法実習など				
開講時期	実務家教員による科目の概要 *実務家教員による科目の場合に記載しています。					
4年次 前期	この授業は、臨床の理学療法士および学校教員で担当します。医療施設での実務経験をもとに、患者への理学療法や業務について見学や体験を通して学びを深めます。					
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる (理学療法の対象者との関係性構築) 2. 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動を取ることが出来る (チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割) 3. 理学療法の流れを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明することができる (理学療法プロセスの理解) 4. 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目(水準1)において、1)～3)を実践することができる。 (対象者に対する理学療法実践) 					
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. <ol style="list-style-type: none"> ①清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる。 ②共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築することができる。 ③周囲における自己の存在を意識した行動を行う事が出来る。 ④自らが置かれた立場で、必要とされている要件を認識し、他者や指導者の助言などに対して適切に回答することができる。 ⑤対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自信の感情を制御して接することができる。 ⑥対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りを心がけることができる。 2. <ol style="list-style-type: none"> ①医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる。 ②部門におけるルールを理解し、診療プロセス(処方の確認、計画書、効果判定、カルテの記録、算定手順など)を理解した言動を取ることができる。 ③臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる。 ④積極的に理学療法スタッフや多職種と関わり、良好な関係を構築することができる。 ⑤インシデント・アクシデントが生じた際には実習施設の手順に従って対応することができる。 ⑥守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる。 ⑦臨床実習施設における多職種連携の展開について見学することができる。 3. <ol style="list-style-type: none"> ①検査項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由について説明することができる。 ②検査結果の関連性について説明することができる。 ③対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明することができる。 ④対象者の治療目標を設定し、その設定根拠について説明することができる。 ⑤指導者の助言のもと、理学療法プログラムを選択や、その根拠について説明することができる。 ⑥指導者の助言のもと、理学療法の即時効果を確認し、その内容について説明することができる。 ⑦指導者の助言のもと、実施内容を診療記録に記載することができる。 ⑧指導者の助言のもと、カンファレンスでの症例提示内容について説明をすることができる。 					

(R02-カリキュラム)

行動目標 (SBO)	<p>4.</p> <p>1) リスク管理について</p> <p>①スタンダードプリコーション (標準予防策) が実施できる</p> <p>②バイタルサインの計測を実施できる</p> <p>③意識レベルの評価を見学し、可能ならば実施できる</p> <p>④各種モニターの使用ができる</p> <p>2) 理学療法評価について</p> <p>①情報収集 (診療記録、画像所見、部門内、部門外を含む) を実施することができる</p> <p>②フィジカルアセスメント (問診、視診、聴診、触診) を実施することができる</p> <p>③基本的な検査測定を実施することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形態計測・感覚検査・反射検査・筋緊張検査・関節可動域計測 ・筋力検査・運動耐用力 <p>④姿勢観察を実施することができる</p> <p>⑤動作観察を実施することができる</p> <p>⑥疼痛の評価を実施することができる</p> <p>⑦日常生活活動評価 (手段の日常生活活動を含む) を実施することができる</p> <p>⑧運動器疾患に関する個別検査を実施することができる</p> <p>⑨中枢神経疾患に関する個別検査を実施することができる</p> <p>⑩内部障害に関する個別検査を実施することができる</p> <p>⑪各種発達評価を実施することができる</p> <p>3) 理学療法治療技術について</p> <p>①運動療法を実施することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関節可動域運動・筋力増強運動・バランス練習 ・基本動作練習 (随意性の促通含む) ・移動動作練習・日常生活活動練習 <p>②物理療法を実施することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・超音波療法・水治療法 ・光線療法・牽引療法 <p>③義肢装具療法などを実施することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長・短下肢装具の適合性の確認・長・短下肢装具の調整・福祉用具の選択 ・歩行補助具の使用方法的説明
------------	--

この授業の概要、助言、学習支援の方法 など

臨床実習Ⅴ：360時間 (8時間×40日) + 学内実習Ⅳ45時間 計405時間

この授業は、学外の実習施設へ通い、臨床実習指導者の下で行われます。診療場面に参加し、様々な体験、見学を行います。実習は以下のような方法で行われます。

(1) 診療参加型臨床実習

実習生が臨床実習指導者の助手として、診療補助行為を行うことによって、臨床経験を積んでいく授業形態です。

臨床実習Ⅲの検査・測定、介助に、治療を加えた実習内容となります。指導者が担当している複数の対象者に対し、指導者の指示のもとで治療 (関節可動域運動 等) を実施する経験を積みながら治療技術を習得していきます。

1人の対象者に対し、ある部分は自分で実施し、ある部分は指導者が実施するのを見学する形になります。この過程で当該対象者の障害像を把握し、ゴール・プログラム立案を指導者の指導を受けながら行います。

(2) 実習日誌

行動記録、実習記録 (体験数)、1日の振り返りなどを記載します。

指導者による指導のもと、技術が向上してくると「実施」が増えていきます。「実施」を1つ1つ増やしていくことを目標に取り組みしましょう。

毎日記載して、臨床実習指導者へ提出します (学校指定の書式使用)。

指導者は確認してサインをします。

(3) ポートフォリオ

診療参加型実習中に体験した検査測定や介助の記録や、指導者から指示のあった自宅学習の内容、自己研鑽でまとめた資料等をファイリングします。テーマに沿って資料を整理することで、理学療法の全体像や流れを把握します。

- ・また、毎日、指導者と共に確認し記載するチェックリストも挟み込んでいきます。
- ・記入の際は個人情報の流出に留意し、臨床実習指導者から適切な情報の取り扱いを学びます。

(R02-カリキュラム)

教科書・参考書		
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習教育のの手引き (日本理学療法士協会 編集・発行) ・臨床実習ガイド (本校編集授業資料) ・臨床実習記録 (本校編集授業資料) ・その他、学内授業で活用した教科書 		
受講時留意点、その他		
<p>☑服装は、学校指定のユニフォームとします。ただし、実習施設で指定がある場合それにしたがって下さい。</p> <p>☑実習施設の規則を守り、理学療法学生として適切な行動を心がけて下さい。</p> <p>☑原則的に、土日の開講はありません。ただし、実習施設や実習指導者の勤務の関係で変更となる場合があります。</p>		
成績評価方法		
評価方法	評価割合	具体的な評価の方法、観点 など
定期試験		なし
小テスト		
レポート	*	テーマ「臨床実習施設での多職種連携の展開について」 「臨床実習施設におけるアセスメントから治療の流れ」
実技試験	*	実習前後のOSCEにて採点する。
プレゼンテーション	*	実習後のセミナーにおける発表内容、プレゼンテーションスキルを考慮する。
その他	100	臨床実習前後のOSCEにて採点する。また、臨床実習の総括的評価ルーブリック、臨床実習支援システムの記録内容 (日誌、レポート、チェックリスト)、実習後のレ
(合計)	100	

回数 日付	テーマ・内容・キーワード(KW)・授業時間外に必要な学修等	教員	教科書	教材 教室
第1回	症例提示① 臨床実習で多く経験する症例を1～2例提示する。	大沼 学科教員	実習の 手引き	治療室 機能訓練室
第2回	症例提示② 臨床実習で多く経験する症例を1～2例提示する。	森 学科教員	実習の 手引き	治療室 機能訓練室
第3回	臨床実習準備講座① 実習地の発表、オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。	望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第4回	臨床実習準備講座② 実習地の発表、オリエンテーション 実習手引きを用いて実習の課題や心構えを伝える。	望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第5回	実技指導① 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。	赤岩 学科教員		治療室 機能訓練室
第6回	実技指導② 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。	望月 学科教員		治療室 機能訓練室
第7回	OSCE① 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第8回	OSCE② 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第9回	OSCE③ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室

(R02-カリキュラム)

第10回	OSCE④ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第11回	OSCE復習① 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第12回	OSCE復習② 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第13回 1日目	コースオリエンテーション、診療参加型実習 施設の規則、実習スケジュールなど	臨床実習 指導者		実習施設
第13～50回 2～39日目	診療参加型臨床実習 対象者へ検査・測定・動作介助・治療の見学・体験。 専任教員の実習地訪問(1日のみ)で臨床実習指導者・学生との面談と実習場面の見学。	臨床実習 指導者		実習施設
第51回 40日目	まとめ 40日間を到達度記録を用いて振り返りをし、今後の課題を明確にする。	臨床実習 指導者		実習施設
第52回	実技指導② 提示した症例問題に対し評価・治療を進める。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第53回	実習後セミナー① 実習の振り返りをする。ポートフォリオの整理を行う。 実習課題レポートの作成、発表、討論を行う。	望月 学科教員		203
第54回	実習後セミナー② 実習の振り返りをする。ポートフォリオの整理を行う。 実習課題レポートの作成、発表、討論を行う。	望月 学科教員		203
第55回	OSCE⑤ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第56回	OSCE⑥ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第57回	OSCE⑦ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第58回	OSCE⑧ 提示した症例から1症例に対し評価治療を実施し、行動観察する。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第59回	OSCE復習③ 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。	大沼 学科教員		203
第60回	OSCE復習④ 良かった点、改善点など総評し、実際に模範例を示す。	大沼 学科教員		治療室 機能訓練室
第61回	模擬カンファレンス演習① PT・OT学科合同で、模擬症例の解釈とカンファレンスを行い多職種連携を経験する。	大沼 学科教員		201
第62回	模擬カンファレンス演習② PT・OT学科合同で、模擬症例の解釈とカンファレンスを行い多職種連携を経験する。	大沼 学科教員		講堂